

様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた

教科等の授業改善を通して～

平成30年度 研究紀要 第39集



中学部3年 職業・家庭科
「目指せ高等部Ⅱ
～高等部見学・作業学習体験～」



小学部6年2組 生活単元学習
「やってみよう～うどんやをひらこう～」



高等部2年 家庭科1グループ
「地域の食材と郷土料理②
～横手の野菜を生かそう～」

目次

はじめに

校長 新井 敏彦

全体研究

I 研究の概要	1
---------	---

各学部の実践

I 小学部の実践	12
II 中学部の実践	26
III 高等部の実践	34

参考資料

- ・小学部 「生命・自然」「人との関わり」「役割」の学習内容（例）
単元の目標と評価（例）
- ・中学部 職業・家庭科における指導目標及び具体的な指導内容チェック表
目標達成シート（記入例）
- ・高等部 家庭科指導内容チェック表
フェイスシート（記入例）

- ・資料1 平成30年度キャリア教育全体計画
- ・資料2 授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」
- ・資料3 平成30年度研究用語集
- ・資料4 授業づくり振り返りシート
- ・資料5 単元構想図

あとがき

教頭 松井 克彦

研究に携わった職員

はじめに

横手支援学校では、今年度から、新たな研究主題「様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり～『主体的・対話的で深い学び』の視点を踏まえた教科等の授業改善を通して～」のもと、全職員が一丸となって研究及び実践を積み重ねてまいりました。本校研究の特色を一部紹介します。

- ・新学習指導要領
「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善
- ・知的特別支援学校における教科指導
小学部：「生活科」の目標・内容を押さえた生活単元学習
中学部：「職業・家庭科」
高等部：「家庭科」

全校で取り組むことを基本方針としながら、学部単位を基本とする研究組織のもと、それぞれの研究テーマを設定して、実践研究を進めてまいりました。

各学部研究のキーワードを紹介します。

- 小学部：スパイラル型の学習設定
- 中学部：目標達成シートの活用
- 高等部：フェイスシート（ICFの視点）による実態把握

横手支援学校は、小学部から高等部まで、今年度全校で95名の児童生徒が学んでいる学校です。授業づくりにおいては、横手支援学校の授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」を共通実践事項として、実践を積み重ねてまいりました。

また、平成30年11月28日には、公開研究会を開催し、県内各地や遠く石川県からもご参加いただき、本校の職員が活発に意見を交わすことを通して、有意義な研究会を開催することができました。

この度、本校が取り組んできました実践研究の取組と成果を、本研究紀要にまとめることができました。御高覧いただき、児童生徒にとって学びのある授業となっているか、その学びを様々な場面で活用する取組ができているかなどについて評価していただき、忌憚のない御意見・御指導をいただければ幸いです。皆様からいただきました御指導を今後の取組に生かし、一層実践に励みたいと思います。

最後になりましたが、研究を進めるに当たりまして、懇切丁寧に御指導・御助言をくださいました指導助言の三名の先生方をはじめ、御協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。本校は、来年度、創立40周年を迎えます。今後とも、本校の研究活動に御指導、御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

校長 新井 敏彦

I 研究の概要

1 研究主題

様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり
 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた教科等の授業改善を通して～
 （1年次／2か年）

2 研究主題設定の理由

(1) 主題の捉え

○様々な場面とは

児童生徒の成長、キャリア発達などによって、学習活動や集団、役割などが広がっていく過程での一場面のこと

○学びを生かすとは

学習したことや経験したことが、学びとして定着し、他の場面や状況において活用したり、応用したりできるようになること

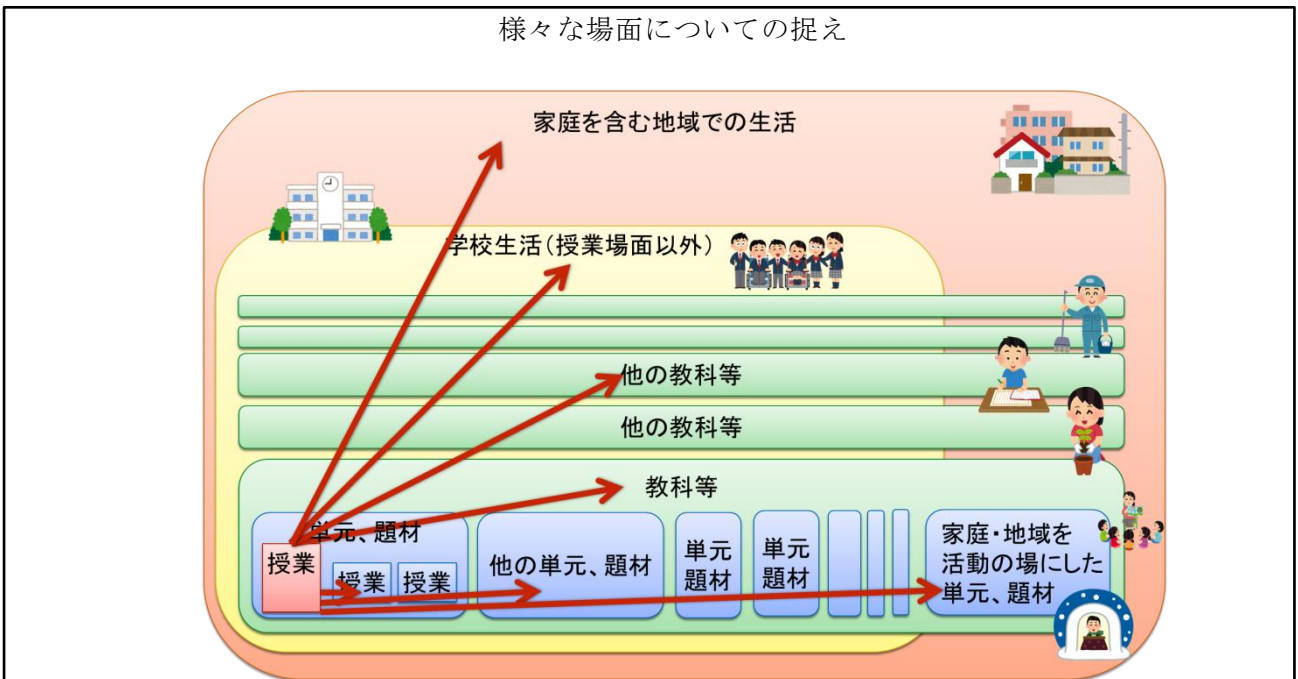


図1 学習場面の広がり

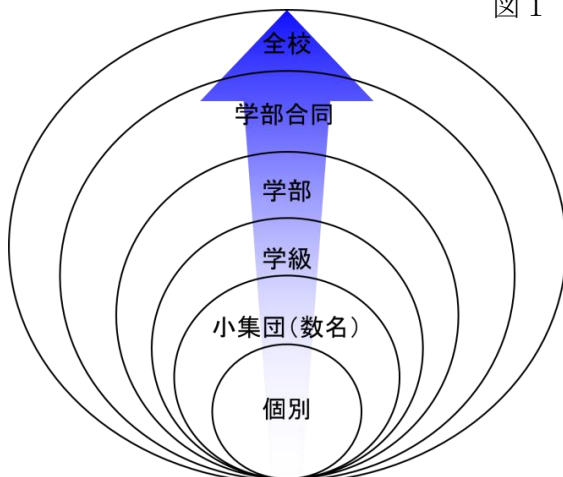


図2 学習集団の広がり

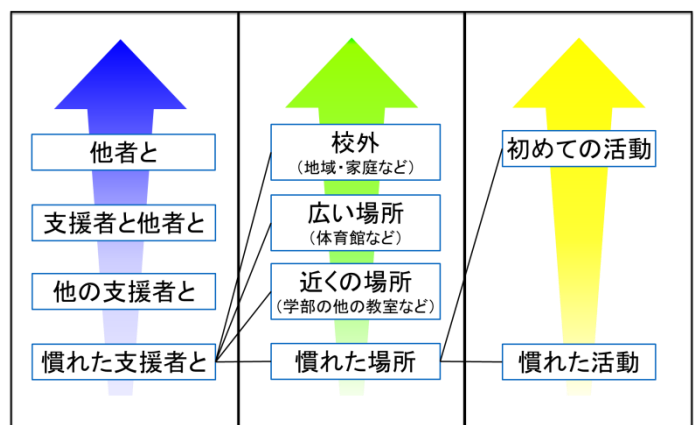


図3 集団参加の広がり

(2) 過年度の研究から

本校では平成27、28年度と2か年に渡り文部科学省の委託を受け、特別支援教育に関する実践研究充実事業として教育課程の編成について研究を推進してきた。この研究でライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成を行い、この教育課程を基にした授業改善に取り組み、「役割を果たす」ことを意識した学習活動を展開することで、児童生徒の変容が見られた。この成果に対して、「役割を果たす」ことが校内に限定されるという課題が挙げられた。

平成29年度はこの課題を受けて、小学部・中学部段階から家庭生活や地域生活を意識した学習内容を段階的に展開することや家庭・地域との連携を早期から段階的・継続的に実施することを目指し中学部、高等部では「職業・家庭科」と「家庭科」を新設、小学部では主に生活科（生活習慣）の指導内容を押さえた日常生活の指導を実施し、教科等の内容を意識し、ねらいを絞った指導を図ることを目的とした授業づくりについて研究を進めた。

この研究を通して、教科等の目標・内容を意識してねらいを絞ることがキャリア発達、キャリア教育に直結するということが明らかになった。

また、新設した「職業・家庭科」、「家庭科」において、各学部、各学年で指導内容の重複があるということが課題として挙げられた。これを受けて、29年度末に連続性のある指導を実現するために、これらの教科の指導内容系統表を作成した。

さらに、家庭を中心とした地域資源を活用した実際的な学習を展開し成果が見られたが、課題として家庭の事情が様々であり、家庭と連携を取りながら学習を進めていくことの難しさも挙げられた。

(3) 学習指導要領の改訂から

今回の学習指導要領の改訂において、児童生徒が未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「何ができるようになるか」ということが明確化された。「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性」の涵養の3つが「育成すべき資質・能力」の柱として再整理された。また、質の高い学びの実現を目指して、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を行うことが求められている。

(4) 研究主題に迫るために

今年度の研究では、小学部では生活科の目標・内容を押さえた生活単元学習、中学部では「職業・家庭科」、高等部では「家庭科」を対象とした授業づくりを行う。学びを生かすためには、前提として学習したことの定着が大切である。そのために、何を学ぶ必要があるかを明確にし、学習によって得た知識・技能が断片的にならないように、「職業・家庭科」、「家庭科」で昨年度作成した指導内容系統表を活用し、授業実践を通してその妥当性を検証し、改善を行う。また、学びを生かす場面について、児童生徒の実態に応じて段階的に活用が広がることを想定した単元計画の作成を行う。次時の授業から他教科、地域での学習といった学習活動の広がりや個別から学級、全校といった集団の広がりなどで活用する場面を細分化して設定し、実践的で具体的な経験を積み重ねていく。この学びを生かす経験を積み重ねることが、最終的には学びを家庭や地域で生かすこと、自立と社会参加につながると考える。

これらの取組をより効果的に進めるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行う。その際に、これまでの授業づくりから得られた成果や「横手のスタンダード」などの成果物も活用しながら、本校の特色を生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現について、授業実践を通して、全職員で検討し、共通理解していく。

(5) 2年目への見通し

- ・学びを生かすためには、学部間をつなぐ学びの連続性や教科等の結び付きを大切にした教科等横断的な学習の展開が必要である。今年度で得た成果を他教科や生活単元学習などの合わせた指導にも反映させ、学びを活用する経験を広げていく。
- ・今年度の実践を通して、児童生徒の学んだ内容が他の場面で生きる学びとして定着しているか、他教科などで生かされているか、広がりの中で発揮されているかについての評価の方法について検討し、検証を行う。

3 研究仮説

段階的で連続性のある指導計画を作成し、集団や活動場所の広がりや「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行うことで、児童生徒が様々な場面で学びを活用することができるようになるのではないかと期待する。

4 研究の内容と方法

(1) 取組の内容と方法

① 授業づくり

ア 段階的で連続性のある指導計画の作成

段階的で連続性のある学習が展開できるように、小学部においては生活科の目標・内容を押さえた年間指導計画の作成を行う。中学部、高等部においては昨年度作成した指導内容チェック表を活用した年間指導計画の作成を行う。それぞれの学部において、定期的に指導内容検討会をもち、指導内容の検証と改善を行う。

イ 授業改善コーディネーターを活用した単元構想会の実施

「主体的・対話的で深い学び」の実現を見通した単元計画、学びの活用の広がりなどをポイントにした単元構想図を作成する。単元構想図を基に目標や活動内容の妥当性、単元実施に向けた具体的な手立てなどについて授業改善コーディネーターを交えて単元構想会をもち、検討する。

ウ 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業研究会の実施

学習指導案については、評価の3観点や「主体的・対話的で深い学び」の手立てや評価を盛り込んだ様式にする。また、「主体的・対話的で深い学び」を、授業づくりの重点として設定するとともに、研究協議の視点として位置付け成果や改善点を検討する。

② 職員研修

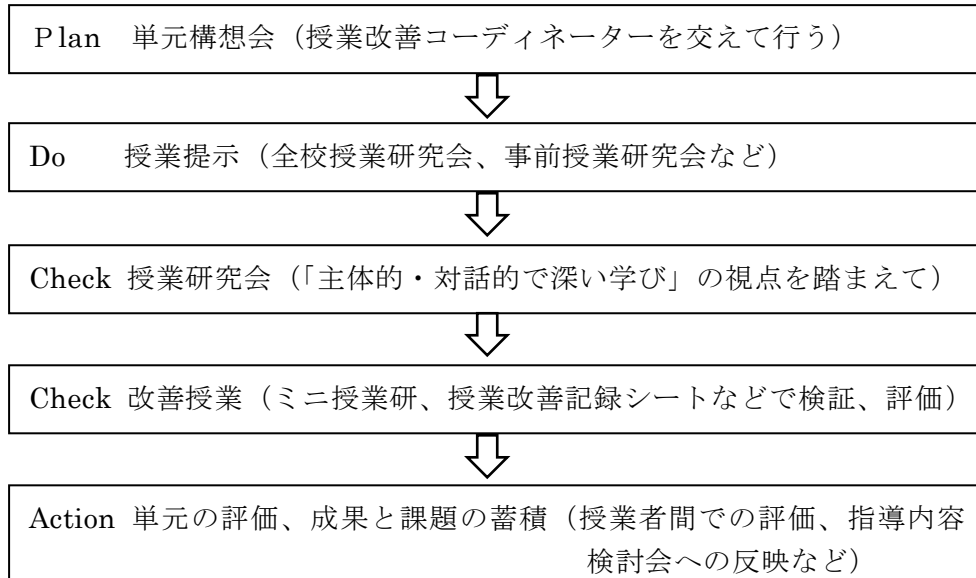
研究内容と関連して、新学習指導要領と教科指導についての全校研修会を実施する。また、日々の授業実践に活用できる研修内容として、ICT活用と自立活動についての全校研修も行う。新学習指導要領の趣旨や要点についての研修は、必要に応じて学部研究会などでも情報提供を行い、早い時期での共通理解を図る。

また、授業研究会などを通して得られた成果などを基に、本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた具体的な方策や留意点を全職員で共有できるようにする。

(2) 授業改善の流れ

研究の対象となる指導の形態は小学部：生活単元学習 中学部：職業・家庭科 高等部：家庭科とする。

対象となる指導の形態について、3学部とも全ての学習グループにおいて、授業提示と授業改善を行う。



(3) 研究計画

研究計画については以下の表1のとおりである。

表1 研究計画

実施時期	実施内容
平成30年 4月	・研究部会 (研究の方向性検討) ・全校研究会① (研究内容の検討、意見交換)
5月	・拡大研究部会 (研究の方向性確認) ・全校研究会② (研究の方向性確認、共通理解) ・指導内容検討会① (年間指導計画の確認、指導内容の検討) ・学部研究会① (学部研究の共通理解) ・職員研修会① (ICT機器の活用について)
6月	・学校評議員会① (研究内容の説明と評価依頼) ・ミニ授業研究会 (~12月) (各学習グループの授業研究)
7月	・学部研究会② (学部研究の進捗状況確認) ・職員研修会② (自立活動について) ・教育課程検討委員会 (1学期の評価及び改善案検討) ・全校授業研究会① (中学部授業研究と学部研究推進状況の報告)
8月	・全校研究会③ (進捗状況と推進の方向性の確認) ・職員研修会③ (新学習指導要領について)
9月	・全校授業研究会②③ (小・高授業研究と学部研究推進状況の報告) ・学部研究会③ (研究推進の中間評価) ・職員研修会④ (教科指導)
10月	・学校評価委員会 (前期の評価及び後期改善案の確認) ・公開研究会事前授業研究会①② (小学部、高等部の授業検討)
11月	・公開研究会事前授業研究会③ (中学部の授業検討) ・学部研究会④ (授業実践の成果と課題の確認、公開研究会に向けた学部研究の確認) ・公開研究会
12月	・職員会議 (紀要原稿作成について)
1月	・学部研究会⑤ (学部研究のまとめ) ・学校評価委員会 (研究推進の評価及び次年度への改善案の確認)
2月	・全校研究会④ (全校研究の成果・課題の共有、来年度の方向性について) ・研修報告会 (先進校視察などの情報共有) ・学校評議員会② (研究推進への評価) ・研究紀要の作成 (研究のまとめ、校外への発信)

(4) 研究組織

研究組織については以下の図4のとおりである。

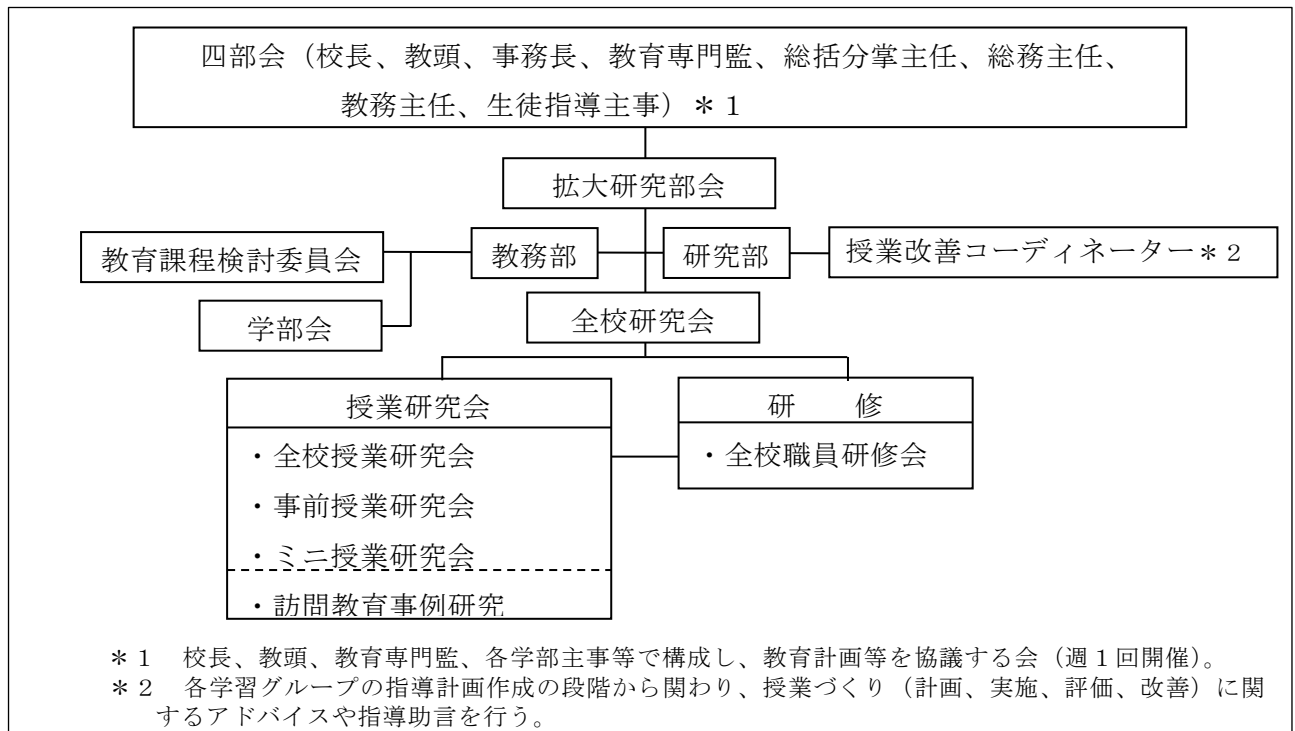


図4 研究組織図

5 取組の実際

(1) 授業づくり

① 段階的で連続性のある指導計画の作成

昨年度同様、年度当初に児童生徒各個人について年度末に作成した「次年度育てたい力」の妥当性を各担任間で検討し、各学部の今年度のキャリア教育の重点との関連を考慮した「育てたい力」の明確化を行った。この「育てたい力」は個別の支援計画の重点目標、個別の指導計画の各指導形態における目標などに反映させるとともに、各指導の形態の年間指導計画を作成する際の指標としても活用した。

また、中学部の「職業・家庭科」、高等部の「家庭科」の年間指導計画を作成する際には指導内容チェック表を活用し、前年度の既習内容の確認を行い、本年度の具体的な指導内容について計画の立案を行った。

小学部の生活単元学習の年間指導計画の作成においては、年間指導計画の作成前に生活科の内容との関連を確認する機会を設け、その内容を踏まえた計画を作成した。

また、指導内容チェック表の妥当性や各学習グループの年間指導計画の妥当性、他学年との関連や連続性を確認するために、中・高等部において年間指導計画作成直後の5月、1学期終了後の7、8月に「指導内容検討会」を行った。今後も定期的実施する予定である。

② 授業改善コーディネーターを活用した単元構想会の実施

「主体的・対話的で深い学び」の視点を意識した題材・単元の構想を行うことができるように、単元構想図の様式を変更した。

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して「主体的・対話的で深い学び」がバランス良く実現されるように、題材・単元計画に「ねらいに迫るための学び方」を記入する欄を設けた。また、「主体的・対話的で深い学び」自体が目的ではなく、育成を目指す資質・能力に基づいて立てられた単元や本時の目標を達成するための学び方であるということ意識で

きるように、3つの学びでの手立てを記入し、それぞれの手立ての中央に単元・題材の目標を配置した。

単元構想会では、「主体的・対話的で深い学び」や学びの活用の広がりとの視点と同時に、単元の目標と年間指導計画や個別の指導計画の目標との整合性についての視点についても検討を行い、必要に応じて年間指導計画の目標、内容の修正や個別の指導計画の目標の具体化などが行われた。また、実施する単元・題材と学習指導要領の各教科の目標・内容との照合（中学部、高等部）や合わせた指導の形態の確認、生活科の目標・内容の取り入れ方（小学部）などについて、授業改善コーディネーターを交えて検討を行った。さらに、本校の授業づくりの要点をまとめた冊子である「横手のスタンダード」（別冊資料参照）をベースとした話し合いも行われ、特に「単元を通して育てたい力が明確になっているかどうか」ということについての検討が行われ、児童生徒の学びを明確にし、より目標を具体化するという方向での改善が行われた。単元構想会の実施状況は以下の表2の通りである。

表2 授業研究会の実施状況

研究会名	学部・学年・グループなど	回数
ミニ授業研究会	小学部 1年1組、2組 2・3年1組、 4・5年1組、6年1組	12回
	中学部 2年合同	
	高等部 1年家庭1グループ、2グループ 2年家庭2グループ、3グループ 3年家庭2グループ、3グループ	
全校授業研究会	小学部3年1組、中学部1年合同、高等部3年家庭 1グループ	3回
公開研究会	小学部6年2組、中学部3年合同、高等部2年家庭 1グループ	3回

③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業研究会の実施

「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を進めるため、学習指導案について様式の変更を行った。

授業における学びを明確にすることを目的として、題材・単元の目標、本時の目標、個別の目標を新学習指導要領に基づいた学習評価の観点である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つで設定し、記載した。また、単元構想図と同様に「主体的・対話的で深い学び」がバランス良く実現されるように、題材・単元計画に「ねらいに迫るための学び方」を示した。

授業研究会において、グループ協議の際に秋田県立比内支援学校の実践を参考に「主体的・対話的で深い学び」の視点をYチャート状に配置した付箋紙法での改善案の協議を行った。単元構想図と同様に、模造紙の中心に単元の目標と本時の目標を置き、「主体的・対話的で深い学び」が単元や授業の目標を達成するための学び方であるということ意識して協議を行うことができるようにした。（図5）

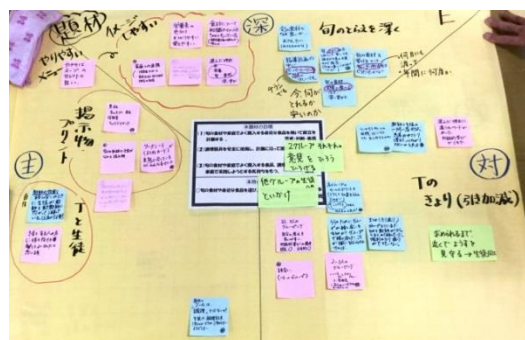


図5 高等部全校授業研究会協議用紙

③公開研究会の実施

平成30年11月28日に公開研究会を実施した。秋田県教育庁特別支援教育課中村素子、佐々木朋広両指導主事、秋田県立角館高等学校定時制課程大沢貴子教育専門監には全校研究会、公開研究会事前授業研究会、公開研究会当日と複数回の指導助言を依頼し、授業づくりについて指導していただいた。公開研究会当日の各分科会においては前述したYチャートを用い、提示授業について改善案の協議を行った。分科会の概要については以下の通りである。

提示授業	授業参観の観点	今後の課題(指導助言などから)
小学部6年2組 生活単元学習 「やってみよう ～うどんやを ひらこう～」	スパイラル型の学習を通して、学びの活用や気付きにつなげる工夫 ・既習の学びを使って、おいしいうどんを作るめあてやめあてを達成する方法を考える学習	・「単元計画の目標一覧表」を活用した、様々な形のスパイラル型の学習の検討 ・生活科を中心に据えた生活単元学習の授業作りにおける「授業作りの要点」の整理
中学部3年合同 職業・家庭科 「目指せ高等部Ⅱ～高等部見学・作業学習体験～」	「目標達成シート」を活用した学びを生かす工夫 ・「付きたい力」を考えることをめあてとして明示 ・目標達成シートとのつながりを考える場面の設定	・「職業・家庭科」で何を学び、何を身に付けるか、内容を明確化 ・教科としての「見方・考え方」を意識した授業づくり
高等部2年家庭 1グループ 「地域の食材と郷土料理②～横手の野菜を生かそう～」	フェイスシートで導かれた環境の工夫 ・男女ペアでの意見交換場面の設定 ・思考の経過が分かる意見交換後の視覚的提示 ・自己選択・自己決定を促す選択場面の提示	・「家庭科」を教育課程に位置付けた理由を踏まえた題材計画の工夫 ・題材のゴールを起点にして、題材全体を通して文脈のある学習の流れや課題を設定



(2) 職員研修

① 研究用語集

新学習指導要領の改訂の趣旨と要点や本校研究と新学習指導要領の関連について共通理解を図るため、研究用語集を作成し、全校職員に配付した。「育成を目指す資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」などについて要点を整理し、本校研究との関連性を端的に記載した。単元構想や授業研究会の際の資料として活用した(別冊資料参照)。

② 全校職員研修会

これまでに4回の全校職員研修会を実施した。それぞれの研修会の目的や内容については以下の通りである。

○ICT活用研修会（5月）

目 的
ICT活用に係わる教育実践の紹介やグループウェアなどの演習を通して、教員の知識技能、実践力向上を図る。
主な内容、研修会の様子
昨年度の本校でのICT活用実践事例について、各学部から報告を行った。パワーポイントを活用した朝の会についての事例やビジョントレーニング用のアプリケーションを活用した事例、AACとしてVOCAのアプリケーションを活用した事例など、児童生徒が主体的に学習に向かうためにICT機器を効果的に活用した事例を紹介した。

○自立活動研修会（7月）

目 的
自立活動について、新学習指導要領の改訂の趣旨やポイントを学び、ICFの考え方とその視点を理解する。
主な内容、研修会の様子
新学習指導要領における改訂の趣旨やポイントについて共通理解を図った。また、高等部研究で実践しているフェイスシートの作成を通じた実態把握から支援方法の検討までのプロセスについて、他学部の職員も抽出児童について体験するワークショップ型の研修を行った。児童生徒の良さや長所に着目し、「できる」環境を調整することの大切さを共有することができた。

○「主体的・対話的で深い学び」についての研修会（8月）

目 的
先行研究校の実践報告を基に、本校における「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりについて、協議し、共通理解する。
主な内容、研修会の様子
「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりについて、先行研究校である秋田県立比内支援学校の研究主任進藤拓歩教諭を講師として迎え、比内支援学校の昨年度からの全校研究概要についての講演を実施した。「子どもが何を学んだか」を多面的に評価する仕組、年間指導計画の検討会などの全校職員が参画するカリキュラム・マネジメントの取組など、本校が今後取り組むべき課題について道標となる内容であった。 講演後は、知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についてのグループ協議を行った。全校職員に対して、事前に「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて授業実践を行う上での疑問点や悩みなどについてアンケートを取り、その中から協議題を数点に絞って話し合った。

○授業づくりについての研修会（9月）

目 的
授業づくりの要点について振り返り、授業改善及び充実を図る。
主な内容、研修会の様子
9月までに行われた授業研究会を通して明らかになった「授業を通して育てたい力の明確化」や「ねらいとめあて、振り返りの整合性」などの授業づくりの課題を踏まえ、「横手のスタンダード」で要点を振り返り、授業づくりに生かすことを目的に研修を実施した。本校教頭 近田浩治を講師とし、演習を交えながら授業づくりの基礎・基本についての再確認と共通理解を図った。

③ 教科指導の研修（小中学校授業参観）

教科指導力の向上を図るため、小中学校の指導主事計画訪問など授業研究会への職員参加を積極的に行った。参加状況は以下の表3の通りである。

表3 小中学校授業参観の実施状況

期 日	学 校	学 年	教科等	参加人数
7月 4日	横手市立浅舞小学校	2年	国 語	3名
7月10日	横手市立浅舞小学校	1、2年	算 数	2名
7月12日	横手市立十文字第二小学校	5年	家 庭	3名
7月19日	横手市立浅舞小学校	1年	道 徳	3名
10月26日	横手市立浅舞小学校	横手市教育推進委員会「言語活動の充実による学力向上推進事業」 公開研究会		1名
	横手市立吉田小学校		1名	
	横手市立平鹿中学校		1名	
11月13日	横手市立栄小学校	1、3年	国 語	2名
	横手市立植田小学校	1、2年	生 活	2名
11月30日	美郷町立仙南小学校	5年	家 庭	3名
12月11日	横手市立睦合小学校	2、3年	道 徳	6名
12月20日	秋田県立横手清陵中学校	2年	家 庭	6名

6 成果と課題、今後の取組について（公開研究会までの実践から）○は成果、●は課題を示す。

(1) 集団や活動場所の広がり意識した授業づくり

○様々な場面で学びを生かすことについて、全校研究としての捉えを明確にすることで、各学部段階でその捉えを受け、具体的な研究の重点を決定することができた。小学部では繰り返しの学習活動の中で学びを積み上げていく「スパイラル型の学習」の設定、中学部では自己理解を深め、環境などの変化に対応できる力を培うためのツール「目標達成シート」の活用、高等部ではできる条件や環境を整理し、周囲と関係を調整する力を育成するためのICFの視点を取り入れた実態把握のツール「フェイスシート」の活用などを取組の重点に据え、学部研究会などで共通理解しながら、学部として一貫した授業づくりを行うことができた。これらの取組を通して、様々な場面で学びを活用することについての児童生徒の変容が見られた（詳細は各学部研究概要参照）。

●学びを生かすことにつながる「児童生徒自身が授業で学ぶことの意義を感じ、学んだことを実感する」ことの重要性について、繰り返し全校職員に示し、共通理解を図ってきた。しかし、その具体的な手立て、特に授業のめあての提示の仕方に難しさを感じた。単元や本時の目標を児童生徒が理解する形で提示することや実態差がある場合の提示の仕方、学習の流れやめあての達成方法まで盛り込んだHowTo型のめあての設定などについての実践がなされたが、いまだ十分な手応えを得られていないという現状である。この課題については、多くの職員による多様な視点での授業検討や外部講師による職員研修、各授業研究会で得られた成果を全校に周知し他の授業に生かすなどの方策で対応していく。

(2) 段階的で連続性のある指導計画の作成

○「指導内容チェック表」の活用や単元構想会などを通して、既習内容とのつながりを確認し、学びの積み重ねを意識した連続性のある指導計画の作成をすることができた。また、指導内容検討会を通して、指導内容や年間指導計画を見直し、他学年との連続性を考慮しながら、年度途中での指導内容、年間指導計画の評価・修正が図られた。

●学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を意識するようになってきてはいるものの、各教科の各段階の取り扱いや小学部生活科の「役割」と中学部「職業・家庭科」家庭分野における「家庭生活と役割」との関連などの指導の系統性や連続性などについて、統一感のないまま、曖昧なままで指導を行っているという現状が見られる。知的障害特別支援学校の特色である児童生徒の実態に合わせた目標設定、学習内容の選定を基本にしながら、教科指導における各段階や各学部の系統性、順序性についてより具体化して共通理解する必要性を感じた。現在、研究部内で本校の「生活科」、「職業・家庭科」、「家庭科」の「指導内容系統表、段階表」作成検討ワーキンググループを立ち上げ、現在使用している指導内容チェック表との関連も含めて、検討を行っている。

表4 中学部「職業・家庭科」指導内容段階表（試案）の抜粋

中	高	第4段階（中1段階）	第5段階（中2段階）
A 家族 ・ 家庭 生活	家族 の 役 割	ア 自分の成長と家族 (ア)自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。 (イ)家族とのやりとりを通して、家族を大切にす る気持ちを育み、よりよい関わり方について気付 き、それらを他者に伝えること。	ア 自分の成長と家族 (ア)自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解す ること。 (イ)家族とのやりとりを通して、家族を大切にす る気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現す ること。
		・具体的に自分の成長に気づく。	・自分の成長を理解し、自分にできることを喜ぶ。
		・家族の大切さを考える。	・家族の大切さを考え、感謝の気持ちをもつ。
		・家族とのよりよい関わり方を知る。	・家族とのよりよい関わり方に気づく。
		・中学生とは、どのような時期であるか知る。	・大人になるということについて考えをもつ。
		・自分がどのような大人になりたいか考える。	・自分の将来就きたい職業について考える。
		イ 家庭生活と役割 (ア)家庭における役割や地域との関わりについて 関心を持ち、知ること。 (イ)家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に 気づき、それらを他者に伝えること	イ 家庭生活と役割 (ア)家庭における役割や地域との関わりについて調べ て、理解すること。 (イ)家庭生活に必要なことに関して、家族の一員とし て、自分の果たす役割を考え、表現すること。
		・自分の一日の過ごし方を知る。	・家族の一日の過ごし方に気づく。
		・家族での立場・役割を知る。	・家族や地域での立場・役割を理解する。
		・家庭には様々な仕事があり、自分や家族の生活 を支えていることに気づく。	・家庭には様々な仕事があり、家族が協力し分担する 必要があることに気づく。
		・家族が互いに支え合っていることに気づく。	・自分の成長を支えてくれる家族の存在に気づき、感 謝の気持ちをもつ。
		・自分が認められていることを知る。	・自分が認められていることに気づく。
		・自分ができることを知る。	・身の回りのことを自分で行う。
		・自分にできることを行うことによって、自分の 役割をもつ。	・自分の役割が家族の役に立つことを実感し、自分な りに工夫して行う。
		・自分と家族の関係性に気づき、家族団らんに参加 する意義を知る	・家族団らんは、一人で楽しむ時間だけでなく他者と 共有する大切な時間であることを理解する。
・家族の一員として自分の存在感に気づく。	・家庭で、自分が担うべきことや期待されていること に気づく。		
・地域の店と町探検(学校周辺調べ)	・地域の店と町探検(学校周辺調べ)		
ウ 家庭生活における余暇 (ア)健康や様々な余暇の過ごし方について知り	ウ 家庭生活における余暇 (ア)健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実		

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくり

○「主体的・対話的で深い学び」の視点は学習指導要領解説で示された「過去の優れた授業改善などの取り組みに共通する普遍的な要素」であるという考え方を踏まえて、全校授業研究会、事前授業研究会などで研究協議の視点として協議を行ってきた。こうした取組を経て、「主体的・対話的で深い学び」の視点を職員自身のこれまでの手ごたえのあった良い実践と結び付けて、授業づくりに生かすことができた。

- 多様な実態にある本校の児童生徒一人一人についての「主体的・対話的で深い学び」について、各学習グループで検討がなされた。特に、表出の少ない児童生徒の「主体的な学び」、言葉による対話が成立しにくい児童生徒の「対話的な学び」、障害の重い児童生徒にとっての「深い学び」をどう設定するかについてそれぞれの授業で活動や手立ての工夫がなされてきた。「児童生徒の実態に合わせた学びの形を多様に想定し、児童生徒一人一人の具体的な学びの姿を想定する」ことが大切であるということ協議などを通して共通理解した。

以下に研修会や授業研究会で協議された「主体的・対話的で深い学び」を実現するための有効な手立てについて、その一部を示す。

表5 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための有効な手立ての一部

- ・「待つ」「見守る」「考える場面や機会を確保する」を大切にする。
- ・本時の学びが「次の成功への体験的な学び」となるような単元構成を行う。
- ・「対話」の形について、実態に応じて多様な考えで活動を設定する。(意識する、模倣する、関わりを受け入れる、一緒に行うなど)
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目標に迫る手段として考え、授業のねらいの達成を目指す。

(4) 教科指導について

○ 中学部、高等部では「指導内容チェック表」を確認する過程で、学習指導要領の各教科の目標・内容を参照する機会が増え、より深く読み込むことで、職業と家庭の各分野の関連や他の指導の形態との関連性を明確にして、指導目標や内容を設定しようとする意識の向上が見られた。小学部では授業づくりの中で合わせている教科の目標・内容を明確にする作業を通して、生活科の目標を基に学びを明確にし、根拠を求めようとする意識が見られるようになってきた。

● 「職業・家庭科」、「家庭科」の授業展開についての課題が挙げられた。「導入では、着席して全員でめあてを確認する。終末でも着席してまとめと振り返りを行う。」といった教科別の指導へのある種の「固定観念」など教科指導についての経験不足などから、これまで生活単元学習などで授業を組み立てる際に重視していた、意欲を喚起する導入部の工夫や興味・関心に基づいた題材の選択、児童生徒の長所を取り入れた学習活動の展開などの特別支援教育の良さが十分に生かされていない実践が見られた。

(5) カリキュラム・マネジメントの視点から

○● 今回の研究では学部のキャリア教育の重点を踏まえた児童生徒の育てたい力の作成や単元における育てたい力を受けて、個別の指導計画や年間指導計画の目標を修正・改善する取組、指導内容検討会で指導内容や年間指導計画についての改善などカリキュラム・マネジメントにつながる取組が含まれている。職員一人一人がこれらの取組が教育課程の改善につながるものであるという意識をもち、教育活動に関わる職員全員が教育課程を共通理解するために、本校で実施している教育課程の編成、評価、改善の様々な仕組を見通し、構造化してそのつながりを全職員に周知する。加えて、教科横断的な視点で年間指導計画を立案、修正することについてもその方法を検討する。他分掌と連携し、それぞれの役割を明確にした上で、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指していきたい。

I 小学部の実践

1 研究テーマ

スパイラル型の学習を通して学んだことを他の場面で発揮する児童を育む
～生活科の目標・内容を押さえた生活単元学習の実践を通して～

2 テーマ設定の理由

(1) 児童の実態

小学部の児童は、身辺自立の面ではほぼ自立している児童や教師の指差しや言葉掛け、手順表などを頼りに活動する児童、また、肢体不自由を併せもち、日常生活全般で支援が必要な児童と、実態は様々である。コミュニケーション面でも、言葉でやりとりする児童、単語や指差しなどで自分の気持ちや要求を伝える児童、表情や発声で快・不快等を表す児童と様々な実態の児童が在籍している。

昨年度の研究実践から、朝の活動や朝の会を通して、集団の中で友達と関わろうとする姿や、身の回りのことや係活動について一人でできることが増え、達成感を感じることで、意欲的に活動に取り組み進んで役割を果たす姿が見られるようになった。

(2) 今年度の研究

昨年度の研究では、自分の役割を果たすことを通して、集団の中で他者と関わろうとする姿を目指し、生活科の生活習慣の指導内容を押さえた日常生活の指導に焦点を当てた授業づくりを行った。ここでは、役割を果たす場面や、他者と関わる、協力する場面を設定し、達成できたことを自分や友達、教師と評価する経験を積み重ねることで、児童が自ら考えやり方を工夫して役割を果たし、学級集団の中で思いを伝える力が伸びたという成果が得られた。

今年度は、生活科の目標や内容を押さえた生活単元学習の授業づくりを行う。生活単元学習は「生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために」、「自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習する指導の形態であり、指導に当たっては、「具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること」を目標とする生活科の内容を取り上げることが多い。生活科のねらいや内容を理解し、学習や指導の根拠として学習を展開していくことで、確かな学

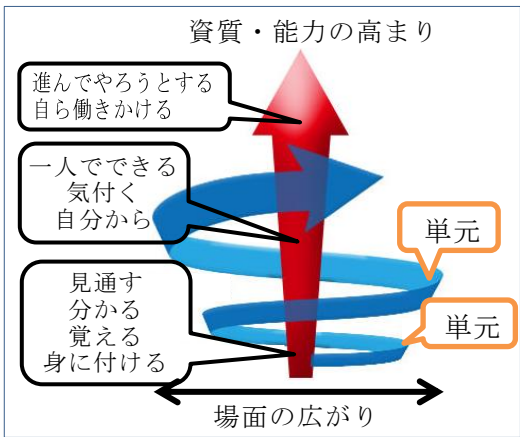


図1 スパイラル型の学習のモデル

び、つまり目指す資質・能力を育むことにつながると考えた。生活科の取り上げる内容と、どのような資質・能力の育成を目指すのか（何ができるようになるか）を指導のねらいとして明確に設定し、目標を焦点化、細分化させ、学習内容（何を学ぶか）を、繰り返しの中で少しずつレベルアップさせながら、段階的に積み重ねられるようスパイラル型に計画する。その中で「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行うことで、児童が活動を見通し、理解し、できる力を伸ばし、学びを定着させていくことができると考える。また、学んだことを学級集団以外の場面で発揮できる活動も計画に取り入れ、確かな学びが得られたかの評価を細かく見取り、児童が教科の「見方・考え方」を生かし働かせながら活動に取り組めるよう指導計画や指導方法を評価・改善していく。

3 研究仮説

生活単元学習において、スパイラル型の学習（同じ課題の設定と構成を繰り返し、学習内容を高めていく学習）の指導計画を作成し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行い、学びの定着を図ることで、児童が学んだことを他の場面で活用することができるようになるのではないかと。

4 研究の計画

月	日	主な活動及び予定
5	29	学部研究会①（全校研究の確認と今年度小学部で目指す姿及び授業について）
7	23	単元構想会（6年1組）
7	25	学部研究会②（対話的学び及び深い学び、中心目標の表の作成と活用の確認）
8	21	単元構想会（3年）
8	23	単元構想会（1年1組）
8	31	ミニ授業研究会（6年1組） → 9 / 11 改善授業
9	12	ミニ授業研究会（1年2組） → 9 / 19 改善授業
9	13	単元構想会（1年1組）
9	20	学部研究会③（全校授業研究会の検討等）
9	26	全校授業研究会（3年） → 12 / 13 改善授業
9	28	単元構想会（6年2組）
10	12	ミニ授業研究会（1年1組） → 10 / 22 改善授業
10	19	単元構想会（4・5年）
10	31	事前授業研究会（6年2組）
11	13	学部研究会④（公開研究会に向けて）
11	16	ミニ授業研究会（4・5年） → 12 / 7 改善授業
11	28	公開研究会（6年2組） → 12月中改善授業
1	22	学部研究会⑤（今年度のまとめ、来年度の方向性の確認等）

5 研究の実際

(1) 教育課程の検討（4月、7月、9月、12月、3月 学部全職員で実施）

①学部会における検討

今年度の教育課程について、学部の経営方針、努力事項、学部のキャリア教育の重点、週時程等を確認し、共有した。

②アンケートによる成果と課題の整理

今年度の教育課程について、学期ごとの実践を振り返り、アンケートを元に学部職員で成果と課題、改善点を整理した。次年度の教育課程についても協議し、確認した。

(2) 小学部で育てたい力の検討と共有（4～6月 学部全職員又は学年で実施）

①学部会・学部研究会における協議と共通確認

学部研究会、学部会で、学年ごとに育てたい力を協議し、生活単元学習において目指す姿（育てたい力）を次のように共通確認した。

○他の場面【人（友達、先生、家の人、身近な人）、教科の学習（国語、算数、音楽など）、場所（小・中学部校舎、高等部校舎、学校周辺、校外学習の場所、家、家の近所）、集団（学年、学部、全校、遊びの指導、特別活動の場所など）、次の活動（一つ上の目標、単元の目標）、他の活動（単元の学習以外の日常活動など）】において、学んだことを以下のように発揮する姿

- ・安心して笑顔で活動に取り組む
- ・自ら活動に取り組む
- ・名称が分かり、覚えて伝えたり使ったりする
- ・役割を果たす
- ・友達と頑張りを喜び合ったり手伝ったりする
- ・人とのやりとりができる
- ・ルールを守って友達と活動する

②年間指導計画の検討（学年又は学級）

生活単元学習の年間指導計画を作成する際に、生活科の目標と内容を押さえ、効果的に繰り返しや学習の積み重ねができる指導内容や単元構成、目標を検討し、計画を立案した。

③スパイラル型の学習の捉えの確認

スパイラル型の学習とは、同じ課題の設定と構成を繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく学習（学習する内容のレベルを上げながら理解を深化させる学習）である。小学部では、同じような活動の繰り返しの中で、目標をレベルアップさせながら、知識や経験を積み重ねていく学習スタイルと捉えている。繰り返しの積み重ねは単元ごと、一単位時間ごと、又はそれらを合わせた形などが想定されるが、各学年や学級の児童の実態などに応じて設定するものとした。

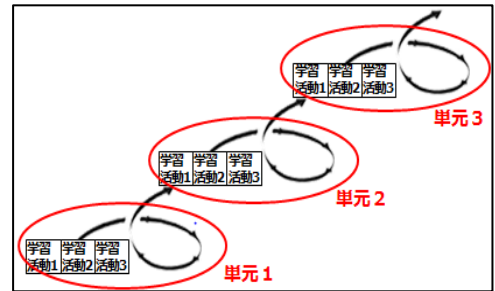


図2 スパイラル型の学習の展開例

(3) 生活単元学習の授業づくり（7月～ 学級ごとに実施）

①単元構想会及び指導案検討会の実施

ミニ授業研究会、全校授業研究会、公開授業研究会における単元構想会を実施し、単元構想図を基に、授業改善コーディネーターから助言を受けながら授業づくりについて話し合いを行った。取り入れる生活科の項目や内容、目標を確認し、育てたい力（単元で身に付けたい力）を明らかにした。また、年間指導計画や単元計画を基に、どのようなスパイラルを設定してねらいに迫るかについても確認、検討を行った。授業改善コーディネーター、研究主任からの助言を基に、指導案検討や実際の授業の手立ての検討を行った（学年又は学部全職員）。

②単元の全時間の主な目標の設定

単元の主な目標に関わる授業についての目標を一覧にした。一単位時間ごとの目標の積み重ねが単元の目標の達成につながるように、繰り返しの活動の中でも目標がステップアップされて積み重なっていくように、つながりや段階を意識しながら作成した。また、授業後に評価を行い、目標や学習内容の妥当性についても評価し、次の単元の学びにつなげた。

図3 単元の目標一覧表の例

対象児童	小学部5年1組	単元名
単元目標	自分なりの方法で伝えたいことを表現して伝え、相手の話を聞いてまのたりまのたりと人の様子を、地域のパン屋さんの様子や話の仕方、公共の交通機関の使い方を、パン作りに関わる一連の活動を楽しみ、通んで取り組む。[範囲]	
単元計画及び評価（単元の目標について）	9/29(水)5	9/29(水)6
活動内容	パンで作りたての形を決める。小表樹粘土で作る。	動物や植物の形や長さなどを比べる。パン屋さんへの質問を決める。小表樹粘土で作る。
本時の目標	作りたてパンを考えたり、選んだりして、指差しや言葉で伝えたりする。	動物や植物の形や長さや形の違いに気づき、指差しや言葉で伝える。相手の顔をみてあいさつしようとする。パン屋さんに関心したいことを考えたり選んだりする。
教師と児童と	教師と児童と	教師と児童と
本時の評価	「お歌や話すことで伝える表現や感情を言葉や図画で伝えたり、イラストや教師の手本を見ながら作った。自分の表現を、友達の評価が	ポイント部分から、図画に付いた動物の顔や手足の動きや表情の観察の目まはかりで見えたり、聞き取りや質問を繰り返して、聞き取れた言葉や質問の答えを確認し、相手に自分と関係

③授業研究会を通して得られた授業づくりの要点

- ・児童が前時までの学習のつながりを意識し、学習内容の意味や目的、必要性（何のために）が分かり、意欲や期待感をもって学習に取り組もうとする導入の工夫
- ・育てたい力（資質・能力）を絞り、明確にした授業設計
- ・児童が考え、気付き、自ら発言や行動をするような、活動内容や教師の待つ支援
- ・児童が学びを深められるような、前時までの学びを基にして考える活動設定や踏み込んだ発問の工夫
- ・児童が導入で考えた（気付いた）方法等を結果や成果と結び付けて評価する（〇〇したことで□□できた）ことで学びの活用につなげるまとめの工夫

④授業研究会から ※授業研究会から得られた授業改善の要点など（抜粋）

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【ミニ授業研究会】 6年1組 単元名「やってみよう～パンダのぱんやさん～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動予定表の提示と前時の学習を生かす学習構成とまとめて般化できるような働き掛け。 ・自己評価できるための工夫（iPadの使用）と待ち時間への対応。 ・T Tの役割分担。教師が言葉を掛け過ぎず、児童が自分で考える時間の保障。 |
| <p>【ミニ授業研究会】 1年2組 単元名「きらきらばたけでそだてよう～ジャガイモ～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫（写真や実物を使っての確認。手遊び）。 ・シンプルな学習構成とT Tの役割分担（メリハリにもつながる）。 ・教師との対話のやりとりを確保。振り返りでの具体的な言葉での発問。 ・待ち時間の時間設定や待ち方の工夫。 |
| <p>【全校授業研究会】 3年 単元名「わくわくパーティーをしよう！～ともだちとたのしもう！～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番育てたい資質・能力を明確にし、整合性を図った目標、めあて、まとめの設定。 ・内発的な思いからの主体を引き出す授業づくり。 ・児童にとって必要性や必要感のある活動内容や伝え方（活動の意味付け）。 |
| <p>【ミニ授業研究会】 1年1組 単元名「きらきらカレンダーをつくらう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を引きつけ活動への意欲を高める導入（ペープサートの活用） ・活動に興味・関心をもって取り組み、活動に集中しやすい教室環境の設定。 ・児童の動きや反応に合わせた働き掛けや誘いかけ。 ・児童が考えたり気付いたりできる機会の設定や発問の工夫。 |
| <p>【事前授業研究会】 6年2組 単元名「やってみよう～うどんやをひらこう～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの必要性（なぜ貸し借りが必要なのか、適切な受け答えが必要なのかなど）。 ・単元の最終目標達成のために本時に頑張ることの具体が児童から出てくる導入の進め方。 ・生活科は体験から気付くもの。活動してみたらどうだったかという気付きまでの確認。 ・児童同士の関わりを引き出し、児童同士で活動を進めていける状況づくりや待つ支援。 |
| <p>【ミニ学部研究会】 4・5年 単元名「おはなしコンサートをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的（単元終了時）にどういう姿になってほしいのかの整理。 ・発表練習における、児童の正面からの手本や演示（歌い方など）。 ・十分にできていないことを伝えられる（客観的評価ができる）手立てと失敗しても次にどうしたら成功できるか児童が考える場面設定。 |
| <p>【公開研究会】 6年2組 単元名「やってみよう～うどんやをひらこう～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの自分の体験に基づいた学びを身に付けられるような考える場面設定。 ・学びを深めるための教師の働き掛け（踏み込んだ発問）。 ・うまくいかなかったときにも対応できる形成的評価や児童が学びを活用できるように、児童が考えためあて達成の方法も評価できるまとめ方。 |

⑤年間指導計画の評価及び見直し

単元終了後に評価し、次の単元における指導内容、時数の見直し、学習が発展的に積み重なるように修正を行った。

⑥研修会の実施

学部研究会で、「主体的・対話的で深い学び」の3つの学びのうち、小学部で当初難しいのではないかと考えられていた「対話的な学び」と「深い学び」について、具体的な学びの姿や場面を出し合い、整理することで理解を深め、小学部段階の児童にとっての学びの具体を共通確認した。

ア 実際場面から見る「対話的な学び」の具体的な姿（抜粋）

- ・向かい合わせの座席の友達の様子を見て何をどのようにするのかに気付き、振るまいが相互に変わったり、まねて遊んだり、作ったりした。
- ・過ごし方をやりとりしながら決めることで、自分の気持ちを伝えることが増えた。
- ・教師が一人の児童に話している会話をヒントに、周りの児童が考えたり、気付いたり、学んだりした。
- ・友達の制作途中の作品を見て参考にしたりまねたりして、自分の作品を工夫して作った。
- ・やりたい活動の一つを選んで決める際、友達の気持ちを聞いて、友達に譲って自分の意見を変えた。

イ 実際場面から見る「深い学び」の具体的な姿（抜粋）

- ・朝の会の返事で褒められたことが自信になり、他の学習場面でも自信をもって返事をするようになった。
- ・他の児童の返事を見聞きして返事の意味が分かり、返事でアピールするようになった。
- ・国語・算数の時間に経験していたが未定着だった「貸して」という言葉を、本当に貸してほしい物が目の前にある状況下（遊びの場面）で自分から友達に話し、その後も様々な場面で話すようになった。
- ・的当てゲームでピンを立てる係を行う際、算数で学習した1対1対応を活用して目印に1個ずつピンを並べたり、余った目印を見てピンを探したりした。
- ・修学旅行の見学先等におけるマナーやルールの学習で、なぜ、その行動をしてはいけないのか、する必要があるのかを考えさせることで、実際の旅行でマナーやルールを自分で守ったり、友達に注意したりしながら行動した。

(4) 児童の変容の評価

- ①個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）
- ②授業研究会の単元の評価（単元も目標一覧表の活用、記入、エピソードも含む）
- ③連絡帳や学年通信等での伝達、共有（随時）
- ④面談や連絡帳などでの評価（随時）

毎時間の目標に対する評価を児童の変容を含めて記入したり、単元以外の場面で学びを活用していた様子（エピソード）を見取ったり、学習に関する家庭での様子を聞いたりして、学習したことを発揮する姿の共有や評価を行った。

6 授業づくりの実際

ミニ授業研究会 小学部 6年1組 生活単元学習 「やってみよう～パンダのぱんやさん2～」

(1) 授業の概要（生活科の内容 オ 人との関わり、カ 役割）

本単元では、地域のパン屋さんを見学し、聞いてきたことを生かしてパンを作り友達にふるまう活動を通して、自分の意思を伝える、相手の話を聞き取るなど人と関わる力を育てたい。人との関わり方のポイントを絞り、場面や相手を広げながら繰り返し学習することで、普段の生活でも意識して行動しようとする気持ちや態度を育てていきたい。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

- ・活動予定表が示され、本時の学習のポイントが視覚化されていて分かりやすかった。
- ・iPadを活用して即時評価できるようにしたことで、「(相手の) 目を見る」ことを意識してめあてに向かって取り組み、個々の目標はおおむね達成された。
- ・導入で前時に学習した内容が本時に生かされるよう構成されていた。
- ・まとめで、般化できるような働き掛けをしていた。

課題と改善案

<課題>

- ・活動予定表で全体像は分かるが、どこが今日なのかが分かりにくい。
- ・児童が考える時間を保障する。
- ・目標があいまいである。

<改善案>

- ・活動予定表に目印を付ける。
- ・発問や指示の後の「間」をしっかりとる。
- ・何ができればよしとするのか、観点を具体化して設定する。



採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・活動予定表の今日の部分に赤い枠を付けて示す。
- ・児童が考えて答えや反応を返せるように、T1が話したら待つ。
- ・目標を行動目標で示し、児童にも分かる言葉で伝える。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・活動予定表に目印を付けたことで、児童が自分で見付けて指差すことができた。
- ・問いかけの後に待つことで、じっくり考え答えたり、友達の評価を自分の言葉や身振りで積極的に伝えたりする姿が見られ、教師が児童の理解度を正確に見取ることができた。

<課題>

- ・児童個々の頑張りどころを明確にし、一人でできる部分を増やせるよう、目標の更なる絞り込みが必要である。それに応じて、教師の働き掛けもより精選していけるのではないかな。
- ・iPad使用時の時間の使い方や待ち時間への対応。

授業改善に取り組んでの所見、感想

状況や相手を少しずつ変えて似た課題を取り上げ、前後の学習がつながるような導入やまとめを行うことで、友達に教えを求めたり、普段から目を見て挨拶したりするなど学習の定着や活用する姿が見られるようになった。iPadは評価には有効だが、扱う際に動線や活動量という視点も含めた十分な検討が必要だと感じた。個別の目標をどこまで何ができればよいのか具体的に絞り込むことで、必要な教師の働き掛けやTTの役割分担を整理し、児童が思考し、気付いたり、学びを得たりできる授業を行っていきたい。

ミニ授業研究会 小学部 1年2組 生活単元学習 「単元名 きらきらばたけ～ジャガイモ～」

(1) 授業の概要 (生活科の内容 サ 生命・自然)

本単元では、畑でジャガイモを育て、生長の変化の観察、畑の管理、簡単な調理などを行った。ジャガイモは、目で見て生長が分かりやすく、自分から働きかけることで、満足感や達成感を強くもつことができる。ジャガイモの変化に気付いて関心をもったり、様々な活動を通して「やってみたい」という気持ちが生まれやすくなることで、身の回りの興味・関心の幅が広がり、学びを生かす機会も増えるのではないかと考える。

(2) 授業実践の様子

授業の評価 (授業者から、参観者から)

- ・ やることが分かって、教師の手をかけずに一人でできた。目標についても、三人ともいろいろな言葉をたくさん出したり伝えたりする姿が見られ、達成できた。
- ・ 少し冷ました状態だったが「熱い」と、熱さを感じられたのでよかった。
- ・ やることやできあがり分かる、期待感や見通しがもてる仕掛けや教材・教具、導入の工夫、一人一人ができる状況づくりや細かい配慮があった。
- ・ めあてや活動がシンプルに精選され、分かりやすかった。板書や動線が整理されていた。
- ・ TTの役割分担や問い掛け、さりげない言葉掛けがよい。

課題と改善案

<課題>

- ・ 衛生面から、落とした物を拾って食べない、食器の持ち方についても指導があるとよい。
- ・ レンジを待つ5分は長い。長くて2分程度ではないか。
- ・ 児童が発した言葉が、正しい言葉かどうかの確認が必要ではないか。
- ・ 「どうでしたか」という発問は分かりにくい。

<改善案>

- ・ 衛生面、食器の持ち方については、普段から気を付けて指導する。
- ・ 『ポテトチップスの歌』の歌など、手遊びをしながら待つなど工夫する。
- ・ 児童から出た言葉を繰り返したり、正しい言葉に置き換えたりする。
- ・ 振り返りでの発問の際に、「味は」など具体的な言葉で問い掛ける。



採用した改善案 (改善授業等で行う手立て)

- ・ ほくほくいもでは加熱時間の5分を待つことができたが、次回は長く感じる可能性があるので、児童の様子を見て『ポテトチップスの歌』を歌ったり、2回目のスライスしたジャガイモを並べたりする活動を取り入れる。
- ・ 児童のささやきや発言を正しい言葉にして返し、全員で感じたこと思ったことを共有する。
- ・ まとめの感想発表場面で、児童に対する発問の仕方を具体的な言葉にして伝える。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・ 教師がピーラーで皮をむく様子も興味深く見たり、ジャガイモを並べる活動では教師が演示したりし、友達の様子を見ながらタイミングを見て仲良く並べることができた。
- ・ 6分の加熱時間を使って、2回目のジャガイモを並べる活動を入れたことで、飽きることなく、試食では、「うまい」と発する児童がおり「おいしいね」と正しい言葉にして返すことを繰り返し、振り返りでは「おいしかった」と発表することができた。
- ・ 自分の気持ちや感じたことを「もう1回」「またやりたい」「楽しいね」「おいしい」「のり」等、言葉にして伝えようとする場面が多くあり、言葉の習得や広がりが見られてきていると感じた。

<課題>

- ・ 前時より複雑な活動工程だったため、児童の動線でうまくいかない部分があった。
- ・ 教師同士の役割分担 (動き、言葉掛け、児童の支援など) を毎時間、しっかりと打ち合わせしておくことが必要だと感じた。

授業改善に取り組んでの所見、感想

見通しをもって授業に向かうための手立ての工夫、動線や活動場所の整理がとても重要だと感じた。また、児童の言葉に対しての受け止め方や返し方などは、正しい言葉で返したり、繰り返し言わせたりするような工夫をすることで、言葉の習得にも繋がると感じた。教師の言葉や演示場面などの工夫により、児童の反応や動きも変わってくる。今後も、児童のやりたい気持ちや伝えたい気持ちを引き出しながら授業づくりをしていきたい。

ミニ授業研究会 小学部1年1組 生活単元学習「単元名 きらきらカレンダーをつくろう」

(1) 授業の概要（生活科の内容 サ 生命・自然）

本単元では、学校の行事や学級での学習の様子の写真や季節を絵の具や飾り等で表現して来年度のカレンダーの台紙を作成した。完成したカレンダーを見て学習したことを振り返り、また、季節の特徴に触れることで季節の変化に気付くことができるように展開し、学校生活で経験したこと・経験の積み重ねを、自分自身で見て、感じて、思い出すことができるようにした。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

- ・歌付きのペープサート「秋のかばん」は、歌やお話が大好きな3名の児童にとって興味関心をもつことのできる題材だった。
- ・離席行動のあるB児もペープサートの操作に興味をもって、自ら前へ出たり、歌を歌ったりするなど、時間いっぱいではないが部分的に参加する姿が見られた。教師は、離席行動に歌で誘いかけたり、言葉が出ない児童の表情や仕草を読み取って話しかけたりして児童に寄り添いながら指導する姿が見られた。

課題と改善案

<課題>

- ・B児の好きな絵本が並ぶコーナーがあるので離席行動が増えるのではないかな。
- ・肢体不自由を併せもつC児が意思表示する機会を日頃から設けてはどうか。

<改善案>

- ・絵本コーナーに学習時間だけでもカーテンなどの目隠しがあれば良いのではないかな。
- ・C児が選択・意思表示をする機会を学習内に設ける。

採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・絵本の数を減らす（全てなくすと、B児が探し回るので更に離席が増える）。
- ・制作活動やペープサートの操作時に、C児が選択する機会を設ける。



改善授業の成果と課題

<成果>

- ・教師がC児に素材を二つ提示して「どっち？」と働きかけ、それに対してC児も視線を動かしたり手を素材に触れて選択したりして自分の意思を表出することができていた。

<課題>

- ・教室内の刺激（絵本類）は、「勉強だから片付けようね。」と本人と一緒にメリハリを付けてみてはどうか。
- ・B児は自他の物の区別がまだついていないようで、教材が散らばってしまった。教材を提示するときには最初にB児に提示すれば良かったのではないかな。

授業改善に取り組んでの所見、感想

カレンダーの台紙に体験した学習の写真を貼る、台紙を飾る活動に繰り返し取り組むうちに、カレンダーを保管場所から探し出して見て楽しむ様子が見られるようになった。ペープサートを活用するなど楽しみながら意欲的に取り組むことができる内容を設定できた。

言葉の表出が少ない学習集団であり、教師の言葉が多くなりがちであったが、今後も沈黙を恐れず働きかけを工夫しながら、自ら考えて意思を表現することを大切にしていきたい。

欠席や医療的ケアで退席することが多い児童に対して、制作活動の遅れのフォローや、その時期の学習の見通しをもてるように教室の掲示物の工夫もしていきたい。

ミニ授業研究会 小学部 4・5年1組 生活単元学習 「単元名 おはなしコンサートをしよう」

(1) 授業の概要（生活科の内容 オ 人との関わり、カ 役割）

本単元では、発表や歌、読み聞かせ等の練習を友達と一緒にいき、コンサートをすることで、活動を楽しみながら、自分の思い等を伝える、相手の話を聞くなど、言葉でやり取りをしながら関わる力を育てたい。また、コンサートの流れや自分の役割が分かり、活動に主体的に取り組む気持ちや態度を育てたいと考えた。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

- ・パネルシアターは視点がフォーカスされてよい。順番に出すことで効果的になる。
- ・これまでの経験が生きていて、昨年より大きな声が出ていた。
- ・児童が自分が何をするのかよく分かっていた。
- ・大きな声、よい姿勢というめあてはよくできていた。

課題と改善案

<課題>

- ・失敗してもよいから、次はどうするのか子ども自身が考える機会を与えるように。
- ・練習なので、うまくできなかった所を再度練習してもよかったのではないかな。
- ・教師が子どもの表情が見える位置で見ながら練習した方がよい。

<改善案>

- ・iPadを用いて、声の大きさ、姿勢などを、自分たちで見てどうだったかが評価できるようにする。
- ・VTRを見て、上手くできなかった点をもう一度練習する流れで行う。
- ・歌の練習なので前に立って指揮をするように身振りや声かけをすることで歌声を引き出す。

採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・子ども達が大きな動作で元気に発表できるように、T1は前方に立ち、一緒に手本となるような表情や動きを見せながら支援をする。
- ・頑張るポイントについて意識できるように、発表の様子を撮影し、動画を見て振り返る。
- ・動画を見た感想を聞き、上手くできなかった点があったら、その点に気を付けてもう一度練習をすることで、自信をもって本番の発表に向かうことができるようにする。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・前時と比較して、自分から動こうとする子ども達の姿が見られた。参観者がいなかったこともあり、緊張しがちな児童もあいさつや台詞を声を出して言うことができていた。

<課題>

- ・動画の撮影に失敗してしまい、動画を見て児童自身で評価することができなかった。視聴覚機器を使う際の準備等をしっかり行う。
- ・児童が、自分で考えて、主体的な動きにつながるような支援を意識していく必要がある。その繰り返しの中で、教師の手を離して、一人でできることを増やしていくことにつなげていく。
- ・個々の目標への具体的な手立てをもち、「大きな声」「元気に」ということを具現化して伝えていくことが大事だった。



授業改善に取り組んでの所見、感想

前回より緊張感が少し和らいだ中で、意欲的に歌や台詞の発表をする児童の様子を見ることができた。

単元全体を通して、児童からの気付きを引き出したり、自分で考えて活動に取り組もうとしたりする場面への工夫が足りなかったという反省がある。児童がめあてを理解して活動に向かい、自分で評価し、次の課題に取り組む流れを大事にしていかなければと感じた。児童の意欲や気付きを引き出し、主体的な動きにつながるための支援を大事にしながら授業づくりをしていきたい。

(1) 単元構想図

◆児童（保護者）の思い、願い

- ・友達と一緒に、楽しく学習してほしい。
- ・自分の気持ちを伝えられるようになってほしい。

◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より

- ・自分のやることや役割が分かり、進んで活動に取り組んで欲しい。
- ・集団生活の決まりやマナーが分かり、友達と一緒に活動に取り組んでほしい。

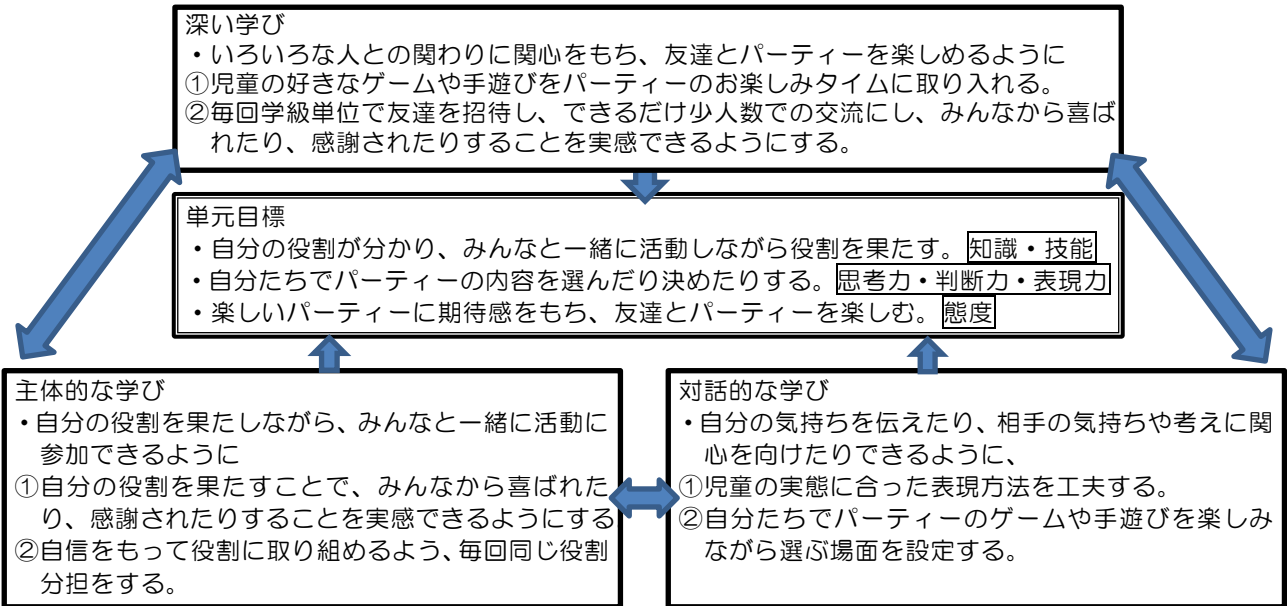
本単元の概要

自分の気持ちを伝えることは苦手だが、担任以外の教師、他学年の友達に関心をもち、朝や帰りの挨拶や、昼休みなど関わろうとする姿が見られる。集団活動への参加態度に課題が見られる。

本小学部他学年の友達を学級ごとに迎え、「わくわくパーティー」（お楽しみ会）を行い、生活科の「人との関わり」「役割」の内容について学習する。友達への関心を広げ、パーティーの準備や係の活動に繰り返し取り組むことで、期待感をもち、主体的に自分の役割を果たしたり、自己決定したりする力を育てたい。

対象児童	小学部3年	指導の形態	生活単元学習
単元名	わくわくパーティーをひらこう！～ともだちとたのしもう！～	時数	21時間
単元計画表			
小単元名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主なねらい
「パーティーにしようたいするひとをきめよう！」	・顔写真を見て、招待したい友達を選ぶ。	主 関	・小学部の友達に感心をもつことができる。
「わくわくパーティーのそうだんをしよう！」	・候補に挙がったゲームや手遊びを実際にやってみる。 ・お楽しみタイムのゲームと手遊びを決める。	主 関 深	・「みんなで楽しめる」ゲームと手遊びを選ぶことができる。
「わくわくパーティーへようこそ！」	・パーティーの準備をする。 ・わくわくパーティーを開く。 ・パーティーの片付けをする。 ・次回招待するお友達を確かめる。	主 関 深	・自分の役割が分かり、進んで取り組む。 ・友達と一緒に参加し楽しむ。
「ともだちとのパーティーをふりかえろう！」	・写真やビデオを見ながら、友達とのパーティーで楽しかった場面をまとめる。 ・次の単元でお招きしたい人を発表し合う。	主 関 深	・パーティーで楽しかったことやお招きしたい人をみんなに伝える。
			時数 1 18 3×6 2

目標達成に向けての支援



(2) 授業の概要（生活科の内容 オ 人との関わり、カ 役割）

パーティーの活動に児童の好きな「ゲーム」や「手遊び」を取り入れ、自分たちでその内容を決めることで、活動に期待感をもち、主体的に自分の役割を果たしたり、自己決定したりする姿を引き出したい。さらに、この学習経験を経て、他の学習場面でも自分から学部の友達に関わったり、進んで役割を果たしたり、自己決定したりする姿を引き出していきたい。

(3) 授業実践の様子

①全校授業研究会

○手立てなどの工夫

- ・授業のめあてや活動をわかって活動に取り組めるように、シンプルで分かりやすい板書を提示した。
- ・個々の役割を確認出来るよう、役割分担表に必要な用具画像を添付して提示したり、自信をもって役割に取り組めるよう役割を固定し、繰り返し取り組めるようにしたりした。

○授業者評価

- ・児童が進んで活動に取り組むために、「自分の役割に取り組むことが、楽しいパーティーにつながる」という実感をもてるような支援の工夫が必要。
- ・役割を固定したり、視覚的支援を整えたりしたことで、活動に見通しをもって進んで取り組む様子が見られたものの、1名の児童が活動に取り組めず離席してしまった。役割分担や場の設定、教材等の改善が必要。



②改善授業

○改善した内容

- ・「役割を果たす」→「パーティー開催」を児童が理解できるように、これまでの失敗（役割を果たせず、パーティーを開催できなかったこと）や成功を振り返り、児童が「役割を果たす」ことの必要性を実感できるようにした。
- ・人と関わることや大きな声が苦手な児童が、役割に取り組めるように、道具を手渡す係から、得点板の係に変更したり、比較的静かな座席に変更したりした。

○授業者評価

- ・役割の取り組みについて前時の失敗を振り返る中で、児童から「はやく」というワードが出された。そのワードを意識しながら、役割に取り組み、時間内に活動を進めることができた。児童が「(はやく) 役割を果たす」ことの必要性を実感できたと考える。
- ・児童の得意な活動、苦手な環境に配慮した役割や座席を準備したことで、児童が落ち着いて活動に取り組む姿を引き出すことができた。

(4) 成果と課題

①成果

- ・繰り返しの活動の中で、失敗体験や成功体験を丁寧にフィードバックしたり、シンプルで的確なねらいを提示したりすることで、児童が活動の必然性を実感しながら活動に取り組み、役割を果たすことができた。
- ・児童の実態や障害の特性に配慮した活動、環境を設定したことで、児童が進んで活動に取り組む姿を引き出すことができた。

②課題

- ・より主体性を引き出すことができる、必然性のあるねらいや役割、人との関わりの場の設定。
- ・失敗や成功の経験から児童の気づきを促し、学びを積み重ねられる的確なフィードバック。



公開研究会 小学部 6年2組
生活単元学習 「やってみよう～うどんやをひらこう～」

(1) 単元構想図

- ◆児童（保護者）の思い、願い
- ・相手の気持ちを分かって活動してほしい。
 - ・一人でできることを増やしてほしい。
 - ・言葉でのやりとりを通して友達と関わる。

- ◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
- ・自分の気持ちや意見を言葉で伝える。
 - ・他の人から感謝される体験を増やす。
 - ・学習の流れを知り見通しをもって取り組む。

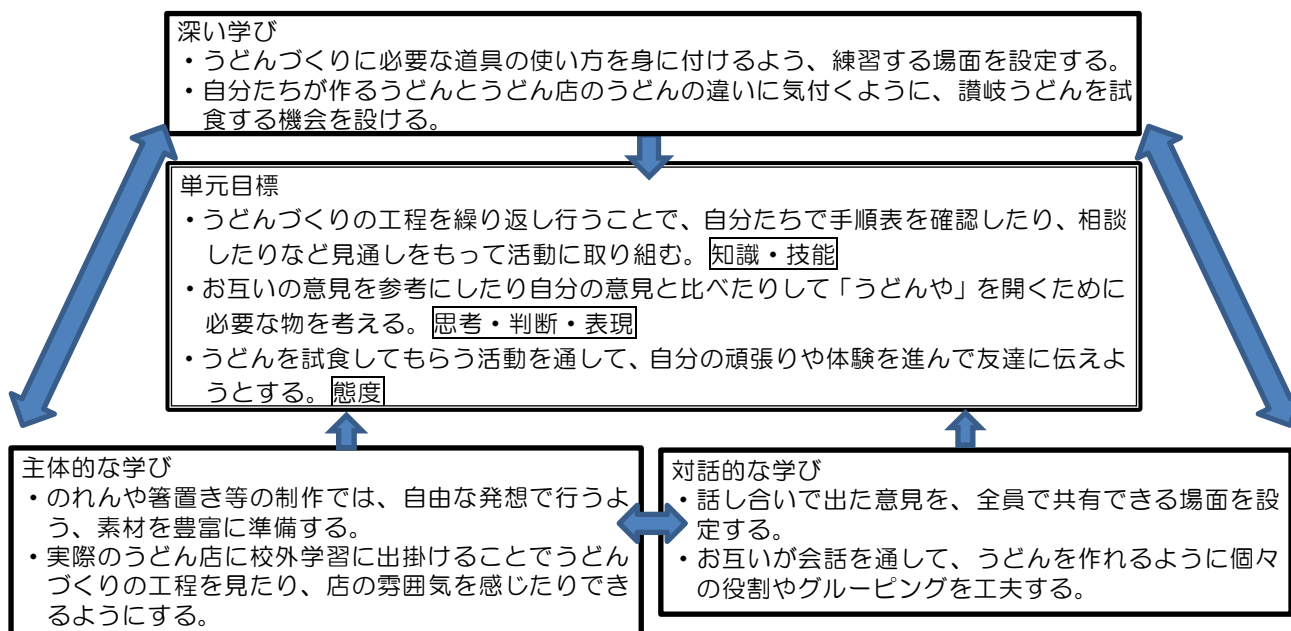
本単元の概要

本学級の児童は、全員が簡単な会話で自分の意思を伝えられるが、制作活動や調理活動において、他の友達を誘ったり順番を譲ったりなど、相手を思いやって行動することに課題が見られる。

「うどんづくり」の調理工程では、一部分を一人で担当したり、グループ内で順番を守って調理したりと関わり合いながら活動を進める中で、生活科の「人との関わり」「役割」「手伝い・仕事」の内容について学習を深めていけると考える。制作活動や調理活動を通して、友達と折り合いを付けたり、作って食べる楽しさを十分味わったりすることで、主体的に活動に取り組む姿や、よりよいコミュニケーションをする姿につながり、自分の役割を果たす力、他者へ適切に関わる力が育つと考え、本単元を設定した。

対象児童	小学部6年2組	指導の形態	生活単元学習	
単元名	「やってみよう～うどんやをひらこう～」	時数	35時間	
単元計画表				
小単元名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主なねらい	時数
「オリエンテーション」	・手打ちうどんの作り方を知る。 ・出前講座を受講し、うどんづくりの工程を知る。	国 関	・うどんの作り方や、工程に活動内容について知る。	3
「うどん打ち①」	・自分たちでうどんを作り、試食する。	国 関	・各工程を知りみんなで協力して、うどんを作る。	8
「うどんやの準備」	・うどんやに必要な物の準備を協力して行う。	国 関 深	・お客さんをもてなすための準備物を制作する。	8
「うどん打ち②」	・いろいろなトッピングを考えてうどんを作る。	国 関 深	・話し合いをして、トッピングする具材を決める。	8
「うどんや開店」	・うどんやを開き、校内のお客さんを招待してもてなす。	国 関 深	・自分の係や、役割を果たしうどんづくりに取り組む。	8

目標達成に向けての支援



(2) 授業の概要（生活科の内容 オ 人との関わり、カ 役割、キ 手伝い・仕事）

うどんの調理や必要な準備物の制作では、友達と譲り合うなど、友達と関わり合いながら活動を進めていく。また、単に調理活動を経験するだけでなく、自分たちの店として「うどんや」を開店して、友達に振る舞うことで、活動に期待感をもち、自分たちが頑張ったことを正しく伝える機会にしたい。

(3) 授業実践の様子

①公開研究会事前授業研究会

○手立てなどの工夫

- ・友達と関わる場面を増やせるよう、制作活動に必要な道具を共有する場面を設定した。
- ・関わりの中で、会話の補助となる、「貸してください」「いいですよ」などのカードを提示した。
- ・友達の作品を見合う時間を設けた。また、活動量を確保できるよう、材料を豊富に用意した。

○授業者評価

- ・友達同士が道具を貸し借りする場面では、自分の意思を友達に会話で伝えて活動を進めた。
- ・友達の作品を見合い、そのデザインを参考にして制作活動を進める姿が見られた。



②公開研究会公開授業

○改善した内容

- ・導入場面では、めあての提示の仕方を明確に分かりやすく伝えるようにした。
- ・同じペアで、繰り返し活動を行ってきたことで、関わり合いを深めてきた。

○授業者評価

- ・おいしいうどんを作るには、同じ太さに切るという、めあてが分かり調理活動を進めた。
- ・生地を延ばすとき、延ばす大きさの目安となる型紙を準備したことで、友達に大きさの助言をしたり、型紙を生地と比較したりして生地を延ばした。

(4) 成果と課題

①成果

- ・制作活動や調理活動では、補助具等を準備することで自ら積極的に活動に取り組んだ。
- ・同じペアで、繰り返し活動に取り組んできたので、友達同士で相談したり、意見を伝えたりしながら活動に向かう姿が見られた。

②課題

- ・制作した作品や、調理したうどんをグループごとに見合ったり、意見を引き出させたりする時間を十分に確保する必要がある。
- ・児童が自ら進んで活動に取り組めるような、言葉掛けを工夫していく。



7 学部研究の成果（○）と課題（●）

（1）生活科の内容を押さえたスパイラル型学習の指導計画の作成

- 新学習指導要領の生活科の項目や段階を押さえて年間指導計画を作成したり、単元の目標を設定したりすることを通して、生活科の項目や内容の理解を深めることができた。目標の設定にあたっては、絞り込み、具体的に設定することが可能となってきた。また、他にどの教科等のどのような内容を合わせて取り入れているのか、それらの関連もより明確にでき、根拠をもった指導や目標設定及び評価がなされるようになった。
- 学年や学級の実態に応じたスパイラル型の学習を設定して学習を展開することが、導入の歌を聞いて学習への期待感を高める姿や、見通しをもって学習に向かい、やり遂げようとする姿など、前時までの学びを活用しながら活動する姿につながった。
- 各学級で共通して取り上げた生活科の主な項目について、生活年齢、経験を踏まえ、学習内容を段階的に整理した（資料 ）。これにより、異なる学年で同じ項目の内容を扱う際、学年をまたぐ大きなスパイラル型の学習として学びを積み重ね深める視点をもつことができた。
- 今後も、前年度までの既習の学習とのつながりや学びの段階を確認しながら、発展性のある目標設定や授業づくりを行い、学びの深化を図っていきたい。
- 今年度、各学級で取り上げた生活科の内容を確認したところ、ほとんど取り上げられていない項目もあることが分かった。生活科の内容をバランスよく学べるような学習計画や内容についても検討していく必要がある。
- 教師側の目標とめあて、まとめの整合性について、単元を通して育てたい力を育んでいくという視点に立って、児童が必要感や納得感をもって学習に取り組み、何を学び、何を得たのかという学びの実感を得られるよう、それらの示し方も含め、一層吟味していきたい。

（2）「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行い学びの定着を図る

- 3つの学びのうち、小学部段階の児童にとって難しいと感じていた「対話的な学び」と「深い学び」について、学部職員での意見交換や全校研修会を通して具体的な学びの姿や状況を明確にすることができ、授業づくりにおいても効果的に取り入れられるようになった。
- 「主体的な学び」については、児童が思考する場面や時間を十分に保障し、児童の思考を表情や行動から見取り、自発を待つ教師の働き掛けや、学びの実感につながる即時評価など、丁寧な支援の積み重ねによる児童の学びの深化を目指していきたい。

（3）児童が学んだことを他の場面で活用することについて

- 手掛かりとなる活動予定表や手遊び、前時の振り返りを生かした導入の工夫により、既習の学習や経験を思い出し、気づき、学びを生かして活動に取り組む姿が見られた。また、目標を毎時間設定し、変容を追って評価し、目標や手立てを修正することで、繰り返しの学習の中で見通しをもって取り組み、学びを定着させることができた。一つの単元の中に他の場面で学びを活用する活動内容を設定することで、他の学級の友達や教師と一緒に、又は校外で、学習した知識や経験を使って行動できた。さらに、教師が授業で取り上げた内容を普段の生活でも意識的に設定したり確認したりすることで、日常生活でも授業の学びを活用して友達や教師と関わる、進んで行動する姿も見られるようになった。
- 学習を通して得た確かな学びを他の場面で活用できるように、結果と過程との因果関係や過程の意義を理解し、学びを深められるような発問や評価、まとめ方を一層検討していきたい。また、今回の取り組みでは、単元内に設定した他の場面で学びを活用するケースが多かったが、単元以外の場面や他の教科等、家庭で児童が学びを活用する状況を把握し、丁寧に見取り評価していくことで、自分から学びを活用して行動しようとする児童を育てていきたい。

Ⅱ 中学部の実践

1 研究テーマ

なりたい自分を目指し、主体的に学びを生かす生徒を育む
～職業・家庭科の実践を通して～

2 テーマ設定の理由

(1) 生徒の実態

中学部の生徒は、言葉によるやりとりが可能な生徒や簡単な言葉や身振りなどで意思や要求を伝える生徒、発声や表情で自分の気持ちを表現する生徒など実態は多様である。集団での活動を苦手としていたり、苦手な活動への参加を避けたりする生徒もいるが、友達や教師との関わりを楽しむ生徒も多く、生徒同士で言葉を掛け合ったり、頑張りを認め合ったりしながら学習活動に取り組むことが増えてきている。

昨年度の研究と授業実践において、家庭での生活を題材とした体験的な学習を行っており、自分ができる家庭内の仕事に気付いたり、家族からの称賛が意欲付けとなり、家庭の仕事に興味をもったりするようになってきた。また、生活に必要な知識・技能に関して、家庭の仕事(洗濯、衣服の畳み方など)において、学んだ「基本的なやり方」を繰り返し積み重ねてきた。しかし、家庭環境から学習したことを継続的に家庭で生かすことが難しい、進んで学びを家庭で生かそうとする意識が乏しい、学んだやり方を家庭の中で工夫し応用させる力が弱いなど課題も多くある。

(2) 今年度の研究

昨年度の研究では、新たに設けた職業・家庭科の家庭分野を中心に実践研究を進めた。指導内容系統表を作成し、学校生活、家庭生活、職業(地域)生活に関連した身近な内容を取り上げて体験的な学習を積み重ねてきた。そして、より身近な地域資源である家庭を活用し、家庭からの協力を得ることで、家庭の役割に関する必要な知識や経験を積み重ねることができただけでなく、学習の意欲付けの一助となった。しかし、家庭からの協力が得にくかったり、状況や場面、道具などが変わったときに学習したことを生かすことができなかったりすることが多かった。

そこで今年度は、状況や学習の場、周りの人などが変化したときに対応できる力を培うことができるように、学習がどのように将来の自分と結びつくのかを明確にする。自己評価し、自己理解を深めるために「目標達成シート」を活用し、将来の「なりたい自分」を目指して行動目標を立てることで主体的に学び、それを生かそうとする姿を目指していく。また、「目標達成シート」を用いた授業の振り返りや評価を充実させることで、学習に対する自信や意欲が高まり、学びの定着が図られると考える。なお、昨年度作成した職業・家庭科の指導内容系統表に関して、各学年の家庭分野及び職業分野の指導内容を検証・整理し、学年ごとの内容を精選及び段階を検討する。中学部3年間の系統的な指導内容を構築するとともに、高等部との連携も深めていく。自己評価・自己理解の深まり、指導内容や指導計画の見直し等により、様々な場面で学んだことを思い出し、状況の変化に応じて学びを生かす生徒を育むことができると考え、本テーマを設定した。

3 研究仮説

「職業・家庭科」の系統的な指導内容を整理し、なりたい自分を目指して行動目標の設定や評価を行いながら学習を積み重ねることで、探究心が高まったり、学びが自信につながったりし、様々な場面や状況に対応できる力を育むことができるだろう。

4 研究の計画

月	日	主な活動及び予定
5	29	学部研究会① (全校研究の確認と今年度の中学部研究について) * 6. 11 学部研究テーマ決定
6	1	単元構想会 (1年1・2組合同)
7	5	事前授業研究会 (1年1・2組合同)
7	18	全校授業研究会 (1年1・2組合同) → 9 / 4 改善授業
7	25	学部研究会② (「目標達成シート」の活用や状況の確認、職業・家庭科の指導内容について)
8	21	単元構想会 (2年1・2組合同)
8	24	単元構想会 (3年1・2組合同)
9	18	学部授業研究会③ (職業・家庭科の指導内容系統表の検証、「目標達成シート」の前期評価、後期の研究について)
10	16	ミニ授業研究会 (2年1・2組合同) → 10 / 23 改善授業
10	18	学部研究会④ (自主公開事前授業研究会指導案検討等)
11	6	事前授業研究会 (3年1・2組合同) → 11 / 9 改善授業
11	9	学部研究会⑤ (改善授業研究会及び自主公開授業研究会指導案検討)
11	28	自主公開研究会 (3年1・2組合同) → 12 / 11 改善授業
1	8	学部研究会⑥ (目標達成シートの評価、職業・家庭科の指導内容チェック表の検証等)
1	11	学部研究会⑦ (今年度のまとめ、来年度の方向性の確認等)

5 研究の実際

(1) 教育課程の検討 (4月、7月、9月、12月、3月 学部全職員で実施)

①学部会における検討

昨年度から「職業・家庭科」を週に1単位時間設けて取り組んだが、家庭分野の学習が中心となり、職業分野の学習を十分に設定することができなかった。そこで、今年度から「職業・家庭科」の授業を1単位時間増やし、週に2単位時間行うことにした。実態や各学年のねらいを考慮し、家庭分野と職業分野の指導割合を検討しながら実践を行った。

②アンケートによる成果と課題の整理

前期の実践を振り返り、アンケートを元に成果と課題を明確にした。「職業・家庭科」における指導内容の整理や目標設定において成果が挙げられたが、授業におけるめあての提示やまとめの仕方、自立活動を中心に行ってきた生徒における教科指導の難しさなどが課題として明らかになってきた。

(2) 中学部で育てたい力の検討及び評価 (4～6月、各学期末 学部全職員又は学年で実施)

①各学年・学級での支援目標 (重点目標：中学部で伸ばしたい力) の確認と検討及び共通理解

②学部研究会における学部全体での共通理解 (学部経営目標やキャリア教育の重点との関連)

③年間指導計画の検討 (学年又は学習グループ)

学部研究会において、学部経営目標や中学部のキャリア教育の重点から目指す生徒像 (育てたい力) を共通理解し、各学年・学級で個別の育てたい力の確認と検討を行い、個々の目指す姿を明確にした。「職業・家庭科」の年間指導計画を作成する際に、昨年度作成した「指導内容表」を参考に立案し、今年度は職業分野に関して、各学年の担当で話し合いを行い、指導内容を具体的に検討した。

(3) 自己理解を深めるための実践（6月、各学期末 学年又は学級で実施）

- ① 個別の支援計画や個別の指導計画から支援目標や願いを確認し、それらを参考に「目標達成シート」(※)を立案
- ② 「目標達成シート」の作成及び活用
 - ア 生徒と面談・・・「なりたい自分」と行動目標の設定
 - 生徒と個別面談を行い、「なりたい自分」を明確にして、そのための行動目標やどんな取り組みが必要かを明記した「目標達成シート」を作成した。
 - イ 「目標達成シート」の掲示、随時確認
 - 普段の学習や生活が将来の「なりたい自分」との関係性が一目で分かるよう、教室に掲示し、普段の生活や授業実践において行動目標や達成度合いなどを確認するなど活用した。
 - ウ 職業・家庭科に関連する行動目標のチェック
 - 職業・家庭科に関する部分の行動目標の確認し、題材の目標を設定したり、「目標達成シート」を活用して授業を展開したりなど授業づくりの参考にした。
- ③ 「目標達成シート」行動目標の評価、見直し
 - ア 学期又は題材ごとの振り返り及び評価
 - 学級又は学年ごとに一人一人の「目標達成シート」を元に教師間で評価し共通理解した。
 - イ 達成度合いや次の目標について生徒と確認
 - 前後期を目安に「目標達成シート」を見ながら振り返りをした。生徒と面談し、達成具合に応じて次の行動目標の確認や修正を行った。

※「目標達成シート」の作成手順

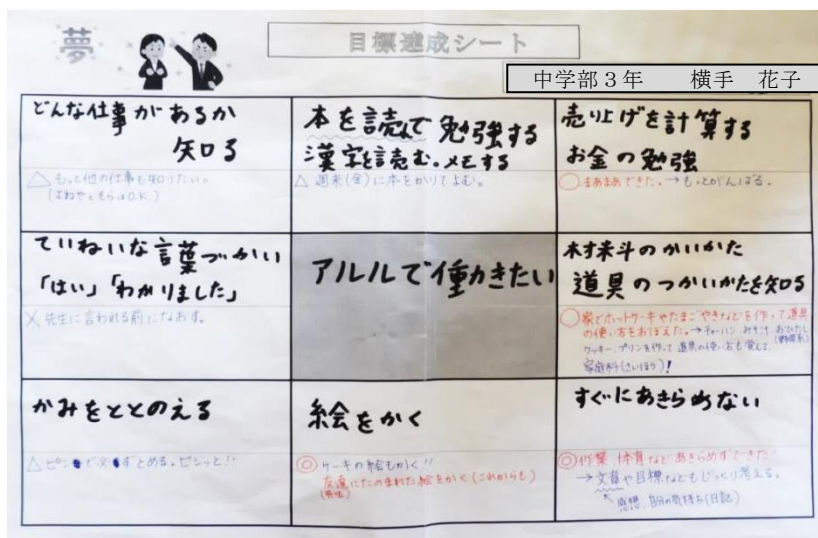
◇ 「なりたい自分」を目指した具体的行動を示し、自己評価、他者評価から自己理解を高めるためのツール

ステップ①
「なりたい自分」を書く

ステップ②
なりたい自分に近づくための行動目標を書く。「自分」だけでなく「他者の視点」を含めて、8つの要素を洗い出す

ステップ③
単元や学期ごとに振り返りをし、各要素でどこまでできているか、何が足りないか評価する

個別の指導計画その1の項目 生徒に応じて設定する 相手の関心や言葉遣い、 身支度や買い物などの日常生活から必要な力を身に付ける。		
【生活面①】 ・自分から身だしなみを整える。 (前髪を留める)	【生活面②】 ・忘れ物をしない	【運動・身体面】 ・頭が痛くなった時に、がんばるか、休憩をしたいか伝える。 ◇ 痛くなった時にどのように対処したら言い分かった。
【認知面①】 ・漢字を新しく20個覚える。	◇ 評価を記入	【社会性・コミュニケーション面①】 ・目上の人に敬語で話をする。 ◆ 丁寧な言葉自体を知らない。言葉を増やす必要あり。⇒覚えて丁寧な話すようになった。
【認知面②】 ・予算を立てたり、正しい金額で支払ったりする。	◇ 空いていてもよい	【社会性・コミュニケーション面②】 ・絵をたくさん描いて、みんなと楽しむ。



※図1 教室に掲示している「目標達成シート」

(4) 職業・家庭科の授業づくり (4～12月、学年合同で実施)

①職業・家庭科における指導内容チェック表の検討及び検証と関連した学習の確認

職業・家庭科における各学年の主担当を中心に、昨年度作成した指導内容表を基に、今年度指導する内容と大まかなねらいや指導する時期などを確認した。また、夏季休業中に行った学部研究会において、学年ごとに指導内容のチェックと年間指導計画の評価、見直しを行い、後期の指導内容の検討を行った。

第1段階(基礎的内容)		第2段階(発展的内容)	具体的な指導内容	1	2	3	日指	生指	作業		
職業生活	ア 働くことの意義 (ア) 働くことの目的などを知ること。 (イ) 意欲や見直しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。 (ウ) 作業や実習等で達成感を得ること。	ア 働くことの意義 (ア) 働くことの目的などを理解すること。 (イ) 意欲や見直しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 (ウ) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。	中学生になって自分の将来を考える 働くことへの意欲・働く心 物作りや育てることへの興味 働く活動の大切さ 達成感・成就感・満足感 満足感 職業に関する基礎的な知識	②	①②	①②					
	イ 職業 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ①職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ②職業生活を支える社会の仕組み等を知ること。 ③材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関する基礎的な技術について知ること。 ④作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 ⑤作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 (イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ①職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ②作業に当たり安全や衛生について気付く、工夫	イ 職業 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ①職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ②職業生活を支える社会の仕組み等がわかることを理解すること。 ③材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関する基礎的な技術について理解すること。 ④作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ⑤作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 (イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ①職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ②職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ③職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容と	職業、製品などの名称 仕事内容 仕事の分組と協力 技術 時と場に応じた服装、態度、言葉遣い 適切な扱い方 最後まで集中して取り組む 仕事の好き嫌いを感じない 仕事内容や分組、手順 分からないときは人にきく 協調性、適切なかわり きまりや指示を守る 安全、操作手法 安全で丁寧な取り扱い、運搬 後身付け、整理整頓 計測、計量	③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	② ③ ④ ⑤					

※図2 職業・家庭科における指導目標及び具体的な指導内容チェック表(案)(抜粋)

②単元構想会及び指導案検討会の実施

ミニ授業研究会、全校授業研究会、公開授業研究会における単元構想会を実施し、単元構想図を基に、授業改善コーディネーターからの助言を受けながら授業づくりについての話し合いを行った。題材の目標や指導計画、指導内容など、「職業・家庭科」の教科としてのねらいを重点的に検討し、授業づくりを行った。また、全校授業研究会、公開授業研究会において、学年部や学部職員全員で指導案検討を行い、授業改善コーディネーターや教育専門監等からの助言からさらに検討を重ねた。

③授業研究会を通して得られた授業づくりの要点と研究仮説との関連

授業改善の要点	研究仮説から
ア 基礎的な知識技能の習得と実生活に生かすための思考力・判断力・表現力	系統的な指導内容 状況の変化への対応力
イ 教科としての目標の設定やめあての提示、まとめや振り返りの工夫	系統的な指導内容 学習の積み重ね
ウ 思考や発言を促す発問と言葉掛け	探究心の高まり 学びへの自信

④授業研究会から

※授業研究会から得られた授業改善の要点など(抜粋)

《ミニ授業研究会》 2年1・2組合同 題材名「いろいろな職業③～家族の職業～」 【教科としての目標設定やめあての提示】 ・本時の学習活動を通して何を学ぶのかを明確にし、教科としてのねらいを設定する。 【思考を促す発問と言葉掛け】 ・対話的な学びから生徒の思考を促すようなやりとりを行う。 ・教師とのやり取りだけではなく、一人で考える時間を確保する。 ・主体的な活動につながるような、考えたり、判断したりできる教材の提示や、イラストを用いた選択できる材料の提示が周りの生徒の思考にも影響していた。

《全校授業研究会》

1年1・2組合同 題材名「家庭で自分の役割をもとう！～学んだことを生かして～」

【基礎的な知識技能の習得】

【実生活に生かすための思考力・判断力・表現力】

- ・生徒が学習をする必要だと感じる「必要感」が重要である。生徒の実態に合わせた学習内容、教材等の選定が必要である。
- ・自分で決めた「役割」に取り組んだ感想や家庭からのメッセージ、仲間の発表から気付いたり、判断したりするためには、集団での学びが効果的に生かせる学習の積み重ねや基礎作りが必要である。

《公開授業事前研究会》

3年1・2組合同 題材名「目指せ高等部Ⅱ～高等部見学・作業学習体験～」

【教科としての目標設定やめあての提示、まとめや振り返りの工夫】

【思考を促す発問】

- ・他者評価を踏まえながら、課題と長所の両面から自分に必要な力を考えられるようにする。
- ・めあてと振り返りの整合性を図り、生徒自身が十分考え、答えられる発問や時間の設定をする。



《公開授業研究会》

「目標達成シート」を活用した学びを生かす工夫

- ・学習と目標達成シートの行動目標を結び付け、立てた目標を様々な場面や状況で生かすことができるよう、「つきたい力」と目標達成シートにおける行動目標とのつながりを考える場面を設定する。
- ・高等部の作業学習における「伸ばせる力」から、自分が中学部卒業までの生活で「つきたい力」を考えることをめあてとして明示する。



【思考を促す発問と言葉掛けなど】

【実生活に生かすための思考力・判断力・表現力】

考えていく流れがわかるワークシート

- ・個に応じて、写真や図を使用し、考えていく手がかりや順番の明示

つきたい力を数値化したワークシート

- ・他者評価をしてもらうことによる対話やより深い自己理解


掲示物や活動表

- ・今までの学習の流れが分かる掲示物の工夫
- ・グループ毎の活動内容の明示による主体的な活動



⑤ 「目標達成シート」を活用した授業づくり

職業分野の学習において、家族の仕事や高等部での作業学習体験などを通して学んだ働くために「必要な力」や「伸ばせる力」と、なりたい自分に近づくための行動目標との関連性について授業のまとめや振り返りの際に確認するなど、「目標達成シート」を活用した授業づくりを行った。

夢  目標達成シート			中学部 1年 横手 太郎	
【生活面①】 ※清潔な店員さん。 ・与だしなみを自分で確認する。 ・手洗いを入念にする。	【生活面②】 ※ピカピカな店内。 ・丁寧な掃除の仕方を覚える。	【生活面③】 ※いつまでもきれいなお店。 ・物を「寧」に使う。	【職業・家庭①】 「掃除の仕方を学ぼう」 ・そうさんの正しいやり方を覚える。 ・片手ほうきや自在ほうきの適切な使い方を身に付ける。	【職業・家庭②】 「家庭で自分の役割をもとう！」 ・家庭で自分ができそうな掃除を覚える。 ・学校で身に付けた掃除のスキルを家でもやってみる。
【認知面①】 ※正確に仕事をやる。 ・お金の計算の仕方や受け渡しの仕方が分かる。 ・計りを使って、材料を止しく計量する。	ケーキ屋さん になりたい！ ～優しい店員さん～	【生活面④】 ※お客さんに見やすいように、ケーキをレイアウトして並べる。 ※お菓子作りがしやすいキッチン。 ・物を種類ごとに分け、整理する。	ピカピカな店内☆ 丁寧な掃除の仕方を覚える	
【認知面②】 ※新製品のケーキのチラシを作る。 ・書ける漢字を遣やす。 ・読む相手に分かりやすい文章の書き方を知る。	【社会性・コミュニケーション①】 ※親切な接客をする。 ・笑顔であいさつをする。 ・「ありがとうございます」「～ですか？」「どうぞ」など、丁寧な言葉を使う。	【社会性・コミュニケーション②】 ※だれにでも優しい人になりたい。 ・相手の気持ちを察し入れる。 ・自分の気持ちの安定や嫌なことがあっても切り替える力。		
			【日常生活の指導】 「掃除をしよう」 ・教室の掃除の手順を覚える。 ・置いてある物を寄せて床を掃く。	【作業学習】 「木下組」 ・掃き掃除や拭き掃除を隅から隅まで行う。 ・場所に合わせて掃除の仕方を身につける。

※図 3 「職業・家庭科」の授業に関係している行動目標を細分化し、授業づくりの参考にしてしている「目標達成シート」

⑥年間指導計画の評価及び見直し

題材の終了時に評価し、次の題材における指導内容、時数の見直しなどを行った。繰り返しや発展的な学習を積み重ねながら授業づくりに取り組んだ。

⑦「横手のスタンダード」を活用した学習会の実施

本校の授業づくりで活用している「横手のスタンダード」を元に、学習指導要領を根拠にした目標の設定やめあての提示などについて具体的研修を行った。単元構想から授業づくりなどに生かした。

(5) 生徒の変容の評価

- ①個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）
- ②キャリアノートのまとめによる評価（随時、題材ごと）
- ③日々の記録による生徒の変容記録の積み重ね
- ④本人や家庭との面談による評価（8月、12月、1・2月）
- ⑤連絡帳や学年通信等での伝達、共有（随時）
- ⑥「目標達成シート」を活用した自己評価及び他者評価（随時、題材ごと）

学習の積み重ねが分かるように、ワークシートを工夫したり、「目標達成シート」で学びを振り返ったりしながら、生徒自身が何を学んだか理解し、自己理解が深まるようにした。また、学習した内容を連絡帳や学年通信で家庭に伝達し、家族等と状況や情報を共有し、家庭でも学んだこと取り入れた取り組みをしたり、励ましや称賛で意欲付けをしたりなど連携して取り組んだ。



※各学年の実践の様子

6 授業づくりの実際

ミニ授業研究会 中学部 2年合同 職業・家庭科 「いろいろな職業③～家族の職業～」

(1) 授業の概要

生徒たちは職業に関する知識が少なく、将来自分が社会人になって働くことは理解していても、今の自分の課題と将来像とを結び付けて考えることが難しかった。そこで、家族の職業について調べることをきっかけに職業や働くことへの興味関心を広げること、生徒自身が今の自分の課題に気付くことをねらってこの題材を設定した。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

実際に自分や友達の家族が働く職場を見学したことで、生徒たちの職業への関心が高まった。また、職場見学で見聞きしたことや体験したことについてまとめ、発表することで理解の深化につながった。

課題と改善案

<課題>

- ・教科の特性に適した目標を設定し、生徒自身が本時のめあてを理解して学習に取り組めるように分かりやすく提示する。
- ・生活と関連した、生徒の思考を深める対話的な活動を設定する。

<改善案>

- ・学ぶ方法と到達目標を明確にして本時のめあてを立てる。
- ・生徒の生活と結び付けた学習内容を取り上げる。
- ・生徒の思考を促す場面設定、手立ての準備、発問や言葉掛けをする。



採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・本時のめあてに目標達成シートの文言を用いることで関連付けを図る。
- ・目標達成シートを活用し、自分の生活について振り返ったり、評価したり、なりたい自分に近づくための方法を考えたりする活動を設定する。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・「あこがれの人に近づくために」という文言を用いたことで、本時のめあてが分かりやすく具体的になった。
- ・目標達成シートを活用することで、前時までに調べてきた働くために大切なことと生徒の課題を結び付けることができた。
- ・話し合い活動やイラストの提示が考えたり判断したりする材料になり、生徒が自分の課題に気付いたり「〇〇をがんばります宣言」を決めたりすることができた。

<課題>

- ・各々の生徒が自分の意見をもって話し合うために、1人で考える時間を確保する。
- ・今回決めた「〇〇をがんばります宣言」を教師が日々の実践でフォローしていく。また、来年度のプロフィール表作りに反映させるなど将来に結び付く指導を継続していく。



授業改善に取り組んでの所見、感想

家族の職業を題材として取り組んだことで、生徒が自分の家族のことをより理解したり、いくつかの職業について知識を深めたりすることができた。目標達成シートについては、「〇〇をがんばります宣言」という形をとり具体的な目標を立てたことで、生徒に課題を意識させる指導や言葉掛けのきっかけになったほか、評価もしやすくなった。

全校授業研究会 中学部 1年合同
職業・家庭科 「家庭で自分の役割をもとう！～夏休み中の役割～」

(1) 単元構想図

◆生徒（保護者）の思い、願い

- ・「やってみたい」と思う職業に就きたい。
- ・自分でできることを増やしてほしい。



◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より

- ・場面や相手に応じた態度を身に付ける。
- ・日常生活に必要な技術や態度が向上する。
- ・友達と協力して活動し、認められる経験を重ねて前向きに行動する。



◆本題材の概要

・言葉でのやり取りができる生徒から、表情やサインで思いや要求を発信する生徒まで、集団の実態は様々である。身体機能や生活の場の違いから、経験の差も大きい。

本題材では、アンケートの集計結果や調べたことを、自身に合った方法でまとめ、グループ内で発表し合う。家庭での過ごし方を比較し、違いに気付き、生活を顧みることで、自己理解を深める。それにより、学習を生かした家庭内での役割を見つけ、主体的に家庭生活に取り組むことができるようになるのではないかと考える。

対象児童生徒	中学部 1年	指導の形態	職業・家庭	
題材 単元名	「家庭で自分の役割をもとう！ ～学んだことを生かしていこう～」	時数	6 時間	
単元計画表				
小題材名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主な目標	時数
「1日の過ごし方～生活リズム～」	・平日や休日の家庭での過ごし方を表に表す。	主 深	・日常生活を振り返る。（自己理解）	1
「友達と見比べて考えよう」	・必ず必要な時間、自由時間、お手伝い等に分け、発表し合う。	対 深	・仲間と話し合ったり、項目にまとめ発表したりする。	1
「(いろいろな)家庭の仕事を知ろう」	・いろいろな家庭の役割を誰が担当しているか話し合う。	主 対 深	・家庭にどのような役割があるか考え、まとめる。	1
「家庭での役割って」	・学習を生かした役割やその役割を職業にしている人はいるか話し合う。	主 対 深	・職業に係る見方・考え方を働かせ、学習活動を通してよりよい生活の実現に向けて工夫する。	1
「やってみよう 家庭での『役割』」	・学習を生かし、夏休みの家庭生活で自分ができる役割を発表する。	主 対 深	・自分が家庭生活でできることや役割を考え、自分らしく発表する。	1
「夏休みのワンナップ報告会」	・「役割」に取り組んだ感想や、家族からのメッセージを発表し合う。	主 対 深	・発表をしたり、仲間の発表から気付いたことを質問したりして、集団での学びを深める。	1

目標達成に向けての支援

深い学び

- ・課題に対して自分の考えをもつことができるように、情報をまとめる時間を確保する。
- ・学習の必要性を感じられるように、学びが生活の場でどのように役立つのかを具体例を導入で示す。目標達成シートを生かした自己評価を行い、将来へのつながりを丁寧に確認する。

題材目標

- ・平日や休日の過ごし方を振り返り、友達のそれと比較し、様々な過ごし方に気付く。また、気付いたことをまとめて発表する。 **思考・判断・表現**
- ・家庭の仕事と役割、自分にできる仕事と役割が分かる。 **知識・技能** **態度**

主体的な学び

- ・自分の生活リズムという、イメージしやすく、顧みやすい内容から導入する。
- ・学習内容に見通しをもちやすいように、同じ形式での授業展開を繰り返す。
- ・新しいことへ挑戦する意欲がもてるように、これまでの学習活動を振り返り、学んできたことを確認する機会を設定する。

対話的な学び

- ・やり取りから新たな視点を獲得できるように、友達との話合いの機会を意図的に設定する。
- ・活発に活動が展開されるように、発表や話合い場面での生徒からのつぶやきやキーワードを拾い上げて生徒に返す。
- ・友達と関わりながら学ぶことができるように、描く、身体で表現するなど生徒の得意な方法で表現できるようにする。

(2) 授業の概要

「やってみよう家庭での『役割』」では、職業・家庭科で実践した清掃や洗濯などの技術を生かして、夏休みに実践する役割を自己決定し、友達の前で発表することで気持ちを高め、家庭生活への主体的な取り組みをねらった。

「夏休みのワンナップ報告会」では自分にできることを実践したことで、自己有用感や役割を果たす喜びや楽しさを味わう機会をもち、発表することで自信と家庭生活での主体性を育てることをねらった。



(3) 授業実践の様子

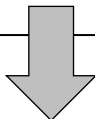
①全校授業研究会

○手立てなどの工夫

- ・活動や学習内容に応じて学習グループを編成し、教師間の役割分担を再構築した。
- ・導入やまとめで仲間と関わり合う機会をもち、発表を通じて学びを共有する機会を設定した。
- ・発表練習の時間を充実し、試行錯誤しながら自分の得意な方法で表現できるように時間を設けた。

○授業者評価

- ・教師が過剰な介入を行わないことで、生徒主体の意見交換が行われた。一方で、メンバーの実態によっては教師と生徒が一对一の学習になってしまう場面も見られた。
- ・自己評価や他者評価の時間を充実することや、言葉で伝えることが苦手な生徒の、主体的、対話的な学びの機会や時間を十分確保する必要がある。
- ・発表することが最終目標とならないように、何を達成するために、発表する必要があるのかを確認する必要がある。



②改善授業

○改善した内容

- ・主体的に発表の準備を進めることができるように、発表の文言や実演発表の仕方をパターン化する。
- ・話す態度、聞く態度を意識できるように、話す、聞く、意見を言う機会を分けて設定する。また、聞く際の観点を示し、発表に対して意見が出しやすい環境を設定する。
- ・「ねらい」と「活動」を短い文言で分かりやすく伝える。

○授業者評価

- ・繰り返しの学習活動によって、生徒一人一人がすべきことが分かって取り組むことができた。生徒同士のやり取りも見られ、対話的に学び合うことができた。具体的な行動目標を立てるまで進めていた生徒もいた。
- ・どのような姿が生徒一人一人にとって望ましい関わりなのか整理し、授業の中でどのような活動を取り入れると主体的、対話的に関わるができるかを検討改善していきたい。
- ・本時のゴールへの見通しと学習課題への動機付けがなされた生徒が多かった。この時間に「〇〇な力が付いた」と思える、ねらいと直結したまとめを工夫していきたい。

(4) 成果と課題


①成果

- ・主体的に活動して「めあて」を達成できるように、内容に合わせてグルーピングを編成し、同じ流れで授業を進めたことで、生徒同士が教え合ったり、評価し合ったりする様子が見られた。
- ・役割に取り組んだ感想や家族からのメッセージを発表することで、自己有用感が高まり、「役割を続けてみようかな」という言葉を生徒から聞くことができた。


②課題

- ・活動や自己評価が充実するように、適切な時間配分や活動の精選をする。
- ・主体的に活動できるように、生徒が学習の必然性を感じる課題設定が必要である。
- ・これを学ぶことによって何ができるようになるかを、生徒が理解できているか、また、ねらいとまとめの適合が図られているかを十分に吟味して授業づくりをする必要がある。

(1) 単元構想図

◆生徒（保護者）の思い、願い 

- ・高等部に進学したい。
- ・自分に合った仕事を見つけ、生き生きと生活してほしい。

◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より 

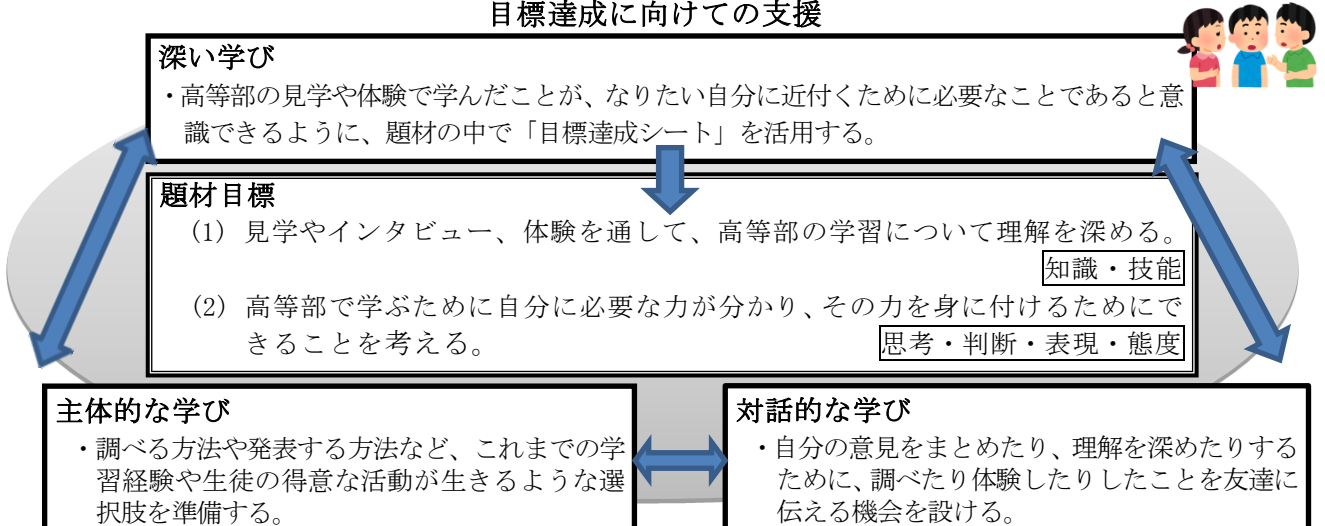
- ・目標や目的をもって、学習に取り組む。
- ・得た知識をもとに体験し、さらに課題を見つけ、自分を高めようとする。

◆本題材の概要

本題材では、中学部と高等部の違いについて調べたり、体験したことを相手に伝えたりする活動を柱とする。時間割や作業、部活等について見学やホームページ等を活用して調べ、報告の中から、どのような学習に増減があるのかをまとめる。また、特に時数に大きな違いがある作業学習の体験も取り入れながら進める。作業学習の体験では、各作業班の求められる力を知ること、高等部で学ぶために自分に必要な力を考える機会にしたい。

対象児童生徒	中学部3年合同	指導の形態	職業・家庭科	
題材 単元名	「目指せ高等部Ⅱ～高等部見学・作業学習体験～」	時数	20時間	
題材計画表				
小題材名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主な目標	時数
高等部について調べよう。	・調べる方法の検討（見学、インタビュー、HP） ・調べた内容の発表（作業班、時間割、教室環境等）	主 深 対	・ホームページの検索や見学、インタビュー等、調べる項目に合った方法を選択する。 ・調べたことをまとめ、分かりやすく伝える。	5
中学部との違いについて考えよう。	・中学部と高等部の違いについて意見交換	対 深	・時数の増減している学習について、理由を友達と話し合う。	1
高等部の作業を体験しよう①②	・各作業班の体験 ・作業内容や作業で「伸ばせる力」についての振り返り ・発表、感想のまとめ	主 対 深	・希望する作業班を選択する。 ・体験した作業を振り返る。 ・各作業班で伸ばせる力が分かる。	11
自分の「付けたい力」を発表しよう	・作業班で伸ばせる力から自分が付けたい力を考える。 ・目標達成シートを活用した振り返り	対 深	・自分が付けたい力について考え、友達と伝え合ったり、話し合ったりする。	1
中学部で取り組めることを考えよう。	・普段の学習で取り組むことを具体的に考える。	対 深	・具体的な行動目標を立てる。	2

目標達成に向けての支援



(2) 授業の概要

- ・これまで、中学部と高等部との違いについて調べてきた。時数が大幅に増える作業学習について実際に体験を通して高等部の学習に触れていく。また、各作業班の「伸ばせる力」をもとに自分の将来像に照らし合わせながら、現在の自分の姿を振り返っていく。高等部進学を機に自分が『付けたい力』を整理できるようにしていく。

(3) 授業実践の様子

①公開研究会事前授業研究会

○手立てなどの工夫

- ・次時に体験発表をするため、作業班ごとのグルーピングで振り返りをした。
- ・体験したことを整理しながらまとめることができるように個別にワークシートを準備した。ワークシートをに体験した各作業班で聞いてきた『伸ばせる力』を記入できるようにした。

○授業者評価

- ・生徒対教師の一对一での支援が多くなり、生徒同士の学び合いの機会がなかった。
- ・各作業班で聞いてきた「伸ばせる力」の言葉に対する理解に差があるため、言葉の整理をする必要であった。
- ・卒業後の目指す姿と現在の学習とのつながりが見えるような工夫が必要である。

②公開研究会公開授業

○改善した内容

- ・卒業後の目指す姿と自分の姿との関連が明確になるように授業の中で「目標達成シート」を活用した。
- ・生徒同士で意見が言い合えるようなグループ構成にした。
- ・各作業班の「伸ばせる力」について意見交換をし、教室内に掲示した。

○授業者評価

- ・生徒一人一人がじっくり課題に取り組んでいた。また、生徒同士のやり取りがあり学び合いになっていた。具体的な行動目標（次時の目標）を立てるまで進めていた生徒もいた。
- ・本時のゴールへの見通しと学習課題への動機付けが様々な工夫できていた。

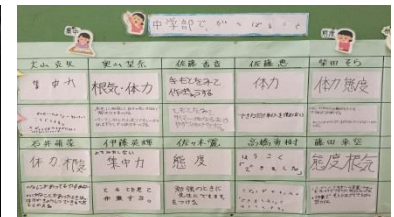
(4) 成果と課題

①成果

- ・生徒の実態に合わせたワークシートを活用することでねらいに迫ることができた。
- ・実態に合わせたグルーピングを工夫することで、他者評価の機会を設定することができた。
- ・一人一人の生徒が、高等部の進学を目の前に自分の姿を見つめ直して新たな目標を立てることができた。

②課題

- ・体験した各作業班の「伸ばせる力」をもとにした授業づくりだったが、各生徒の言葉に対する理解度に差があったため、自己理解を図る手立てと言葉を結びつけるまでの過程を丁寧に行う必要があった。



7 学部研究の成果 (○) と課題 (●)

(1) 「職業・家庭科」の系統的な指導内容の整理

教育課程の検討～「職業・家庭科」の時数増加、目標設定、他の指導との関連

- 昨年度より週1単位時間「職業・家庭科」の時数を増やしたことで、職業分野の指導を充実させることができた。学年によって家庭分野と職業分野を学習する割合を段階的に変え、1年生は家庭分野を中心にし、2年生は職業分野を少し増やして取り組み、3年生は高等部進学を見据え職業分野を多く設定するようにした。家庭分野の割合を多くした1年生では、家庭等と連携して進めていくということが定着しつつあり、学習で得られた知識を、実際の生活の場で活用していくことができることが増えた。家庭との連携のベースが築けたことで、学年が上がっても継続、連携しながら取り組むことができた。また、学年が進むにつれ、自分の将来の生活を意識した学習内容を展開することで、職業生活への意識も高めることができた。
- 目標、めあて、題材等が、学習指導要領に明記されているので、題材を組み立てていく際や指導する際の目的が明確になり、知識や理解をしっかりと身に付けさせる内容を展開できた。
- 教科としての目標設定が難しく、「めあて」をどのように伝えたらよいかなど迷うことが多かった。目標設定や振り返り、めあてやまとめなどの研修会を行ったが、実際の場面で生かしきれないことも多いため、研修内容を深めながら実践できるよう、研修内容の工夫や更なる研修の機会の設定が必要だった。
- 発達段階に応じた教科指導の難しさがああり、研究会等を通じて合わせた指導や自立活動との兼ね合いを確認したが、更に話し合いを深め、確認する必要がある。

中学部で育てたい力の検討及び評価～年間指導計画の作成及び検討、職業・家庭科における「指導内容チェック表」の活用及び修正～

- 同じ指導内容であっても、各学年においてねらいが異なるため、目標や具体的な指導内容の詳細についても話し合い、共通理解することができた。他の教科との関連性についても一項目ずつ確認し、「指導内容チェック表」を修正しことで、学びのつながりを意識した実践になった。
- 年間指導計画の評価や見直しをする際に「指導内容チェック表」を確認したことで、学びの積み重ねを意識して指導することができた。
- 3年生は昨年度からの実施であったため、指導内容を精選する必要がある、詰め込んだ形の内容になってしまった。指導内容表に実践した時期を記入したことで漏れなく計画、実践することができたが、3年間を見越した指導計画をどの段階で計画したらよいか示しきれなかった。各学年の実態や家庭環境、今までの学習内容などが異なるため、それらに応じて指導内容や順序等を考慮した計画の立案が難しい。「指導内容チェック表」の活用の仕方や形式も含め、どの段階で3年間の計画をするのが有効か検討していきたい。

(2) 「なりたい自分」を目指した行動目標の設定や評価～自己理解を深めるための「目標達成シート」の作成及び活用～

「目標達成シート」の活用による将来像の明確化

- 「目標達成シート」を活用した面談を行ったことで、生徒と教師が目標を共有し、同じ方向で指導に当たることができた。
- 面談や「目標達成シート」の確認を繰り返し行ったことで、「なりたい自分」の修正を行い、将来の自分を具体的にイメージできるようになってきた生徒も多かった。
- 職業・家庭科の学習においても、行動目標と学習で学んだことを結びつけて考える機会を設けたことで、学びと自分の「なりたい自分」を関連付けて考えるようになった。行動目標を意識した取り組みが日々の生活の中でできるようになってきた。
- 具体的に「なりたい自分」を表現できない生徒に対して、イラストや選択肢を提示したり、保護者からの願いなどから話し合ったりして提示した。本人の想いをいかにくみ取って将来の姿を提示できているか、それに付随する行動目標を適切に設定できるかを、保護者や担任など複数の視点で考えていく必要がある。
- 「なりたい自分」という理想と現実の間のギャップを今後どのように埋めていくかなど、長期的に考えていくことも必要であるため、「目標達成シート」の形式や活用方法の再検討も含めて、継続的な活用を検討したい。

具体的行動目標の提示による意識付け

- 教室に掲示して、いつでも見られるようにしたことで、教師と生徒で目指すべきことや今がんばることの共通理解が図られ、達成度や努力事項を明確にできた。また、行事や夏休みの生活などでの目標を立てる際も、「目標達成シート」を参考にして自分で考えることができただけでなく、日頃から「目標は何だった？」と確認することに役立ち、生徒自身の自己理解を高め、意識付けが図られた。
- 職業・家庭科の学習においても活用したが、生徒の理解度や生活への生かし方が十分ではなかった。「目標達成シート」を教室に掲示して活用したが、「自分で」「家庭で」など色々な場面で見返したり、確認したりできるように家庭にも配付するなど活用の仕方を再検討したい。

本人、家庭、学校との連携した取り組みによる目標の共有

- P T A授業参観時の学年懇談や保護者面談の際に「目標達成シート」を提示し、確認することで生徒の願いや夢などを共有することができた。将来に結び付く具体的な行動目標と一緒に確認することで、家庭での取組に生かしたり、家庭からの協力が得やすくなったりした。
- 前述したように、自己表現が難しい生徒の目標設定に関しては、家庭との話し合いや共通理解が大切になってくる。目標設定だけではなく、評価していく際も適宜連携して取り組む必要がある。

個別の指導計画との関連や授業への活用～より学びの般化につなげるために～

- 職業・家庭科の授業において、職業生活における仕事内容の理解や将来の自分などを考えるツールとして「目標達成シート」を活用した。職業が自分の生活や将来像とどのように関わっているのか深く理解することにもつながり、学んだ知識や目標が、実生活に生かすことにつながった。
- 今年度は、「目標達成シート」を作成するに当たり、教師が個別の指導計画を念頭に生徒と面談し行動目標を設定した。より具体的に行動目標と個別の指導計画がリンクすることで、本人、家庭、学校が同じ方向を向いて取り組むことになり、さらに学びの般化につながると考える。そのため、個別の指導計画が反映された「目標達成シート」の形式を検討していきたい。

行動目標の評価と次の目標設定

- 自分自身で行動目標の評価をすることで、「なりたい自分」を意識したり、行動目標を達成するためにはどうしたらよいか考えたりすることが増えた。日々の生活の中でも意識するようになり、行動を見直したり、次の目標を設定する際に自分を見つめ直したりするなど自己理解が高まってきている。
- 行動目標を評価する際、自己評価と教師等からの評価に違いが生じた際、教師主導で評価しようとしたり、目標設定する際に評価の視点が曖昧になったりしないよう、到達度や達成度も具体的に示しておく必要がある。

(3) 様々な場面や状況に対応できる力の育成

- 「なりたい自分」を目指して行動目標の設定や評価を行いながら学習を積み重ねることができた。将来の自分をイメージして目標を具体的に設定したことで学習だけでなく、家庭生活でも取り組んでみたという生徒も多く、生活面でも意識づけることができた。
- 学びが自信となり、「他の場面でも取り組んでみよう」「学級の友達がいなくてもやってみよう」などといった場面や状況の変化に対応できる力が十分育まれたとは言い難い。授業以外でも目標が意識づけられてきているため、般化への兆しがあるが、十分な検証には至っていない。「目標達成シート」を活用して学習の発展的な積み重ねを行いながら、日々の生活で学びを生かす場面を設定したりすることを増やしながらか適切に評価し、学びを自信につなげ、様々な状況に対応できる力を育てていく必要がある。

Ⅲ 高等部の実践

1 研究テーマ

本人が望む生活に向け、環境や状況に対する判断や調整をする力を身に付け、
進んで学びを生かす生徒を育む ～家庭科の実践を通して～

2 テーマ設定の理由

(1) 生徒の実態

高等部では、身辺処理が概ね自力でできる生徒のほか、肢体不自由を併せ有し、日常生活全般において支援が必要な生徒が在籍する。コミュニケーション面では、日常生活で言語によるやりとりが可能で、学習場面で活発な意見交換が増え、また発声や身振り、表情なども含めた意思や気持ちの表出ができ、互いに共有する場面が多く見られる。

学校生活において事業所での実習や職場見学等、地域での活動は、生徒にとっては自分の力を試す機会であり、認められる場である。そのために、基盤となる家庭生活は生徒の生活や精神的な支えとなるため、安定し、充実していることが必要かつ重要である。卒業後の生活を豊かにするにあたり、将来の具体的な生活像がイメージできないことや進路や社会生活に関する知識や経験が不足していることが課題として挙げられる。

(2) 今年度の研究

昨年度は、教育課程に家庭科を新たに位置づけ、授業づくりに取り組んだ。自分の「役割」に気付き、「自分らしさ」を発揮できるように、家庭生活や家族の役割等に関する学びの般化を目指した。本人が望む家庭生活につなげられるように、面談や進路相談で聞き取り、作成した個別の支援計画を活用し、家庭と連携し、授業づくりに結び付けたことで、家族を巻き込んだ役割の実践が報告されるなどの成果が見られた。授業づくりにおいては、生徒の思考力・判断力・表現力を促すために内容や計画、授業構成などにおいて授業研究会を通して試行錯誤を繰り返したことで、生徒の主體的な自己選択・自己決定する姿につなげられた。

そこで今年度は、家庭科の授業づくりを通して、学習し経験した学びを活用するために、「何ができるようになるか」関連付けられる目標を精査し、「何を学ぶか」指導内容を系統的・段階的に表し、「どのように学ぶか」立案した単元計画にそって評価することで、家庭や地域社会の中で、今よりも一歩やってみようと挑戦する生徒を育てる。そのために生徒の実態を丁寧に見取り、できる条件や環境をICFの視点を取り入れた「フェイスシート」で整理し、授業づくりに用いる。生徒がより力を発揮しやすい環境を整理し、工夫することで、生徒は場面や状況に応じた判断力や調整力が身に付き、友達と考えを伝え合って合意形成を図ったり、協働しながら学習を進めたりすることができる。さらに卒業後には身に付けた力を生かし、周囲と関係を調整しながら生活できるのではと考え、本テーマを設定した。

3 研究仮説

家庭科の授業づくりにおいて、生徒が積み重ねた経験や学びを生かすために、教師が生徒のより力を発揮しやすい環境を整理し、工夫することで、生徒は場面や状況に応じた判断力や調整力が身に付き、友達と考えを伝え合い、協働しながら、進んで学びを生かすことができるだろう。

4 研究の計画

月	日	主な活動
5	30	学部研究会①（全校研究の確認と今年度の高等部研究について）
7	25	学部研究会② （題材一覧と年間指導計画の関連性、「フェイスシート」による実態把握）
7	26	単元構想会（1年1グループ）
7	30	単元構想会（3年1グループ）
8	24	単元構想会（3年3グループ）
8	29	全校授業研究会事前授業提示
9	3	ミニ授業研究会（1年1グループ） → 9 / 10 改善授業
9	5	全校授業研究会（3年1グループ） → 1 / 30 改善授業
9	7	単元構想会（1年2グループ）
10	1	ミニ授業研究会（3年3グループ） → 10 / 17 改善授業
10	3	ミニ授業研究会（1年2グループ） → 10 / 22 改善授業
10	15	公開授業研究会事前授業研究会（2年1グループ）
11	1	家庭科担当者会
11	6	公開研究会に向けて指導案等検討
11	13	学部研究会④（公開研究会に向けて学部研究の成果と課題の共通理解）
11	20	単元構想会（2年3グループ）
11	28	公開授業研究会（2年1グループ） → 1 / 23 改善授業
11	29	単元構想会（2年2グループ）
12	3	ミニ授業研究会（2年3グループ） → 12 / 10 改善授業
12	3	ミニ授業研究会（3年2グループ） → 1 / 21 改善授業
12	12	ミニ授業研究会（2年2グループ） → 12 / 17 改善授業
1	11	学部研究会⑤（今年度のまとめ、来年度の方向性の確認等）

5 研究の実際

(1) 教育課程の検討

①学部に於ける検討と確認

今年度の教育課程について全職員で協議し、学部の経営方針や努力事項、学部のキャリア教育の重点、週時程等を確認し、共有した。（4 / 3、4 / 5、4 / 12）

②アンケートによる成果と課題の整理

学期ごとにアンケートによる成果と課題を基に、学部会等で協議し、次学期に向けて改善点を共有した。（6 / 11、7 / 5、8 / 6、9 / 6、9 / 27、11 / 8）

(2) 高等部で育てたい力の検討

①個別の育てたい力の確認と検討

全校の経営方針を受け（4 / 17）、学部会（5 / 14）で育てたい力を確認し、各学年・学級で個々の育てたい力を確認した。

②学部研究会における協議と確認（学年部又は学習グループでの協議及び全体協議

全校研究会（4 / 19）を受け、学部研究の方向性と授業研究会の年間計画について、育てたい力と研究との関連について、検討と確認を行った。（5 / 30、7 / 25）

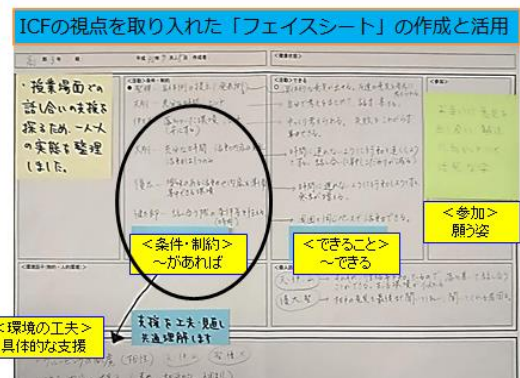


図1 ICFの視点を取り入れた実態把握の例

(3) フェイスシートによる実態把握（図1）

教師の視点の変容をねらい、ICFの視点を取り入れた実態把握に取り組んだ。生徒が力を発揮しやすい環境を整理し、学部（5 / 30）及び全校（7 / 24）で共通理解を図った。

(4) 題材一覧と年間指導計画の検討

題材一覧と年間指導計画を改めて見直した。教科等の題材や単元同士のねらいや指導内容を学習グループごとに取り上げて検討した。縦断的・横断的な関連付けがなされているか、カリキュラム・マネジメントの視点で再検討し、改善に生かした(図2)。(7/25)

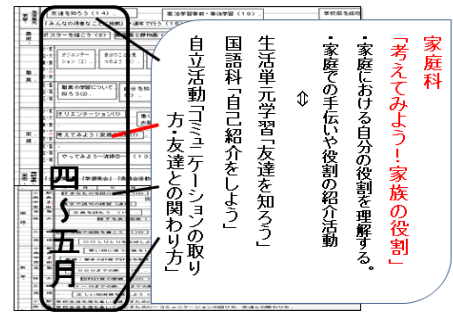


図2 家庭科と関連付けを検討した例

(5) 家庭科の授業づくり

(9月～学年合同又は学習グループで実施)

①授業研究会を通して得られた授業改善の要点と研究仮説の関連(抜粋)

ア 何を身に付けさせたいのか、学習課題の焦点化	～力を発揮しやすい環境
イ 対話的活動の在り方	～友達と考えを伝え合い、協働する
ウ 深い学びへの発展	～積み重ねた経験や学びを生かす

②授業研究会

【ミニ授業研究会】1年1グループ 題材名「挑戦しよう！家庭の役割～掃除編～」
ア 導入で、めあてを明確に伝えられる準備が整っていた授業であった。何のために掃除するのか、各生徒が考えを伝えることができていた。
イ 課題意識を高める発問や「～だろうか？」とするめあての提示の仕方によって授業を展開すると、グループでの意見がより発展的に広がったのではないかと。
【ミニ授業研究会】1年2グループ 題材名「やってみよう～洗濯～」
イ グループの中で実態差が大きい場合、生活に生かす段階や役割を果たして認められる段階の指導内容をどう考えていくか、対話的な学びを改めて考えていく必要がある。
【ミニ授業研究会】3年3グループ 題材名「クリーン大作戦～気持ちよく過ごすために～」
ア 生徒の言葉を生かしためあての提示は効果的であり、振り返りやすい。
【ミニ授業研究会】2年3グループ 題材名「作ってみよう③～クリスマス飾り～」
ア 好きな色やキャラクターを取り入れたこと、得意な、巻きかがり縫いに取り組んだことで意欲的な姿が見られた。
【ミニ授業研究会】2年2グループ 題材名「家での食事を作ろう～横手の冬野菜を使って～」
ア 正しい答えを正しい理解で、何を身に付けるか、焦点化したい。
イ 課題を生徒から引き出すヒントが出される問いかけがあった。
【全校授業研究会】3年1グループ 題材名「日常の食事と調理②～焼きそばとスープの調理～」
ア まとめをグループの話合いの結果として発表に取り入れていた。深い学びに向け、個からグループへ、グループの学びをどう一人一人に落とし込むかをまとめとして考えたい。
イ 意見を出しやすいように、色分けされた付箋を用いたことで、思考が整理され、考えながら意見交換がされていた。
ウ 今まで学んだことを思い出ししながら、課題解決に向けて個々で考えたり、友達と意見交換しながら考えを深めたりする姿が見られた。

【公開研究会】2年1グループ 題材名「地域の食材と郷土料理②～横手の野菜を生かそう」

ア 「まとめる」ことがねらいか、「まとめること」で「理解する」ことがねらいか、教師と生徒の捉え方に差がないように、学習課題の工夫と焦点化が必要。

イ 話し合いは継続することで、流れを知り、意見が出やすくなる。経験を積み重ねたい。

ウ 課題を理解し、調べ、実生活へ生かすために、題材を貫いたキーワードがあれば分かりやすい。

③単元構想会及び指導案検討会の実施

ア 単元構想会では、単元構想図や年間指導計画を基に、授業改善コーディネーターからの助言を受けながら授業づくりについて話し合いを深めた。家庭との連携が図られていることやねらいにせまる手立てを明確にすることを押さえた。

イ 授業改善コーディネーターや教育専門監、研究主任からの助言を受けながら意見交換し、指導案を検討した。家庭科としてのねらいにせまるために、評価規準を設け、精選した授業づくりを目指した。

④家庭科の指導計画作成に関わる指導内容の検討と関連した学習の確認

ア 各学年・学習グループで家庭科の年間指導計画作成に当たり、関連する学習活動や活用できる地域資源の検討を行った。昨年度作成した「指導内容チェック表」(図3)で既習内容と併せながら、実態に合わせた指導内容を選択し、指導計画を作成した。また、主に家庭科担当で、3年間を見通した段階的で系統的な指導内容について、関連する必要資料について検討をした。

イ 事前に家庭とのやりとりを通して、題材に関する生徒の実態や家庭での取り組み、保護者の願いなどを聞き取り、学習に生かした。家庭での実践を学習で取り上げ、再び家庭で試すなど定着を図るようにした。

⑤授業振り返りシートを活用した評価と反省

題材ごとに授業づくり振り返りシートを活用し、学習グループごとに次の題材での授業づくりに向けて課題を明らかにし、改善を図った(図4)。

(6) 生徒の変容の評価

- ①日々の記録による生徒の変容評価の積み重ね
- ②個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し
- ③1単位時間の学習の振り返りや題材ごとのまとめによる評価
- ④本人、家庭との面談による評価
- ⑤連絡帳や学年通信等での伝達(図5)

指導内容チェック表

図3 家庭科指導内容チェック表の指導内容一覧

図4 授業づくり振り返りシート

図5 家庭へのお知らせとアンケート


6 授業づくりの実際

公開研究会 高等部2年1グループ 家庭科 「地域の食材と郷土料理②～横手の野菜を生かそう～」

(1) 単元構想図


◆生徒（保護者）の思い、願い

- ・卒業後は仕事をして、自立した生活を送ったり、親孝行したりしたい。
- ・自分でできる家事を増やしてほしい。



◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より

- ・家庭や地域で生活する人として必要な知識や技能を身に付けてほしい。
- ・友達と協力して学習を進めてほしい。



本題材の概要

1学期は、秋田の郷土料理をまとめ、味や彩りの視点から米のアレンジレシピを考え、調理をした。本題材では、新鮮さや価格に応じた食材選択（地産地消）の知識や地域の野菜を生かした調理を通して、これからの生活に生かせる実践的な力を身に付けることをねらいとしている。また、横手市役所の方々の協力を得て横手の野菜や郷土料理について教えていただき、学んだことを家庭で実践できるようにしていきたいと考えている。

対象生徒	高等部2年 家庭科1グループ	指導の形態	家庭科	
題材名	地域の食材と郷土料理②～横手の野菜を生かそう～	時数	15時間	
題材計画表				
小題材名	学習活動内容	期待する学び	主な目標	時数
地域の食文化	・横手の郷土料理や農産物の理解 ・横手の食文化のまとめ	国 対	・横手の郷土料理や農産物に関心を持ち、横手の食文化を理解する。	4
これからの食生活	・地産地消の意味、よさの理解 ・地産地消をするためにできることの見聞交換	国 対	・地産地消の意味やよさについて理解する。 ・地産地消をするために自分ができていることを考える。	4
健康においしく	・地域の野菜を使った調理（調理計画、買い物、調理）	国	・地域の野菜を使った調理計画を考える。 ・手順に従い、安全や衛生に気を付けて調理する。	5
家庭で実践しよう	・家庭での実践計画の立案 ・実践交流の発表	深	・学んだことを生かして実践計画を立て、家庭で実践しようとする。	2

目標達成に向けての支援

深い学び

- ・知識として定着するように、小テストを行う。
- ・学んだことを生かせるように、学習したことを家庭に伝えたり、家族にアンケートをとって家族のニーズを参考に授業を構成したりする。

題材目標

- ・地域の食文化、農産物の豊かさ、地産地消のよさ、地域の食材を使った調理方法について理解したり、地域の食材を使った調理や献立に応じた買い物に関する方法を身に付けたりする。 [知技]
- ・価格や鮮度を意識した野菜の選び方（地産地消）、地域の食材を使った調理計画、地産地消をするために自分たちができていること、家庭で実践できていることを考える。 [思判表]
- ・地域の食材や郷土料理に関心を持ち、地域のために自分ができることを実践しようとしたら、地域の食材を使った調理を家庭で実践しようとしたら。 [態度]

主体的な学び

- ・目指す姿を意識できるように、題材のゴールや1単位時間ごとのゴールを提示する。
- ・実生活に生かすことができ、自分たちで解決したいと思えるような発問の工夫をする。

対話的な学び

- ・話合いに参加できるように、個で考える時間を設けたり、意見交換の場を設けたりする。
- ・整理して考えられるように、出された意見を視覚化する。

(2) 授業の概要

これまでの生活経験から郷土料理については全員が知っていたが、横手で作られている農作物については分からない生徒がほとんどであった。横手の郷土料理や農産物についての知識を深め、地域の野菜を生かした献立を作る活動を通して、卒業後も生活していく横手の食文化を自分の生活に生かしていこうとする気持ちを育てることをねらった。さらに、地産地消について触れ、農作物の新鮮さや価格の安さなどのメリットを知り、地域の野菜を生かした調理実習を行うことで、家庭での実践や将来の力につなげていきたい。

(3) 授業実践の様子

①公開研究会事前授業研究会

○手立てなどの工夫

- ・導入でこれまでの学習の振り返りテストを行った。
- ・板書計画を立て、これまでの学習経過が分かるように提示した。
- ・めあての提示とともに、ゴールの姿を提示した。
- ・付箋を使ってキーワードを出すことで、自分たちでまとめられるようにした。



○授業者評価

- ・導入に時間が掛かってしまったため、まとめの時間を十分に確保できなかった。
- ・板書での情報が多く、精選する必要があった。
- ・まとめが具体的になるように、目標を焦点化する必要があった。
- ・学んだことが実生活に生きるようなまとめができなかった。

②公開研究会公開授業



○改善した内容

- ・活動自体の時間を確保するため、導入を簡潔にした。
- ・思考の過程が分かるような板書計画、ノートを活用。
- ・思考の過程が分かるように、ペアでの意見交換後にホワイトボードで視覚化した。
- ・知識を実生活につなげられるように、自己選択・自己決定の時間を設けた。



○授業者評価

- ・確認テストの問題数を1問にしぼることで、導入の時間が簡潔になった。
- ・板書とノートがリンクするようにすることで、生徒の考えを整理できた。
- ・ホワイトボードで視覚化することで、自分の考えを整理する様子が見られた。
- ・ゴールの姿を提示することで、自分が生活の中で実践できそうなことを考えていた。

(4) 成果と課題

①成果



- ・導入で前時の確認テストを行うことで、知識の定着が図られた。
- ・ノートを活用することで、個々の言葉でまとめ、内容を振り返って考えることができた。
- ・学んだことを生かして献立を考え、必要な食材を買い物したり、調理したりすることを家庭で実践してみようという意欲につながった。

②課題

- ・まとめの時間の確保するために、活動内容を精選したり、インタビュー内容を整理したりする必要がある。
- ・教師のイメージと生徒の反応がズレないように、家庭生活から学習課題を考える。

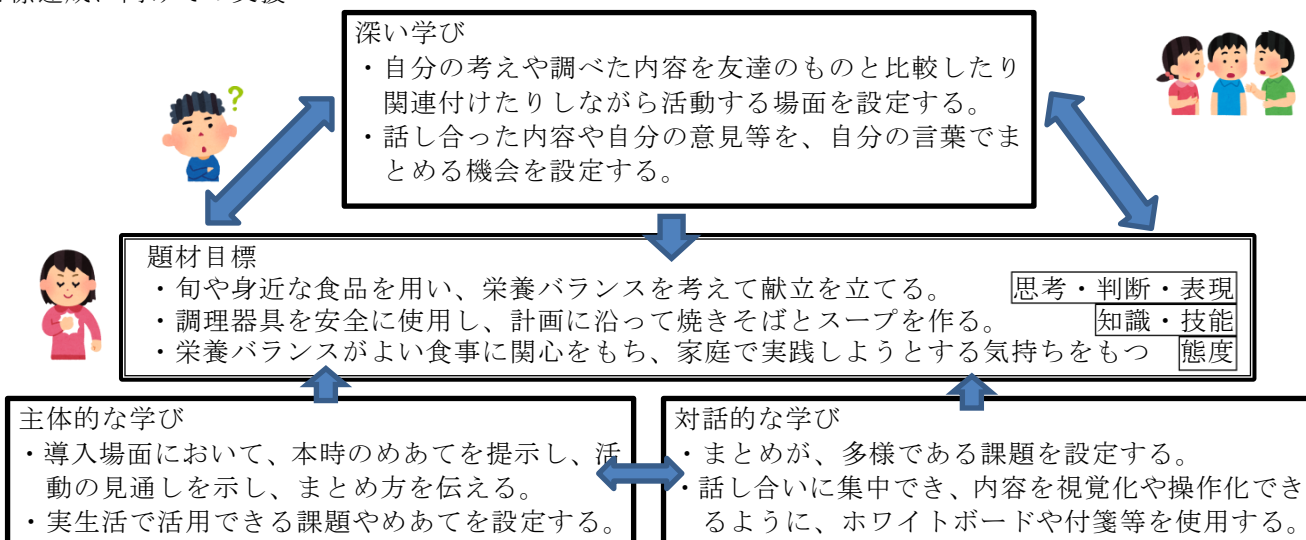
全校授業研究会 高等部3年1グループ 家庭科「日常の食事と調理②～簡単な調理～」

(1) 単元構想図

<p>◆生徒（保護者）の思い、願い </p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業したら、働いてお金を稼いで、親を楽させたい。 調理したり、食べたりすることが好きだけど、一人で料理をするのは不安。 	<p>◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より </p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養バランス考えた食事を選択できるようになってほしい。 簡単な調理を安全にできるようになってほしい。
<p>◆本題材の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 前題材では、食品の栄養的特徴による3つのはたらきについて学び、食品の栄養的特徴を考えながら、1食分の総菜等を購入した。本題材では前題材を発展させ、コンビニやファーストフードの適切な利用の仕方と自分たちで調理をして食事をするよさを考え、旬の食材や身近な食品を用い、調理に関する基礎的な知識や技能を身に付けることをねらいとしている。 	

対象生徒	高等部3年 家庭科1グループ	指導の形態	家庭科	
題材名	「日常の食事と調理② ～簡単な調理～」	時数	13時間	
題材計画表				
小題材名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主なねらい	時数
「オリエンテーション」	・前題材での学習を振り返り、食事を購入する機会やよさ、調理をする機会やよさを考える。	主	・コンビニやファーストフードの上手な利用の仕方を知る。 ・調理によって食事をとるよさを知る。	2
「旬の食材と身近な食品」	・旬の食材や家庭でよく購入する食材を調べる。	主	・旬の食品や家庭で購入する身近な食材を知る。	2
「献立を考える」	・焼きそばとスープに使用する食品を栄養バランスがよくなるように選ぶ。	主 対 深	・旬の食品や身近な食品を組み合わせ、栄養バランスがよくなるように、1食分の献立を計画する。	2
「焼きそばとスープの調理」	・考えた献立を計画に沿って調理する。	主 対 深	・安全面や衛生面に気を付け、調理器具を正しく使って調理する。	5
「振り返りと家庭での実践」	・学習したことを振り返り、家庭での調理計画を立てる。	深	・栄養バランスのよい食事に関心を持ち、家族と一緒に献立を考えたり、家庭でも調理に取り組んだりしようとする気持ちをもつ。	2

目標達成に向けての支援



(2) 授業の概要

前題材で学習した、食品の栄養的特徴による3つのはたらき（3つの食品群）やバランスのよい食事の仕方と、本題材で学習した、旬の食材や家庭でよく購入する身近な食品についての知識を生かし、焼きそばやスープに使用する具材を話し合っ決めて、1食分の献立を立てることができることをねらった。

(3) 授業実践の様子

①全校授業研究会

○手立てなどの工夫

- ・話し合いに集中でき、話し合う内容を視覚化・操作化できるように、ホワイトボードや付箋等を使用した。
- ・「フェイスシート」を用いて生徒のできる状況を整理し、話し合いがスムーズに進むよう、「話し合う」活動と「書く」活動を分けた。

○授業者評価

- ・話し合いでは、生徒から様々な意見が出たが、前時までの学習や今まで身に付けてきた知識を用いて話し合うことは難しかった。前時までの資料を確認する時間が必要であった。
- ・まとめを、グループで話し合ったことを文章化し、代表が発表する活動としたが、生徒一人一人が本時の学びを振り返る必要があった。



②改善授業（又は公開研究会公開授業）

○改善した内容

- ・一人一人が授業を振り返って、本時の学びを残すことができるまとめの工夫。
- ・生徒が分かりやすい、題材の内容と配列の工夫。

○授業者評価

- ・清掃や整理・整頓の必要性について、自分の言葉でまとめ、記入できた。
- ・具体的で体験的な教材を準備したことで、主体的、対話的な活動ができた。
- ・生徒の実態をもっと詳しく把握し、個別の目標をより具体的にする必要があった。

(4) 成果と課題

①成果

- ・題材の始めに、家でよく使用する野菜や食品について調べ学習を行い、生徒自身が自分の家庭のことを知る学習を設定したり、保護者へアンケートを取ったりしたことで、各家庭の生活に即した学習ができ、家庭での実践につながった。
- ・学習計画表と共に、本題材時終了後に生徒が目指す姿も提示することで、学習に目的をもって取り組むことができた。



②課題

- ・活動を通して、感じたことや学んだことを自分の言葉でまとめ、生徒が今後の学習へつなげることができるまとめにする。
- ・生徒の実態をもっと詳しく把握し、個別の目標をより具体的にすると共に、題材への動機付けや学習への必要感にも生かしていく。

ミニ授業研究会 高等部1年1グループ 家庭科「挑戦しよう！家庭の役割～掃除編～」

(1) 授業の概要

これまで、家族の一員として家庭の役割の一部を担おうという学習を行ってきており、長期休業や週末を利用して自分ができる役割に取り組んできた。本時では、様々な家庭の役割の中から清掃を取り上げ、ちらかった部屋や、汚れた台所などの写真から、話し合いを通してなぜ清掃が必要かを考え、清掃の大切さに気付くようにした。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

- ・展開で時間がかかり、まとめに時間をかけられなかった。展開場面でワークシートにまとめる場所があったが、一部省略したため、授業内容を絞ってもよかった。
- ・自分なりの意見を付箋に書いていたことで、それぞれの意見を出し合うことができた。その分、意見がたくさん出て、まとめを絞りきれなかった。
- ・めあてとまとめの整合性があった。
- ・各グループの発表の際、事前に発表の仕方を例示するとよかった。
- ・汚れた部屋の写真があったことで生徒が意見を出しやすかった。



課題と改善案

<課題>

- ・50分で授業を終える、挙手の後発言する、挨拶や礼の仕方等の学習ルールを身に付ける。
- ・意見を付箋に書いても小さくて見えない。全員で共有できると良い。

<改善案>

- ・板書計画の作成。話をしてから礼をする→挨拶、挙手してから発言の習慣をつける。
- ・付箋紙の使用方法、字の大きさにも指導ができていればいい。

採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・事前に学習ルールを確認し、周囲に意見を伝え合える環境を整える。
- ・付箋紙の使用方法と、付箋に書く字の大きさを確認し、出し合った意見を共有する。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・指名されたら返事をする、挨拶をしてから礼をする等改善されていた。
- ・付箋の使い方は、一部の生徒は改善され、大きく書いて意見を出したことで、書かれた意見に目を向けるようになった。

<課題>

- ・掃除用具が「分かる」と「使える」は別の力。実際に場所と掃除用具をマッチングさせて掃除をしたり、～があれば掃除しやすいと気づいたり、実際に掃除をする場面の設定が必要。
- ・話し合いのルール（一人一回は発言できるようにする等）化。全員参加のための支援。

授業改善に取り組んでの所見、感想

- ・家庭での掃除の経験の差があったり、家庭によって使うものが違っていたり、それぞれの家庭でのやり方があったり、様々な正解がある中で、どこに焦点を絞って伝えれば良いか、難しい。
- ・改善授業後に実際に掃除をする学習を取り入れたが、汚れや場所に応じて掃除用具を使い分けて掃除をしており、前時の学習を生かすことができた。

(1) 授業の概要

本グループの生徒には、洗濯物を干したり畳んだりするなど洗濯の一部分を家庭での手伝いとしている生徒が数名いる。各家庭へ行ったアンケートでは、洗濯をできるようになってもらいたいと望んでいる保護者もいた。そこで、洗濯の必要性や洗濯の一連の手順を体験的に学ぶことで、実践的な知識・技能を高めたり、出来ることの幅を広げたりして家庭生活での実践に結び付けられるようになってもらいたいと考え、学習を進めた。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

導入時に教師が生徒への発問について言い直すことがあり、生徒に伝わりにくくなってしまった。また、干すためのスペースが狭く、十分な活動量が保証できなかったので、活動場所の検討が必要だった。生活に生かすという段階の生徒もいれば役割を果たして認められる段階の生徒もいるので評価の仕方に工夫あればいいと考える。

課題と改善案

<課題>

- ・生徒にとって分かりやすい例や発問の仕方。
- ・まとめの時間の十分な確保とまとめの発表方法。
- ・生徒の実態に応じた活動量の設定。

<改善案>

- ・干し方の良い例と悪い例があるとよい。
- ・「どちらがきれい」の発問は分かりづらい。「しわがないのはどちらか」の発問の仕方の方が良い。
- ・学習のまとめの発表は一人一人に用意してもいいのではないか。



採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・たたみ方の良い例、悪い例の提示。
- ・まとめの発表を一人ずつ行う場の設定。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・良い例と悪い例の実物を提示したことで、学習の動機付けにつながった。

<課題>

- ・導入時の生徒の発言を教師が切っけてしまい、めあてを引き出すチャンスを逃してしまった
- ・やる事が分かる、終わりが分かるといったように、分かってできる環境作りが必要。

授業改善に取り組んでの所見、感想

分かりやすい例の提示や発問によって、生徒のやってみようという気持ちを引き出すことができた。一方で、生徒の活動量が保障できず、見通しをもたせられない場面があり、実態把握が不十分だった。ねらいによっては同じ場所での学習にこだわらず、生徒一人一人が落ち着いて取り組むことができるような環境作りが必要だと考える。

(1) 授業の概要

①インスタント味噌汁（お湯を沸かす、お椀に入れる）②キャベツの味噌汁（葉菜を切る、煮る、みそを溶く）③豚汁（根菜の皮をむく、かたいものや切りにくいものを切る）と、レベルアップした学習を加えながら「味噌汁を作る」活動を3回行う。調理の流れ（段取り）、安全面や衛生面、野菜の切り方などを繰り返し体験しながら獲得することをねらう。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

- ・ 授業の進行が遅れ、終了時間が伸びた。板書ではフラッシュカードを活用したい。
- ・ 野菜の切り方の名称と図を提示すればよかった。
- ・ 手指の消毒をしてから切るという流れが本時は不十分だった。
- ・ これまでの学習で身に付いているつもりのことも、その都度押さえる必要があった。
- ・ それぞれの家庭との連携。各家庭に学習内容を伝えたり、どのような具材を入れるのか、切り方はどうかなど具体的に聞いたりすること。
- ・ 書くことが苦手な生徒のためのワークシートの工夫が必要。

課題と改善案

<課題>

- ・ 実物を使う、実際にやってみる。
- ・ キーワードを記入する、挿絵付きのワークシート。

<改善案>

- ・ 生徒が思考したり、意見を交換したりする場面を設定する。
- ・ T2も全体が見え、指導できる配置にする。
- ・ 本時の目標、課題と個別の目標、学習内容、ゴールの提示、各々の整合性。
- ・ ゆで時間や切り方によっての食感を比較する学習があるとよい。



採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・ 生徒と教師が互いに顔が見える配置（机を付けて対面）で、対話から学びを深める。
- ・ 根拠と家庭科としての正解を示し、教科の知識・理解につなげる。
- ・ 授業で学んだことが家庭での調理につながるように、ワークシートを改善する。
- ・ ゆで時間や切り方の違いによる食感を比較し、どんな切り方、ゆで方がよいのか、結論を示す。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・ 厚さを不均等にしたものと同様なものの比較、水から煮たものと熱湯の中に入れてものの比較をした。熱湯から煮たものは明らかに生煮えで、分かりやすかった。
- ・ 実際の調理を想定した発言を生徒から聞くことができた。

<課題>

- ・ 同じ根菜でも芋とにんじん、大根では煮崩れのしやすさで、煮る順番、タイミングは違ってくる。詳しい知識を習得できる学習を設定していく必要がある。
- ・ 比較しやすい提示の仕方をもう一工夫する。違う色の容器、大きくA・Bと示すなど。

授業改善に取り組んでの所見、感想

- ・ 実物を用いて実際にやってみる学習、繰り返しながらレベルアップすることの大切さを再確認した。教師間で指導方法を十分に検討する必要がある。
- ・ 生徒が学んだことを次の学習につなげ、ステップアップしていくことが大事。そのためにも家庭との連携を大切にしたい。

(1) 授業の概要

本学習グループは、生活全般や一部で支援が必要な生徒や、集団参加が難しい生徒など、生徒の実態の差が大きい。そのため家庭科の授業では、家族や周囲の人、友達の一員として、楽しく生活することを目標に学習に取り組んでいる。今回の題材は、生徒にとって身近な行事であるクリスマスの飾りを、簡単な裁縫に取り組みながら完成するものである。生徒が楽しみにしているクリスマスを題材とすることで、活動への参加意欲を喚起したり、完成したクリスマス飾りを家庭に飾ることで、家族に喜んでもらい、自己有用感を高めたり、家族と一緒に季節の行事を楽しんだりすることにつながるのではないかと考えた。

(2) 授業実践の様子（授業には4名中3名の生徒が参加）

授業の評価（授業者から、参観者から）

- ・どの生徒も意欲的に授業に参加できた。
- ・それぞれが別々のことを行っている個別の学習ではあるが、導入やまとめ方でグループ学習として機能している。集団のメリットがある。
- ・最後のまとめでiPadを使用して活動を振り返ることで自己評価、他己評価ができていた。



課題と改善案

<課題>

- ・それぞれの生徒が、教師に頼らずにより一人で活動できるようにしていくことが必要。

<改善案>

- ・生徒A～縫わない部分を紙で隠すなどの教材の工夫。
- ・生徒B～一人でも自分の好きなことを見つけ、その場において取り組む力を伸ばす。
- ・生徒C～視野や視力について可能であればORTから調べてもらう。より手を動かしやすい姿勢を試す。



採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・生徒A～縫い方の変更（並縫い→巻きかがり縫い）、縫う際の教材の見直し。
- ・生徒B～教師が側を離れ、一人でも活動できる時間を増やす。
- ・生徒C～手をより動かしやすい姿勢への配慮。（車いすでの座位→床面でのあぐら座位）

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・生徒A～フェルトの押さえを変えたことで、押さえが目印になり針を入れる場所が分かりやすくなった。縫い方の変更により、一人でも縫い進めることが可能になった。
- ・生徒C～姿勢を変えたことで、気持ちの切り替えや、手の動きを引き出すことができた。

<課題>

- ・生徒B～玉留め、玉結び、糸の色を選ぶ際のインターネット検索など、教師のコンスタントな支援が必要だった。一人で取り組むための題材設定、教材の工夫が必要。
- ・生徒同士が直接関わったり、学び合ったりする時間の設定。

授業改善に取り組んでの所見、感想

- ・「家庭科」の指導内容にとらわれず、自立活動や生活科などの目標や指導内容も加味しながら、題材設定や支援内容を吟味することで、生徒の活動に向かう気持ちや、一人で活動に取り組む力を引き出したり、伸ばしたりできると考える。
- ・生徒の実態に応じた教科学習のあり方について、生徒の目指す姿や生活の場などを踏まえながら考えていく必要がある。

(1) 授業の概要

本学習グループの生徒は、家庭で洗濯物畳みや食器洗いなどの役割に取り組んでいる。家庭において、一人で包丁や火を使った料理に取り組む機会はないが「朝ご飯を準備してあげたい」「夜ご飯を親と一緒に作りたい」など、食生活に関して、家庭で果たすことのできる役割をさらに増やしたいという意欲をもっている。前題材の「家族の役割」の学習内容のつながりを踏まえて、食器の準備や配膳、後片付けなどの食事に関わる一連の流れを学ぶとともに、電子レンジ等を使用する簡単な調理を知ること、家庭において、家族の一員としてさらに役割を果たそうとする意識が醸成されるのではないかと考え、授業を進めた。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者から、参観者から）

- ・生徒がグループ活動の中で、様々な組み合わせの献立を考えることができるように、三つの食品群を色ごとに振り分けた献立カードを準備した。
- ・献立を考える活動ではすぐにグループでの活動を行っていたが、生徒が一人で考える時間を設定してもよかったのではないか。
- ・まとめの部分では、本時の学びが何だったのか、生徒が自覚できるような工夫をする。



課題と改善案

<課題>

- ・食事や調理器具などについての聞き取りが不足しており、家庭との連携が不十分だった。
- ・生徒が自分の言葉でまとめたり振り返ったりすることができるようにした。

<改善案>

- ・授業を構想するために、あらかじめ家庭と情報共有をする。
- ・まとめ、振り返りでは生徒自身の言葉でまとめる時間をとる。生徒の言葉の力を伸ばす。



採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・冬休み中の取組や、今後取り組んでほしい役割などについて、家庭と情報共有をする。
- ・まとめの部分で、生徒が発言する機会を設定する。



改善授業の成果と課題

<成果>

- ・保護者のコメントが、生徒の学習意欲の喚起へとつながった。

<課題>

- ・活動や思考の手順が整理された状態で生徒に提示されていれば、本時のねらいを理解しやすく、活動の見通をさらにもちやすくなったのではないか。
- ・家庭の役割も、生徒の家庭によって取り組み方が異なる。どのように取り組むのかということについて言葉を引き出すことができれば、より実態に即した、具体的な目標を立てることができた。



授業改善に取り組んでの所見、感想

- ・冬休み中の様子や、これから取り組んでほしい役割について、あらかじめ家庭から聞いておくことで、生徒に提示する家庭の役割を精選することができた。
- ・板書計画や、生徒への学習内容の提示方法を整理することが、学習環境を整えることにつながる。今後、教具や学習内容の提示方法について再考したい。
- ・日々の授業で、生徒の言葉の力を育てることができるような関わりをしたい。

(1) 授業の概要

ごみや汚れの種類に応じて適切な清掃の仕方や必要な掃除用具が分かり、実際に清掃することで部屋がきれいになった気持ちよさを味わうと共に、自分の身の回りのことを進んで行う気持ちや態度や力を育てる。

(2) 授業実践の様子

授業の評価（授業者、参観者から）

- ・生活経験の実態差が大きいグループで、技能を習得する学習場面では教師と生徒で取り組む場面が多くなってしまい、生徒同士で関わり合いながら学びを深めていく学習活動が少なくなってしまった。
- ・面談の際に聞き取った家庭の様子を基に、将来必要になる力を教師間で検討し、ねらいや付けたい力を明確にすることができた。家庭と連携し、題材ごとに家庭での様子を聞き取り、「付けたい力」を検討し、精選することができた。

課題と改善案

<課題>

- ・清掃用具の適切な使用方法の提示。
- ・生徒の経験や家庭での生活実態を考慮し、学習活動を別室で実施したため、対話的な学びが少ない授業構成になっている。



<改善案>

- ・一般的な掃除機の持ち方、かけ方。適切な使用方法の確認。
- ・清掃すること自体が目標とならないようにする。
- ・一対一の場面が多く生徒同士の関わりが少ないため、グルーピングを再検討してもよいのではないかと。

採用した改善案（改善授業等で行う手立て）

- ・清掃すること自体が目標とならないように、汚れ方や状況に応じた清掃の仕方を理解し、適した清掃用具を選択して使用することができる活動を展開する。

改善授業の成果と課題

<成果>

- ・掃除する場所のごみや汚れを見て、数種類の掃除用具から適切な掃除用具を選び、選んだ掃除用具を正しく使うことができた。
- ・清掃場所に大事なポイントを掲示したり、掃除方法の手順をイラストにして提示したりすることで、生徒自身で確認しながら活動に取り組む様子が見られた。



<課題>

- ・まとめの部分でそれぞれの学習で取り組んだことを発表したが、授業全体で生徒同士が関わり合う場面が少ない。

授業改善に取り組んでの所見、感想

- ・学習する単元でねらいや付けたい力が共通になるのであれば、学習グループを統合して学習することもできるのではないかと考える。
- ・スモールステップで技能を習得していく学習場面では、生徒同士でお互いの学習状況を見合い自分の学習の参考にしていくことができるような授業展開を計画していきたい。

7 学部研究の成果（○）と課題（●）

（1）生徒が積み重ねた経験や学びを生かすために

○家庭科の年間指導計画を作成する際に、「指導内容チェック表」を参考に立案した。各学年の担当で話し合い、既習事項を確認しながら、授業づくりに生かすことができた。

●授業実践を経て、学年で共通の題材や合同の学習に向けた取組と関連づけが図られていたかなど、再度指導内容やねらい、グループ編成等を確認する必要があるがあった。何ができるようになるのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、積み重ねが手応えとして生徒が実感できるように、教科の基礎・基本を押さえたい。指導内容が段階的で系統的に行われるために、また学習空白がないように、指導内容に関連した資料を整理するために学年や学部全体で話し合いが必要である。

（2）力を発揮しやすい環境の整理と工夫

○各学年・学級で個別の育てたい力の確認と検討を行い、個々の目指す姿を明確にした。個別の支援計画の作成にあたり、生徒との面談を実施し、生徒の願いや将来の姿を把握した。また、保護者面談やアンケートで家庭での実態を把握し、授業実践につなげる意識が定着し、積極的に連携した取り組みにつながった。

○ICFの視点を取り入れた「フェイスシート」で、実態把握や授業づくりでの支援方法の見直しを実施した。授業場面を切り取り、どの場面で何をねらうのか、目的が明確になると、支援が精選され、生徒の活動量が確保されたことで、主体的な自己選択・自己決定場面が増えた。

●「フェイスシート」を活用するにあたり、環境設定の捉え直しが求められた。板書計画や思考の過程の可視化、発問の仕方、話し合う目的の明確化など、生徒の参加を促進するために必要な支援を整理する必要があるがあった。「～だからできない生徒」から「～があればできる生徒」へと、教師の視点の改善を図るために、個別の指導計画等へ反映するなど、活用方法を探り、具体的な支援につなげていきたい。

（3）場面や状況に応じた判断力や調整力を身に付けるために

○授業づくり振り返りシートを活用し、客観的な観点による授業の振り返りを実施している。生徒の興味・関心に沿った授業づくりや多面的な実態把握を行うことで、教師の支援が変化し、生徒が主体的に関わり、協働する姿が見られるようになった。

●他の教科等との関連付け、深い学びにつなげられるように、家庭科の授業だけでなく、他の授業づくりでも意識した取組ができるようになってきている。話し合いの活動を設定する場合は、実態に合わせて段階的に実施する、様々な場面で機会を捉えて実施するなど、担当者同士が意識して取り組めるように、情報を共有していきたい。

●なぜ、家庭科を授業で位置づけているのか。教育課程の意義について改めて考えたい。家庭生活の充実を目指し、身に付けた知識を実生活にどう生かすのか。本人が望む生活に向け、生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげられるようにしていきたい。



參考資料

① 「サ 生命・自然」の「植物の栽培」の学習内容（例）

低学年（1・2年生）	中学年（3・4年生）	高学年（5・6年生）
<ul style="list-style-type: none"> 植物の成長（芽、花、葉っぱの大きさや量）に興味をもち、水やり等の世話をする。 植える野菜や植物（名前や色）を知る。 花や実気付く。 種や苗、実、土などに触れて、感触を味わう。 教師と一緒に種まきや収穫をし、収穫物の大きさや量に興味をもつ。 電子レンジを使った簡単な調理で収穫した野菜を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の成長に興味をもち、変化の様子に気付く。 実をつけることが分かって楽しみにする。 植えた植物と他の雑草などの区別がつく。 植物ごとの花の色の違いが分かる。 自分で世話をする経験を通して、成長や因果関係が分かる。 水やりの仕方を覚える。 苗などを丁寧に扱う（生命の尊厳）。 	<ul style="list-style-type: none"> 発芽、開花、結実等の成長の過程が分かり、観察を行う。 成長の変化を、写真や文章で記録する。 植物によって葉や実の付き方などの違いがあることが分かる。 水やりをしたり、除草をしたりすることの大切さを知る。 収穫時期を見計らって自分から収穫する。 収穫後、調理等を通して、その野菜を使った料理を知る。

② 「オ 人との関わり」の「身近な人との関わり」の学習内容（例）

低学年（1・2年生）	中学年（3・4年生）	高学年（5・6年生）
<ul style="list-style-type: none"> 人に興味・関心をもつ。 友達や教師の名前を覚える。 友達と触れ合う。 自分の欲しい物を選び、意思を表出する。 身近な人に自分の気持ちや意思を伝える。 聞かれたことに対して「うん」「はい」「いいえ」の言葉や身振りで答える。 あいさつすべき場面が分かり、教師と一緒に礼をしたり発声したりする。 促されてあいさつができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ありがとう」「ごめんなさい」など、状況を判断してあいさつややりとりをする。 教師の援助を受け、相手の表情と気持ちに気付き、それに合わせた行動が分かる。 学校での出来事などを身近な人に伝えることができる。 聞かれたことに対して簡単な言葉や身振りなどで答える。 自分からあいさつができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族や身近な人に、見たり聞いたりしたことを伝えることができる。 学校の話し合いの場で、自分の意見を発表したり、他の友達の発表を聞いたりする。 発表された意見を比較して、一つの意見にまとめたり決めたりする。 簡単な言葉や単語で学校や家庭で経験したことを話したり、聞かれたことに答えたりする。 場面に応じたあいさつが出来る（公共の場でも）。 相手の目を見てあいさつができる。

③「力 役割」の「集団の参加や集団内での役割」の学習内容（例）

低学年（１・２年生）	中学年（３・４年生）	高学年（５・６年生）
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な集団に参加する。 ・集団の中において、周囲の人と一緒に活動に参加することができる（落ち着いて参加する。前で話す人の話を聞くなど）。 ・やる事が分かって教師と一緒に、又は一部自分で簡単な役割に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が係に取り組んでいるとき、しっかり待つ（係以外の役割）。 ・自分の役割が分かって最後まで簡単な役割を果たす。 ・委員会活動や学部集会の中での自分の役割が分かって取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から準備をしたり、友達を手伝ったりしながら、進んで活動に取り組む。 ・自分や友達の役割が分かって、進んで自分の役割を果たす。 ・自分が取り組んできた役割について自己評価をし、次の活動への意欲をもつ。

単元の目標と評価

対象児童	小学部6年2組	単元名	やってみよう～うどんやをひらこう～	時数	35時間
------	---------	-----	-------------------	----	------

<p>単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんづくりの工程を繰り返し行うことで、自分たちで手順表を確認したり、相談したりなど見通しをもって活動に取り組む。【知技】【思判表】 ・お互いの意見を参考にしたり自分の意見と比べたりして「うどんや」を開くために必要な物を考える。【思判表】 ・うどんを試食してもらった活動を通して、自分の頑張りや体験を進んで友達に伝える。【態度】

月日	9/25 5	9/27 5	9/27 6	10/18,19, 11/2,6 5・6 (8時間)	10/22,23,30,31、11/5,7,12 5/5・6 (8時間)	11/8,9,15,16,21,22,28 5/5・6 (8時間)	12/3,4,10,11,17,18,19,20 5 (8時間)
活動内容	オリエンテーション	出前講座を受講する。 ・作り方を見る。	出前講座を受講する。 ・一部体験する。	うどんの生地を作る。 うどんを調理して試食する。	ランチョンマットを作る。 箸置きを作る。	うどんの生地を作る。 うどんを調理して試食する。	おひさまうどんを開店し、試食会を行う。
本時の主目標	調理実習で、作りたい麺料理について話し合いをする。 担任と教室で	うどんの作り方を見学して工程を知る。 外部講師と教室で	小麦粉をまぜたり、切ったりする体験をする。 外部講師と教室で	・工程表を確認しながら、友達と一緒に確認しながら生地を作る。 ・グループに分かれ、工程に沿って生地を作る。 学級の友達と家庭室で	・友達のデザインを見たりまねたりして、ランチョンマットを作る。 ・友達の意見を参考にしたり、道具を譲り合ったりしながら、ランチョンマットを作る。 学級の友達と教室で	・麺の太さを、グループ内で比較しながら、生地を切る。 ・話し合いで出た道具（こま板等）を使い、できるだけ同じ太さに切る。 学級の友達と家庭室で	・トッピングの具材を話し合いで決めたり、工程に沿って生地を作ったりする。 ・生地を同じ太さで切ることで、おいしいうどんになることが分かり、工程に沿って麺を作る。 他学級の友達や教師と中学部食堂で
本時の評価	教師を介して話し合いを行い、多数の意見から選択できた。	保呂羽少年自然の家の先生による調理を見て、どのような調理工程があるのかを知った。	いくつかの工程を体験したことで、うどんづくりに期待感をもつことができた。	・工程表を見ながら、出前講座で教わったポイントを、友達と話し合いながら生地づくりを進めることができた。 ・2人組になることで、交代したり、手伝ったりして、生地づくりができた。	・見本となるランチョンマットを参考に、友達のデザインで良い部分をまねて制作できた。 ・制作に必要な道具を、譲り合ったり、友達の意見を参考にしたりしてオリジナルのランチョンマットを制作できた。	・生地を麺にする工程で、グループで切った麺の太さをそれぞれ比べることで、できるだけ同じ太さになるように活動を進めることができた。 ・同じ太さで切りそろえるよう、道具を選んだり、使い方を話し合ったりして製麺することができた。	・生地を麺にする工程で、グループを代えて行っても、友達と調整して活動を進めることができた。 ・他学級の友達や教師からのうどんの材料や作り方についての質問に進んで答える姿が見られた。

単元の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や用具の数を制限したことで、友達と順番を決めて制作や調理に取り組む場面が見られた。 ・繰り返しの活動にしたことで、調理の工程を十分に理解することができ、友達同士で相談する場面へとつながった。 ・「家で作ってみたい」という声があり、実際に家族とうどんづくりをした児童もいた。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第1段階（基礎的内容）		第2段階（発展的内容）		具体的な指導内容		1	2	3	日指	生単	作業	
A 家族・家庭生活	ア 自分の成長と家族 (ア)自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを理解すること。 (イ)家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	ア 自分の成長と家族 (ア)自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。 (イ)家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長 ・家族の大切さ、感謝の気持ち ・家族とのよりよい関わり方 ・中学生になって ・自分の将来 	③ ③						○		
	イ 家庭生活と役割 (ア)家庭における役割や地域との関わりについて関心を持ち、理解すること。 (イ)家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。	イ 家庭生活と役割 (ア)家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。 (イ)家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の過ごし方 ・家族の立場・役割の理解 ・家庭の中の仕事の種類や分担 ・互いが支え合っていること ・自分が認められていること ・身の回りのことを自分で行う ・手伝い ・家族の団らんへの参加 ・家族の一員としての存在感 ・地域の店と町探険(学校周辺調べ) 	① ①② ①② ① ① ③ ①	③					○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		
	ウ 家庭生活における余暇 (ア)健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする事。 (イ)望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。	ウ 家庭生活における余暇 (ア)健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。 (イ)望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇の有効な過ごし方(テレビ、音楽、ゲーム、手芸、園芸、飼育、休日に買い物) ・自分の健康管理 ・時間の使い方 ・自分に合った余暇の過ごし方 		②③	③					○	
	エ 幼児の生活と家族 (ア)幼児の特徴や過ごし方について知り、実践しようとする事。 (イ)幼児への適切な関わりについて気付き、それらを他者に伝えること。	エ 家族や地域の人々との関わり (ア)地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。 (イ)家族との触れ合いや地域生活に関心を持ち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児や高齢者の特徴 ・乳幼児や高齢者への優しい接し方 ・乳幼児や高齢者との触れ合い体験 ・地域の人とのつながり 								○ ○ ○ ○	
B 衣食住の生活	ア 食事の役割 (ア)健康な生活と食事の役割について知り、実践しようとする事。 (イ)適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。	ア 食事の役割 (ア)健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。 (イ)日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活についての理解 ・食事の役割と大切さ ・マナーを守り、楽しい食事 		② ②	①					○	
	イ 調理の基礎 (ア)簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようすること。 (イ)簡単な調理計画について考えること。	イ 栄養を考えた食事 (ア)身体に必要な栄養について関心を持ち、理解し、実践すること。 (イ)バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養、主食、主菜、副菜 ・食品や料理の名前 ・食事の注文 			②	①					
	ウ 調理の基礎 (ア)調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 (イ)調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	ウ 調理の基礎 (ア)調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 (イ)調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・調理用具の安全で正しい取り扱い ・簡単な調理(食品の洗い方、切り方、調味料の使用等) ・食品、食器などの衛生、衛生的な保存 ・食事の準備、盛り付け、配膳、後片付け ・調理場所の整理・整頓 ・調理計画 			① ① ① ①	② ② ② ②					
	エ 衣服の着用と手入れ (ア)場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする事。 (イ)日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。	エ 衣服の着用と手入れ (ア)日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 (イ)日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔な衣服 ・身だしなみ ・簡単な日常着の手入れ ・洗濯用器具の扱い方、洗剤の使い方 ・簡単な日常着の洗濯 ・簡単なアイロンかけ ・簡単な縫い物(布、針、糸を使った基礎縫い) ・簡単なしじゅう、染色 ・繊維 ・季節や場所に合った身なり 	① ③ ①		① ②					○ ○ ○	
エ 快適な住まい方 (ア)住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする事。 (イ)季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付き、工夫すること。	オ 快適で安全な住まい方 (ア)快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。 (イ)季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付き、工夫すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物の整理整頓 ・住まいの簡単な手入れ、室内の飾りつけの手伝い ・部屋の換気、採光、照明の仕方の理解、調節 ・照明器具、冷暖房器具の安全な使用方法 ・清掃と住居の清潔 ・ゴミの分別 ・掃除用洗剤、殺虫剤の安全な使用方法 ・住居周りの環境整備 	○ ○ ① ①		①				○	○ ○		
C 消費生活・環境	ア 身近な消費生活 (ア)生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。 (イ)生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと。	ア 身近な消費生活 (ア)生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。 (イ)生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な物の選び方と買い方 ・計画的で上手な買い物の仕方 ・物を大切に使うこと ・買い物の際の相談の仕方 		③ ③ ○ ○					○ ○		
	イ 環境に配慮した生活 (ア)身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする事。 (イ)身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	イ 環境に配慮した生活 (ア)身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。 (イ)身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活と環境との関わり ・環境に配慮した生活(資源ごみ、生ごみ、生活水など) ・自分が環境に配慮した物の使い方 ・家族と協力してできること ・地域の人と協力してできること 			② ③		○			○	

	第1段階（基礎的内容）	第2段階（発展的内容）	具体的な指導内容	1	2	3	日 指	生 単	作 業	
職業生活	ア 働くことの意義 (ア) 働くことの目的などを知ること。 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。 (ウ) 作業や実習等で達成感を得ること。	ア 働くことの意義 (ア) 働くことの目的などを理解すること。 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 (ウ) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。	中学生になって 自分の将来を考える 働くことへの意欲関心 物作りや育てることへの興味 働く活動の大切さ 達成感・成就感・満足感 満足感 職業に関する基礎的な知識	②						
	イ 職業 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ㊧職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ㊨材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。 ㊩作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 ㊪作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 (イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ㊧作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。 ㊨職業生活に必要な健康管理について気付くこと。家庭の中での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ㊧職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ㊨材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ㊩作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ㊪作業の確実性や持続性、巧緻性などを身に付けること。 (イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ㊧作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ㊨職業生活に必要な健康管理について考えること。	職業、製品などの名称 仕事内容 仕事の分担と協力 技術 時と場に応じた服装、態度、言葉遣い 適切な接し方 最後まで集中して取り組む 仕事の好き嫌いをしない 仕事内容や分担、手順 分からないときは人にきく 協調性、適切なかかわり きまりや指示を守る 名称、操作方法 安全で丁寧な取り扱い、運搬 後片付け、整理整頓 計測、計量 管理、保管 安全や衛生の用語・表示への興味、理解 危険、不衛生の理解、報告 作業場を離れるときの報告 身だしなみ、清潔 安全、衛生、健康 電話の使い方、対応の仕方	③	①	②				
B 情報機器の活用	ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。	ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。	パソコンの使い方 タブレットの使い方 パソコンやタブレットを使うときの約束	②					○	
	イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。	パソコンやタブレットでできること		②③	①			○	
C 産業現場等における実習	ア 職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。	ア 職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。	卒業後の生活への関心 高等部について 自立について	②		②③				
	イ 職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。	イ 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。	職場の名称、仕事内容の理解 仕事の分担と協力 公共交通機関の利用への関心 自分の能力や適性の理解	③	①②	②			○	

職業分野指導目標：新学習指導要領、具体的な指導内容：現学習指導要領、「たのしい職業科」より

※①：1学期実施、②③：2・3学期実施予定

※1年生：→身近な人の仕事、パソコンやタブレットの使い方など

2年生：身近な社会の仕事について（ハローワーク見学）、パソコンやタブレットを使用しての学習発表

3年生：進路学習、高等部体験と体験発表など



目標達成シート

中学部 年 組 名前

<p>【社会性・コミュニケーション①】</p> <p>※自分で働いてお金をかせぐ！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつをする。 ・友達や先生からのあいさつにすぐに応える。 	<p>【運動・身体面①】</p> <p>※かっこいい男の「しぐさ」を考える！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かっこいい姿勢で歩く。走る。食事をする。 を身に付ける。 	<p>【認知面①】</p> <p>※車を買いたい。マックでデートがしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な物の値段を知る。 ・自分でお金を支払う。
<p>【社会性・コミュニケーション③】</p> <p>※できる大人の話し方…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人として認められる話し方を身に付ける 「うん」→「はい」 <p>パパの仕事ってなに？</p>	<p>かっこいい大人！</p> <p>できる大人！</p> <p>(目指すはお父さん)</p>	<p>【社会性・コミュニケーション②】</p> <p>※(もしも…)車の修理をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったことを分かりやすく伝える。 ・お願いを分かりやすく伝える。
<p>【生活面③】</p> <p>※できる男は、忘れ物をしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見返す。振り返る。 ・自分の目で確認する。 	<p>【生活面①】</p> <p>※お父さんはひげがかっこいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどいいジョリジョリ感→清潔にかっこよく。 	<p>【認知面②】</p> <p>※電動スライドアの車がほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやiPadで検索する。

支援目標（重点目標：中学部で伸ばしたい力）

- 「一人で」「相手と関わりながら」「ルールのあるもの」などで楽しむことができる。
- 助けてほしいときに、適切に依頼をすることができる。
- 場面や、相手に応じた言葉遣いを知る。

目標 [高等部] (家庭) 明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。

(家庭)	家庭の役割	消費と余暇	道具・器具等の取り扱いや安全・衛生	家庭生活に関する事項	保育・家庭看護	
2 段 階	(1) 家庭の機能や家族の役割を理解し、楽しい家庭づくりのために積極的に役割を果たす。 1 2 3	(2) 家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方について理解を深める。 1 2 3	(3) 家庭生活で使用する道具や器具を効率的に使用し、安全や衛生に気を付けながら実習をする。 1 2 3	(4) 被服、食物、住居などに関する実習を通して、健康で安全な生活に必要な実践的な知識と技能を習得する。 1 2 3	(5) 保育や家庭看護などに関する基礎的な知識と技能を習得する。 1 2 3	
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りのこと 家庭生活の仕事の分担 家族の団らん 来客時の対応の仕方 礼儀正しい訪問の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 予算を立てる必要性の理解 計画的な預貯金 計画的な買い物 現金とクレジットカードの違い 家計の収入と支出 家庭の経済計画への協力 余暇の種類と過ごし方 	<被服、食物、住居で必要な器具の理解> <ul style="list-style-type: none"> 効率的な使用方法 節水、節約 保守・点検 食品衛生や健康維持 漂白剤など消毒液の安全な取り扱い 	被服 <ul style="list-style-type: none"> 身体に合った衣服 クリーニング店利用 衣類の整理や保管方法 衣服の補修 ミシンを使った衣服の制作 食物 <ul style="list-style-type: none"> 一日に必要な食物・栄養 バランスのよい食事計画・調理 添加物 価格や鮮度を考えた材料 洗い方、切り方・味付けの仕方 盛り付けなど準備や片付け 住居 <ul style="list-style-type: none"> ゴミを減らす工夫 手順を考えた掃除 防犯ベルや火災報知器などの取扱い 地震、台風、洪水などでの行動 リサイクルの基礎知識 修理や修繕の知識 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の発達を理解した触れ合いや関わり 疾病の症状や健康の回復の過程の理解 高齢者のリハビリテーション 食事や排泄、移動などの家庭介護 	
	<備考>	<備考>	<備考>	<備考>	<備考>	
	高等部	(1) 家族がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、楽しい家庭づくりのための自分の役割を果たす。	(2) 家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方が分かる。	(3) 家庭生活で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり、安全・衛生に気を付けながら実習をする。	(4) 被服、食物、住居などに関する実習を通して、実践的な知識と技能を習得する。	(5) 保育や家庭看護などに関心をもつ。
	1 段 階	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの処理 家族の一員としての仕事 家族の心情を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 生活用品を知る・理解する 現金の範囲内で買う カード利用の仕方 レシート・領収書の読み取り 家計簿の記録 親戚や友達の家を訪問する 	<被服、食物、住居で必要な器具の理解> <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた選択 正しい使用方法 保管、手入れの仕方 故障等の対応 作業環境 	被服 <ul style="list-style-type: none"> 清潔な衣服 季節などに合わせた衣服 材料や汚れに応じた洗い方 布地に合わせたアイロン仕上げ まつり縫いや返し縫い ミシンを使った小物制作 食物 <ul style="list-style-type: none"> 栄養素や働きの組み合わせ 製造年月日など新鮮な食材選び 冷蔵庫・冷凍庫の使い方 簡単な調理計画 献立に応じた買い物 食材の洗い方・切り方・加熱 適切な調味料の分量 盛り付け方 準備や後片付け 外食時のメニュー注文 食事の作法 住居 <ul style="list-style-type: none"> 整理・整とん 住まいの手入れ 換気や照明の仕方 室内の飾り付け ゴミの処理 掃除用洗剤、殺虫剤の使用法 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の生活や発達などへの興味関心 高齢者への配慮
		<備考>	<備考>	<備考>	<備考>	<備考>

目標	[高等部] (家庭) 明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。																												
(家庭)	家庭の役割					消費と余暇					道具・器具等の取り扱いや安全・衛生					家庭生活に関する事項					保育・家庭看護								
2 段 階	(1) 家庭の機能や家族の役割を理解し、楽しい家庭づくりのために積極的に役割を果たす。 1 2 3					(2) 家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方について理解を深める。 1 2 3					(3) 家庭生活で使用する道具や器具を効率的に使用し、安全や衛生に気を付けながら実習をする。 1 2 3					(4) 被服、食物、住居などに関する実習を通して、健康で安全な生活に必要な実践的な知識と技能を習得する。 1 2 3					(5) 保育や家庭看護などに関する基礎的な知識と技能を習得する。 1 2 3								
	・自分の身の回りのこと					・予算を立てる必要性の理解					<被服、食物、住居で必要な器具の理解>					被服					・身体に合った衣服								
	・家庭生活の仕事の分担					・計画的な預貯金					・効率的な使用方法					・クリーニング店利用					・乳幼児の発達を理解した触れ合いや関わり								
	・家族の団らん					・計画的な買い物					・節水、節約					・衣類の整理や保管方法					・疾病の症状や健康の回復の過程の理解								
	・来客時の対応の仕方					・現金とクレジットカードの違い					・保守・点検					・衣服の補修					・高齢者のリハビリテーション								
	・礼儀正しい訪問の仕方					・家計の収入と支出					・食品衛生や健康維持					・ミシンを使った衣服の制作													
<備考>					・家庭の経済計画への協力 ○					・漂白剤など消毒液の安全な取り扱い					食物					<備考>									
					・余暇の種類と過ごし方										・一日に必要な食物・栄養										・食事や排泄、移動などの家庭介護				
															・バランスのよい食事計画・調理														
															・添加物														
															・価格や鮮度を考えた材料														
															・洗い方、切り方・味付けの仕方														
															住居														
															・ゴミを減らす工夫														
															・手順を考えた掃除														
															・防犯ベルや火災報知器などの取扱い														
															・地震、台風、洪水などでの行動														
															・リサイクルの基礎知識														
															・修理や修繕の知識														
1 段 階	(1) 家族がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、楽しい家庭づくりのための自分の役割を果たす。					(2) 家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方が分かる。					(3) 家庭生活で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり、安全・衛生に気を付けながら実習をする。					(4) 被服、食物、住居などに関する実習を通して、実践的な知識と技能を習得する。					(5) 保育や家庭看護などに関心をもつ。								
	・身の回りの処理					・生活用品を知る・理解する					<被服、食物、住居で必要な器具の理解>					被服					・乳幼児の生活や発達などへの興味関心								
	・家族の一員としての仕事					・現金の範囲内で買う					・目的に応じた選択					・清潔な衣服					・季節などに合わせた衣服								
	・家族の心情を知る					・カード利用の仕方					・正しい使用方法					・材料や汚れに応じた洗い方					・高齢者への配慮								
						・レシート・領収書の読み取り					・保管、手入れの仕方					・布地に合わせたアイロン仕上げ													
						・家計簿の記録					・故障等の対応					・まつり縫いや返し縫い													
<備考>					・親戚や友達の家を訪問する					・作業環境					食物					<備考>									
															・ミシンを使った小物制作														
															・栄養素や働きの組み合わせ														
															・製造年月日など新鮮な食材選び														
															・冷蔵庫・冷凍庫の使い方														
															・簡単な調理計画														
															住居														
															・献立に応じた買い物														
															・食材の洗い方・切り方・加熱														
															・適切な調味料の分量														
															・盛り付け方														
															・準備や後片付け														
															・外食時のメニュー注文														
															・食事の作法														
															・整理・整とん														
															・住まいの手入れ														
															・換気や照明の仕方														
															・室内の飾り付け														
															・ゴミの処理														
															・掃除用洗剤、殺虫剤の使用法														

・各学年で学習した項目をチェック
 ・他教科・領域で学習した項目を記入
 (国語・数学、生活単元学習、作業学習など)

・新学習指導要領の内容が公表され次第、追加・訂正。
 ・年間指導計画作成時、キャリアノート資料として活用。

フェイスシート（記入例）

実態把握

<健康状態>

<心身機能・構造>

- ・ 視覚優位
- ・ 感覚鈍麻
- ・ 爪かみ

<活動>条件・制約

- 予定の伝達, 予定表の提示
- 見本, 反復した活動
- 手本の提示
- 視覚情報

<活動>できること

- 安心して行動できる
- 自分で移動
- 真似
- 働きかけの受け止め

<参加>

(本人の思いや願い)

楽しく過ごしたい

<環境因子(物的・人的環境)>

本人を取り巻く周囲の環境

<個人因子(性格, 趣味, 特技)>

好きなこと, 得意なこと

支援

<環境の工夫>

- ☆ 安心できるように, 絵や写真などを交えたカードを用い, 事前や活動の初めにスケジュール表を提示する
- ☆ 最後までやり遂げられるように, 好きな活動を取り入れながら, 活動の流れを繰り返し, 続ける

学校教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する。

めざす児童生徒像

- ①**明るく** 健康で 心豊かな明るい児童生徒
- ②**仲良く** 協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
- ③**元気よく** 自ら意欲をもって働く児童生徒

めざす学校像

- ・あいさつが響き合う 笑顔のあふれる学校
- ・多様な教育的ニーズに応じた 一人一人の力を伸ばす学校
- ・地域に信頼され 地域に貢献できる学校

学部の経営目標

	小学部	中学部	高等部
①	・生活していく上で必要な基本的な生活習慣を身に付け、生活や学習の支えとなる体力づくりに進んで取り組もうとする態度を育てる。	・健康で丈夫な身体をつくり、明るく元気に生活しようとする態度を育てる。	・自ら健康の保持・増進、体力の向上に努め、たくましく思いやりの心を持ち、豊かな表現力と主体的に物事に取り組もうとする態度を育てる。
②	・友達や身近な人、地域の人と関わりながら仲良く学習したり、集団活動をしたりする気持ちを育てる。	・友達を大切にし、協力し合って共に向上しようとする気持ちを育てる。	・高等部生徒としての自覚と責任感を持ち、互いに尊重し合い、他者への思いやりの気持ちと協力して活動する意欲と態度を育てる。
③	・学校や家庭、地域において、周囲の物事や課題に、興味・関心を持ち、自分の目標に向かってがんばる態度を育てる。	・学校・家庭・地域社会において自分の役割が分かり、活動に力一杯取り組もうとする意欲と態度を育てる。	・働くことの意義と、家庭や社会生活において果たすべき自分の役割を理解し、主体的に実生活の中で実行しようとする意欲と態度を育てる。

横手支援学校 キャリア教育の目標

児童生徒が生涯にわたり、役割を果たしながら生きていくために必要となる資質・能力の習得を通して、地域で自分らしく生き、自己実現を果たそうとする意欲や態度、価値観を育む。



学部のキャリア教育の重点

	小学部	中学部	高等部
役割を果たす	・係活動や当番活動、お手伝いなどの役割を果たし、周囲の人や地域の役に立つ喜びを感じる児童の育成。	・学校・家庭・地域社会において、自分の役割を理解し、継続的に取り組む生徒の育成。	・学校・家庭・地域社会において自他が果たす役割の必要性と意義を理解し、主体的に役割を果たそうとする生徒の育成。
自分らしく生きる	・周りの人と関わりながら自分の好きなこと（人、物、遊び、活動）を見付け進んで取り組もうとする児童の育成。	・自分のよさを認め、個性を伸ばし集団生活できる生徒の育成。	・自分、そして、相手のよさを認め、折り合いをつけながら、集団の中で主体性を発揮し、行動しようとする生徒の育成。
自己実現を果たす	・自分でやろうと決めたことを最後までやり遂げようとする児童の育成。	・自分で決めた目標に向かって、自分で課題を解決しようとする生徒の育成。	・知識と体験を結び付け学んだことを基に、卒業後の生活や仕事について、主体的に選択・決定するための知識や技能、態度を身に付けようとする生徒の育成。

キャリア教育推進の基盤

専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	啓発活動
・発達の段階に応じた指導内容の検証 ・キャリア教育の視点を踏まえた授業実践・改善 ・ICT活用の促進	・個別の指導計画、個別の支援計画に関する個別面談 ・連絡帳での情報共有 ・進路研修会等の開催	・地域の教育資源を活用した教育活動 (居住地校交流、学校間交流、地域貢献活動等)	・療育、教育機関、障害者支援施設、理解協力事業所等との情報交換 ・卒業後支援の実施	・学校HP、学校展の活性化 ・進路指導部通信の発行 ・PTA研修会の実施 ・来てたんせウイークの実施

キャリア教育推進に関わる各分掌部の役割(校内組織づくり)

教務部	・教育課程の編成と評価・改善 ・学部・学級経営案の作成 ・個別の支援画、個別の指導計画等の作成 ・交流活動の渉外等	総務部	・保護者との連携 ・PTA研修視察等の実施 ・学校報の発行
	研究部	生徒指導部	・児童生徒会の運営や集会の計画、実施 ・学校行事や委員会活動、集会活動における役割の明確化 ・自己有用感を高めたり、お互いのよさを認め合ったりできるような集団づくり
進路指導部			・進路指導部通信の発行や研修会の実施等による情報提供 ・外部関係機関との連携、情報交換による進路指導・支援 ・キャリアノート作成
保健体育部	・保健、体育、安全、給食に配慮した学習等の計画、実施		
支援部	・校内外の教育相談及び支援 ・特別支援教育の教育活動の広報活動 ・特別支援教育に関わる物的及び人的資源の提供		
図書情報教育部	・学校ホームページの更新 ・ICT活用の推進 ・学校展の開催		・図書・読書活動の推進

横手支援学校

授業づくりの基礎・基本

【横手のスタンダード】

児童生徒と教師が共に成長するために…

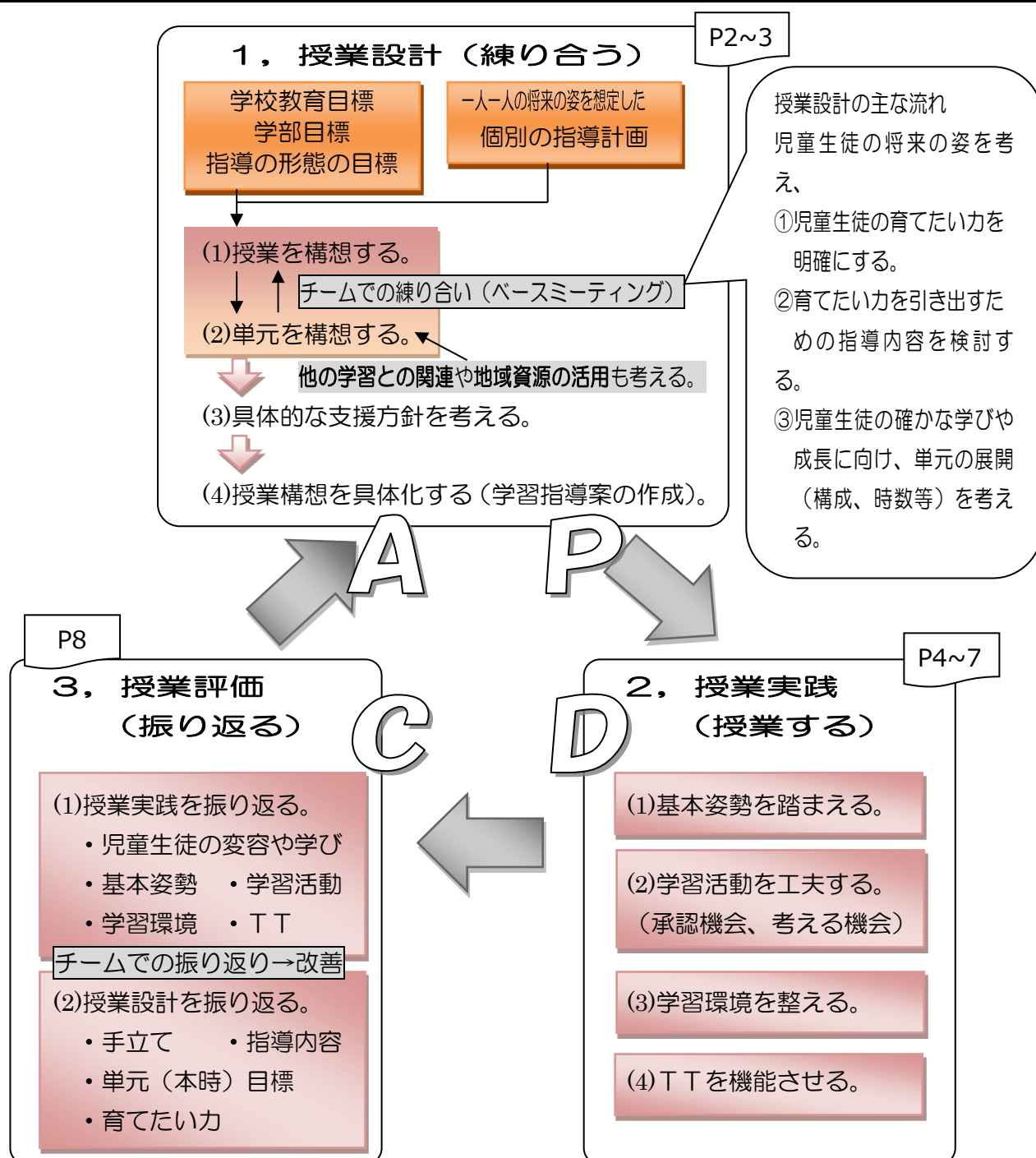


秋田県立横手支援学校

横手のスタンダード

☆この冊子には、①横手支援学校として、授業づくりにおいて大事にしたい点
②チームによる授業づくりを進めるヒント が書かれています。

◆単元スパンで「練り合う」→「授業する」→「振り返る」ことを基本とし、
チームによる授業づくりを大切にしましょう。



1 「練り合う」のスタンダード

授業改善COを活用！

－ ベースミーティングをしよう（授業者以外の教師も交えると効果的！）－

(1) 授業を構想する。

- ① 児童生徒の実態把握をする（「過去」→「現在」→「将来」の時間軸を意識して把握する）。
 - ・興味・関心、認知特性、対人関係スキル、社会性スキル、学習経験、既習事項等
 - ・本人や保護者の希望、家庭や地域での生活の様子等
 - ・今できていることや想定される将来の生活、社会的自立に向けて身に付けておきたい力
〔個別の支援計画、個別の指導計画〕
- ② 学校教育目標や学部の指導の重点、学習指導要領（各教科等における指導内容）を確認する。

◆学校教育目標◆

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加をめざして努力する児童生徒の育成

☆めざす児童生徒像☆

健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒

- ③ 横手支援学校キャリア教育全体計画と、その指導の重点を確認する。＊[資料1](#)
- ④ ①、②、③をすりあわせ、単元や授業で育みたい力、目指したい児童生徒の姿を明確にする。

「できる」「できない」という視点よりも「育てる」という視点を大切に！

(2) 単元を構想する。

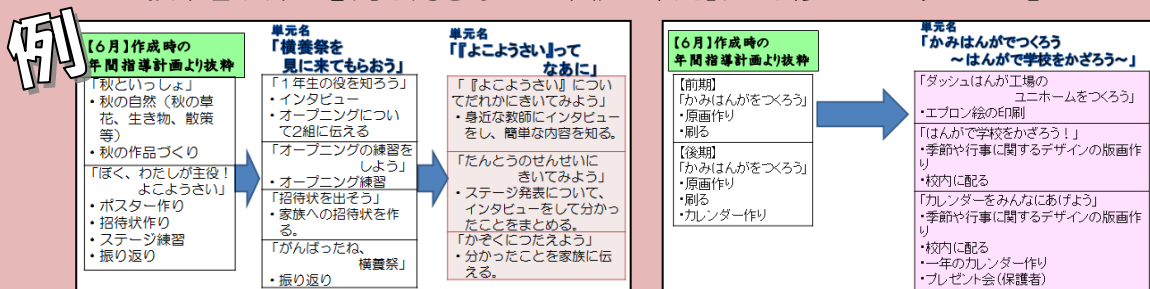
- ① 目指したい児童生徒の姿を引き出す指導内容（中心課題）を検討する。
- ② 児童生徒にとって分かりやすい流れを組む（指導内容を組織化）。
 - ・単元のクライマックス*1を検討する。
 - ・単元の時数を検討する。
- ③ 他の単元や指導の形態との関連も検討する（年間指導計画）。
- ④ 生活に結び付いたより具体的・実質的な学習活動を検討する（地域資源の活用）。

*1

児童生徒が単元のゴールとしてイメージし、最も盛り上がる学習内容を含んだもの。

児童生徒にとって、本単元の学習の意味や価値が感じられるように…

「授業者以外の意見を聞きながら柔軟に単元計画を修正してみよう！」



自閉的傾向を有する児童在籍学級の生活単元学習の修正例。

分かりやすく、見通しをもって学習に取り組めるように繰り返しの学習を設定している。

－ 授業プランをたてよう－

(3) 具体的な指導内容・支援方法を考える。〔ベースミーティングを踏まえて〕

- ① 児童生徒の思いや願い、興味・関心に基づいた単元となっている。
- ② 単元を通して育てたい力が明確になっている。
 - ・簡潔に本単元のねらいが話せる。

➡ 指導の形態の、**単元**において、**学習活動**を通して、**～の力や児童生徒の姿**を育てる。
また、～の力は、**将来の〇〇**につながる等。

- ③ 学校教育目標、学部の指導の重点、学習指導要領の内容を具現化したものとなっている。
- ④ ライフキャリアの視点「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」を意識したものとなっている。

授業の中で大切にしたいポイント

★学習の意味付け、価値付け、関連付け【ライフキャリアの視点：役割を果たす】

- ・児童生徒が**学習の必要性**を感じられる工夫がある。
- ・児童生徒が**学習のゴールや学習と将来との結び付き**を意識できる工夫がある。
- ・児童生徒が学習中に**学習のめあてを意識**できる工夫がある。
- ・少し難しく、**挑戦したい**と思える課題が設定されている。
- ・**学習のめあてとまとめのつながり**が見える工夫がある。

★承認機会【ライフキャリアの視点：自分らしく生きる】

- ・児童生徒が自分や周りを認める及び**認められる機会**が設定されている。

★考える機会【ライフキャリアの視点：自己実現を果たす】

- ・学習のめあてやまとめ、学習活動中に、児童生徒の**考える機会**が保障されている。
- ・児童生徒が考えたことを**表出する機会**が保障されている。

(4) 学習指導案を作る。

学習指導案・略案を作成する。＊**資料2**

- ・育てたい力、
- ・単元（本時）の目標
- ・指導内容
- ・手立て等 を簡潔に記す。

2 「授業する」のスタンダード

— 授業の前に ～日々の教育活動から行っておきたいこと！ —

学習のルールづくり

学びの構えづくり

・学習グループのみんなが気持ちよく**学習するためのルール**などは、全員（個別）で確認する機会を設けたり、視覚的に提示したりする。また、発達年齢に応じて児童生徒が話し合いの中で決めるなど、日々の教育活動の中で適宜行う。

・**人の話に注意を向ける（注意を継続する）**ことは、豊かな学びを支える一つの要素であり、社会的自立に向け大事な力といえます。学びの構えづくりとして、児童生徒が「学習が始まる」ことや「誰かが話をす

ることが分かり、自分の気持ちを調整していくための工夫を普段から行うことが大切です。

*発達の段階に応じてですが、まずは「何か楽しそうなことが始まるぞ（ワクワク）」という期待感から・・・

— 授業実践 —

(1) 基本姿勢を踏まえる。

- ① 健康・体調、安全や衛生面への配慮
- ② 明るく、落ち着いた雰囲気づくり
- ③ 児童生徒の反応や発信への気付きと受け止め
- ④ 子どもの気持ちや思考への寄り添い
- ⑤ 場に適した言葉遣いや態度

承認の機会につながります

児童生徒との関わり方の基本

児童生徒に伝わりやすい話し方

- ・目線を合わせて話す
- ・明るい表情、元気な声で話す
- ・一文で1つの指示を話す
- ・具体物を示しながら話す
（「あれ」「それ」「あちら」×）
- ・一問一答にならないように話す
- ・児童生徒の理解の程度を確認しながら話す
- ・ユーモアも入れて話す
- ・意図や内容を明確にして話す



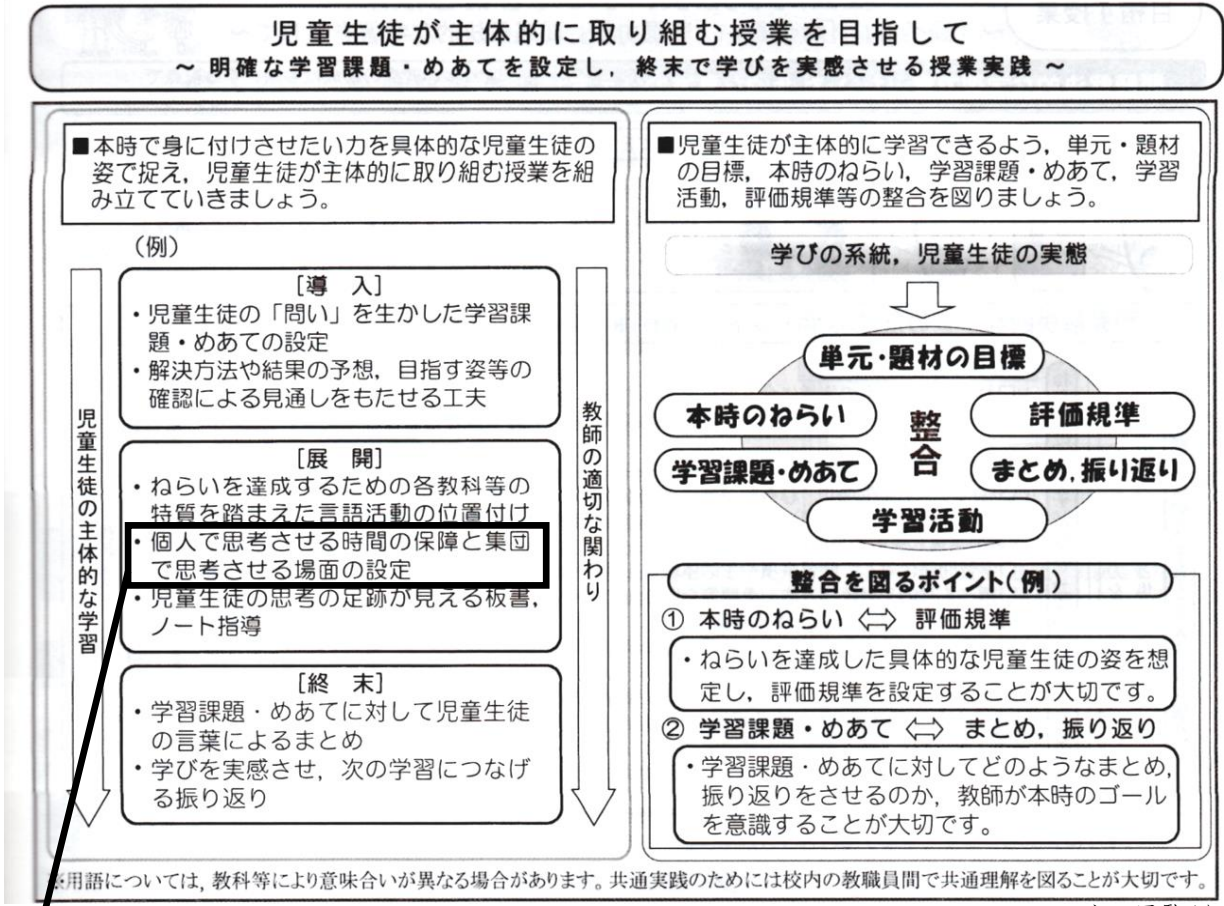
児童生徒に寄り添った話の聴き方

- ・表情をよく見て聴く
- ・受容的な雰囲気聴く
- ・話を最後まで聴く
- ・児童生徒の意見をつなぎながら聴く
- ・児童生徒の理解の程度を確かめながら聴く
- ・児童生徒の話を楽しみながら聴く
- ・あいづちをうちながら聴く



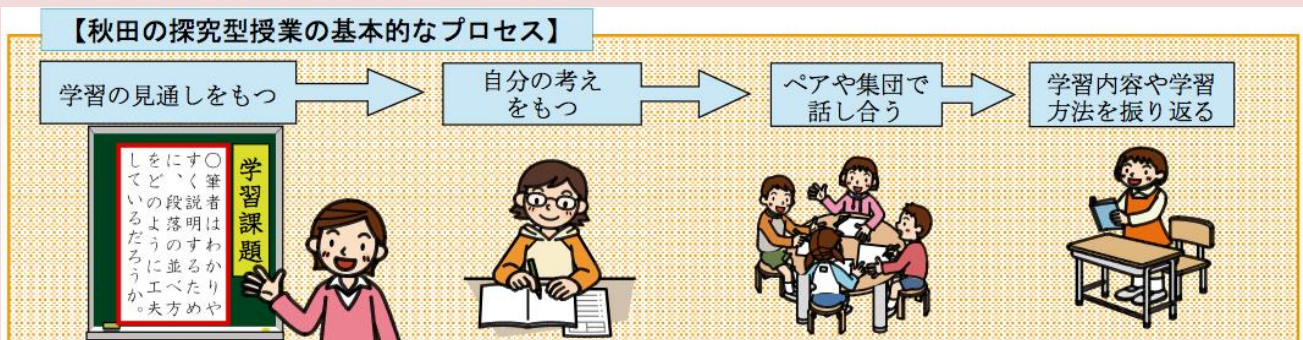
(2) 学習活動を工夫する。

- ① 導入：本時の意欲喚起、学習への見通し
- ② 展開：活動量の確保、めあてを達成するための活動
- ③ 終末：学びの実感（達成感）、次の学習への意欲喚起



H27 南の要覧より

【児童生徒の学び合いと高め合うためのポイント】

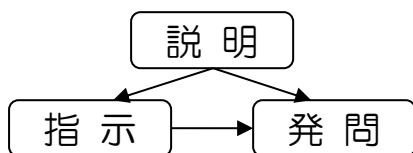


「個の学び」で終わらずに、「個の学び」を「集団の学び」につなげたり、共有したりできる工夫をする。

H28 学校教育の指針より

★考える機会の保障★

教師の言語的関わり（「説明」「指示」「発問」）を意図的に用い、児童生徒の考える機会を保障する。



・授業の中で、説明から指示・発問、説明から指示、そして発問など、意図的に用いる。

5 ★承認機会の保障★

教師の言語掛けや雰囲気づくり、活動内容により、自分や友達を認める機会や自分が認められている実感を味わう機会を保障する。

役割を果たすことで認められる

人として認められる

・人として認められることを土台としながら、自分が周りに働き掛ける（役割を果たす）ことで、周りに影響を与えたり、喜ばれたりすることを実感できる機会を意図的に設定する。

(3) 学習環境を整える（構造化）。

① 「空間」の構造化

- ・児童生徒と教師の動線
- ・座席や道具の配置
- ・感覚刺激に配慮した掲示物

例



「歩く場所」が分かる



順番が分かる

② 「時間」の構造化

- ・「始め」と「終わり」の時間
- ・活動の順番



活動の手順が分かる



終了時間が分かる

③ 「活動」の構造化

- ・単元全体の計画
- ・学習の流れ「何を」「どの順番」「どれだけ？」

④ 「方法」の構造化

- ・活動の手順（マニュアル）
- ・完成品の提示



単元の流れ（学習の軌跡）が分かる

(4) TTを機能させる。

- ① 適正数及び役割分担が明確
- ② 意図のある立ち位置

TTで協力して子どもたちの
学びや変容を見取ろう！！

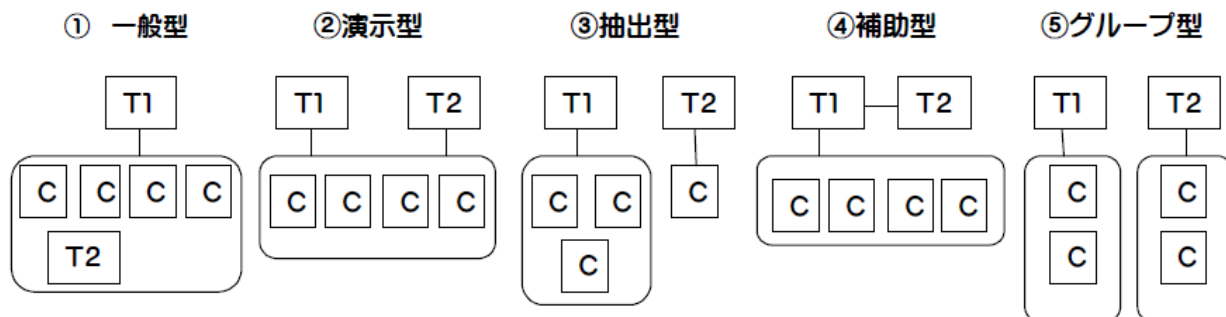


座席配置の工夫（コの字型）
と教師の立ち位置

チームティーチング（TT）では、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導にあたります。単に同じ場所に複数の教員が配置されているというわけではありません。特別支援学校ではほとんどの授業がTT方式による指導ですので、授業を行う際には、どの形式で、誰が、どのような働きかけをするのかなど役割分担をしっかりと確認しておきましょう。

◇TT方式の形式パターン例

T:教師 C:児童生徒



3 「振り返る」のスタンダード

(1) 授業実践を振り返る。

①児童生徒の変容や学びの姿を振り返る。

- ・児童生徒一人一人の引き出したい姿が見られたか。学習中の表情や行動、言動など、授業中に見られた様子を出し合う。

*意見を出し合う際には、付箋紙やホワイトボードを使い可視化する。

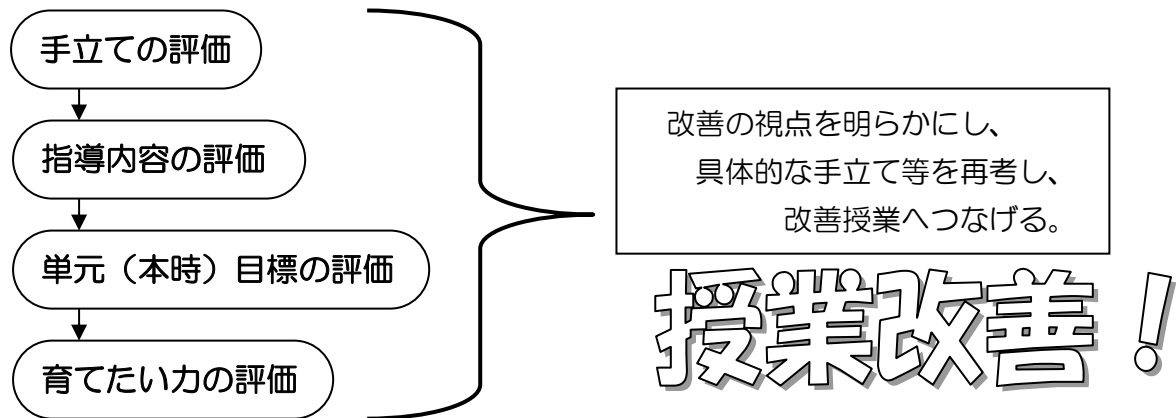
- ・本時や単元の目標が達成されたかどうかを述べ合う。

②基本姿勢、学習活動、学習環境、TTについて振り返る。

- ・授業づくり振り返りシートを活用する。*[資料3](#)
- ・特別支援教育のミニマムスタンダードのB授業実践チェックリストを活用する。

(2) 授業設計を振り返る。

◆児童生徒の変容や学びを引き出すことができたかどうかとともに、以下の点についても評価し、課題があれば修正する。



◆全校授業研究会では、「ワークショップ型協議会+全体協議」を通して改善の視点を明らかにする。
ミニ授業研では、参観者による授業参観シートと指導助言を基にして改善の視点を明らかにする。
授業者はそれを基に手立て等を再考する。

◆単元終了後に年間指導計画等へ立ち返り、次単元での授業づくりに生かす(「練り合い」へ)。

〈参考文献等〉

- ・秋田県立横手養護学校：「研究紀要第33集」
- ・特別支援教育課 総合教育センター：「特別支援教育のミニマムスタンダード」
- ・武田篤：「特別支援学校における授業づくりの新しい視点」～仲間と共につくる授業～
- ・千川隆：「特別支援教育のチームアプローチ ポラリスをさがせ」
- ・平成24年度 全校授業研究会等の指導助言、記録から
- ・平成27年度 南の要覧
- ・平成28年度 学校教育の指針

◆授業づくりの基礎固め◆(付録)

①「キャリア教育」って何？

「キャリア教育」とは

一人一人の

社会的自立
職業的自立

に向けて

必要な 基盤となる能力や態度 を育てること

を通して！

キャリア発達 を促す教育

キャリア発達とは、「社会の中で役割を果たすことを通して自分らしく生きる過程」と定義される。

【キャリア教育を解釈する上での留意事項】

①「社会的」

- ・職業的自立のみを目指したものでなく、より広義の自立を目指したものであること。

②「必要な基盤となる」

- ・能力や態度とは、就労に向けた特定の領域を示すものでなく、社会的自立のための基盤・土台となる能力や態度を意味すること。

③「能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」

- ・キャリアプランニングマトリクスで示される「4領域8能力」やキャリア答申で示された「基礎的・汎用的能力」等の育成そのものを意味するものではないということ。

つまり！

キャリア教育とは、上に例示されている能力や態度の育成を通して、キャリア発達を促すことであり、我々は皆、社会との関係性の中で生活することを踏まえると、

児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育である。

(意欲や態度、価値観)

例)

やってみたい・挑戦しよう

今やっている勉強は将来に向けて意味があるんだ。

〇〇になりたいな

できるかも…

真剣に聞いてみよう

うまくいかないときもあるさ
また、明日がんばろう

興味がある

難しそうだけど、やってみようかな



キャリア発達を促すための

② 「言語環境の整備と言語活動の充実」って何？

前項でキャリア教育とは、「児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育」とあるように、様々な物事との向き合い方は、他者に強要されるものではなく、児童生徒本人が自分で考え、判断し、納得していくことが大切です。

学習指導要領解説*の中には、「児童生徒が主体的に考えたり、判断したり、表現したりする力を育むためには、…言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で言語環境と整え、児童又は生徒の言語活動を充実すること。」とある。言語は、思考すること、他者とコミュニケーションをとることに加え、行動をコントロールすることにも用いられます。

キャリア発達を効果的に促すために、言語環境の整備と言語活動の充実を意識していきましょう。
*学習指導要領解説総則編（幼稚園、小学部、中学部）P189

では、本校においては「言語環境の整備や言語活動の充実」とは、どんなことでしょうか？



特色の柱：本校の特色の一つである読書週間や読み聞かせ会。本に親しむという側面からも意義ある取組です。全校体制で定期的・継続的に実施されており、他学部の生徒が読み聞かせをする他学部交流の機会ともなっています。

授業実践：学習めあての視覚化や学習のまとめの言語化（児童生徒の内面の読み取り）、言語を用いた学習活動や学習中に用いる言葉の精選、内言語レベルでの子どもの気持ちの代弁や気持ちを表出するための工夫など、授業の中で言語に関わる様々なしかけが可能です。

学校生活：教師の話し言葉は元より、板書や掲示物などの視覚情報（色、レイアウトも含む）の精選や工夫、放送等の聴覚情報の言葉遣いや内容等の精選や工夫が大切です。また、儀式等での情報支援もこれにあたります。

地域資源：校内資源だけでは、具体的・実地的な学習の展開に限界があります。より充実した言語環境と言語活動に向けて、活用できる地域資源は多々あります。また、家庭との連携も子どもの社会的自立に向けては大切な要素と言えます。

◆「言語環境の整備と言語活動の充実」と密接な関係にある「ことば」の指導について◆

◎ことばの指導の意義◎

児童生徒にとっては…ことばは考える力であり、行動をコントロールし、人とのやり取りをする手段となり、ことばを獲得することは、社会的自立に向けての必要な力の一つということができる。

教師にとっては……ことばの指導は、子どもの実態を把握し、様々な手段を活用しながら、伝えたいという気持ちや伝わったという経験を積み重ねていくことが大切であり、コミュニケーションは双方向のやり取りが重要となる。指導には、受け手の感性も求められ、その根幹には本来磨くべき教師としての本質があると言える。

*「ことば」とは、音声言語に加え、非音声言語、音声言語以外の補助代替手段（ACC）も含まれる。

○ことばの役割○

生活の中で重要な役割があり、
主に**自分の要求の伝達**や**他者との意思の疎通**、**指示や授業の理解**などがある。

○ことばの重要性○

ことば（言語）はコミュニケーションの手段としての役割だけでなく、**ヒトは物事をことばで考えている（思考）。また、見たい聞きたいした事柄（経験）をことばで覚えたい思い出したいしている（記憶）。さらに、ふるまい（行動）をことばで操っている。**もし、ことばの発達に問題があると、コミュニケーションが難しいだけでなく、生活場面の活動や学業の習得に影響が出ることがある。

○ことばとコミュニケーション○

コミュニケーションはことばによる言語的コミュニケーションとことばによらない非言語的コミュニケーションに分けられる。

ことばによるコミュニケーション：音声言語、視覚言語（文字、手話等）、触覚言語（点字）があり、ことばを介することで、意思や考えを広範囲にまた詳細に相互に伝達できる。

ことばによらないコミュニケーション：視線、表情、身振り、指さしなどがあり、伝達できる内容は簡単な欲求や要求（ほしいものややりたいこと）、また喜怒哀楽といった単純な情動（気持ち）に限られる。

○ことばと記憶・思考・行動○

日常生活で経験する学習内容は、ほとんどことばを介して記憶している。たいていは、音声化されないことば（内言語）によって処理して記憶する。コミュニケーションは音声化されたことば（外言語）で実現されている。ことばで処理して記憶した事柄は、目的に応じて思い出することができる。また、思考にも深く関連している。見聞したことを区別できるのは、事柄に対してことばで名前を付けており、複数の名付けられたものの共通項を見つけ分類するからである。ことばで区別され、関係付けられているものは、ことばで操作できる。つまり、思考できることになる。人は、目の前のものだけをみて考えるのではなく、これまでの蓄積された知識と関連付け、さらに先を見越して考える。つまり、思考は現在過去、未来を関係付けて成り立っている。また、ことばは行動にも重要な役割を果たしている。日常生活で習慣になった行動は、あまりことばは用いない。新しく実行しなければならない行動や複雑な行動はことばの力が必要になる。ことばで行動の目標や計画を立てて、またはより効率的なやり方を考えて実行している。

*このように、ことばはコミュニケーション手段だけではありません。

日々の学校生活においてもことばの指導の意義を捉えて実施したいものですね。



キャリア発達を促すための

③ 「合理的配慮」って何？

キャリア教育は、一人一人のキャリア発達を促す教育である。教員は、学校教育目標の達成と児童生徒一人一人の育てたい姿の実現に向けて、教育課程の枠の中で教育実践している。これまでも教育課程の枠の中で、一人一人の実態に応じて指導目標、指導内容の配列や時数、学習グループなどを設定し、教育実践にあたってきました。そして、一人一人に応じた配慮や手立てを講じながら行ってきましたが、平成28年4月より障害者差別解消法の施行に伴い、一人一人に応じた学びやすい環境や学びを充実させる配慮と言える「合理的配慮」の提供が義務となります。「合理的配慮」に関しては、個別の支援計画に明記することが望ましいとされており、保護者との合意形成の上で実施していくことが大切です。一人一人の学びを充実させ、効果的にキャリア発達を促していくためにも、合理的配慮についての基本的事柄を理解しておきましょう。

障害者権利条約

← あらゆる障害者（身体障害、知的障害および精神障害等）の尊厳と権利を保障するための条約

← 2013年12月4日参議院本会議
障害者基本法や障害者差別解消法の成立

日本国の**批准** → 2014年1月20日付けで国際連合事務局に**承認**

障害者権利条約

- 「第二十四条 教育」においては、教育についての障害者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容する教育制度（inclusive education system）等を確保することとし、その権利の実現に当たり確保するものの一つとして、「個人に必要とされる**合理的配慮**が提供されること。」を位置付けている。
- 「第二条 定義」においては、「**合理的配慮**」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。

代表的な合理的配慮の例

◆知的障害◆

- ゆっくりと短いことばで話す。
- 見本や実物を提示して説明する。
- 文章を書くときは、見本や項目を提示する。
- 漢字には、ルビを振る。
- 視覚的に分かりやすい教材を使う。
- 話し合いや思考の際には、テーマや項目を絞る。

◆発達障害◆

- 物や絵を見せながら、短い言葉や文章で話す。
- 疲労や緊張などに配慮し、別室や休憩スペースを設ける。
- 吃音等ある場合には、話す時間を確保する。
- 感覚過敏がある場合には、教室内の音、温度、光等を調整する。

◆肢体不自由◆

- 段差のあるところは補助する。
- 板書や掲示物を見えやすい高さにする。
- 作業台や机等は、作業しやすい高さにする。
- 自筆が困難なときは、本人の意思確認をして代筆する。
- 活動することができる環境を工夫する（車いす）。

◆難病等◆

- 定期的な内服や排泄、医ケア等に配慮する。
- 体調や疲労等に配慮し、活動や休憩場所に工夫する。
- 他の児童生徒と同じように運動できない場合にも、病気等の特性を理解し、過度に排除することなく、参加するための工夫をする。

* 詳細は、「合理的配慮等具体例データ集」：内閣府
「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」特総研 を参照ください。

★保護者への情報提供という意味からも学校外での配慮についても、目を通しておきたいですね。

◆基礎的環境整備と合理的配慮の関係◆

基礎的環境整備と合理的配慮配慮（中教審初中分科会報告より）

「合理的配慮」と「基礎的環境整備」

障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子供に対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。

基礎的環境整備

- ①ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ②専門性のある指導体制の確保
- ③個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ④教材の確保
- ⑤施設・設備の整備
- ⑥専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ⑦個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ⑧交流及び共同学習の推進

学校における合理的配慮の観点

①教育内容・方法

- ①-1 教育内容
 - ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
 - ①-1-2 学習内容の変更・調整
- ①-2 教育方法
 - ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
 - ①-2-2 学習機会や体験の確保
 - ①-2-3 心理面・健康面の配慮

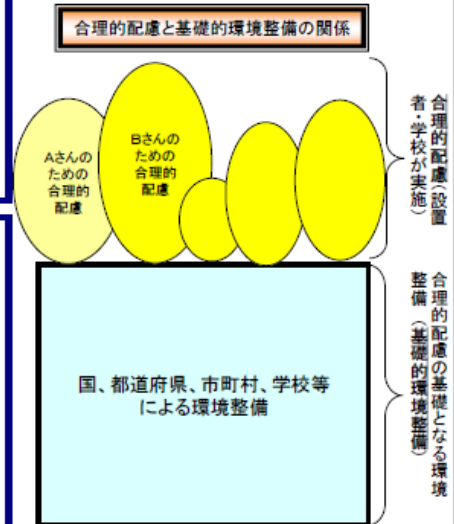
②支援体制

- ②-1 専門性のある指導体制の整備
- ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ②-3 災害時等の支援体制の整備

③施設・設備

- ③-1 校内環境のバリアフリー化
- ③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

3観点11項目



引用：「インクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備と合理的配慮の課題」
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 藤本氏 資料より

前項に障害者権利条約の中に位置付けられている合理的配慮について、そして、合理的配慮の代表的な例を挙げました。

合理的配慮を実施する上では、合理的配慮の基礎となる**基礎的環境整備**についても理解しておければと思います。

「合理的配慮」とは、障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものです。

「基礎的環境整備」とは、この「合理的配慮」の基礎となるものであって、障害のある子供に対する支援について、法令に基づき又は財政措置等により、例えば、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、それぞれ行う教育環境の整備のことです。

また、「合理的配慮」は、「基礎的環境整備」を基に個別に決定されるものであり、それぞれの学校における「基礎的環境整備」の状況により、提供される「合理的配慮」も異なることとなります。

なお、「基礎的環境整備」についても、「合理的配慮」と同様に体制面、財政面を勘案し、均衡を失した又は過度の負担を課すものではないことに留意する必要があります。

加えて、学校における合理的配慮の観点（3観点11項目）についても知っておきましょう。

平成30年度 研究について

研究
主題

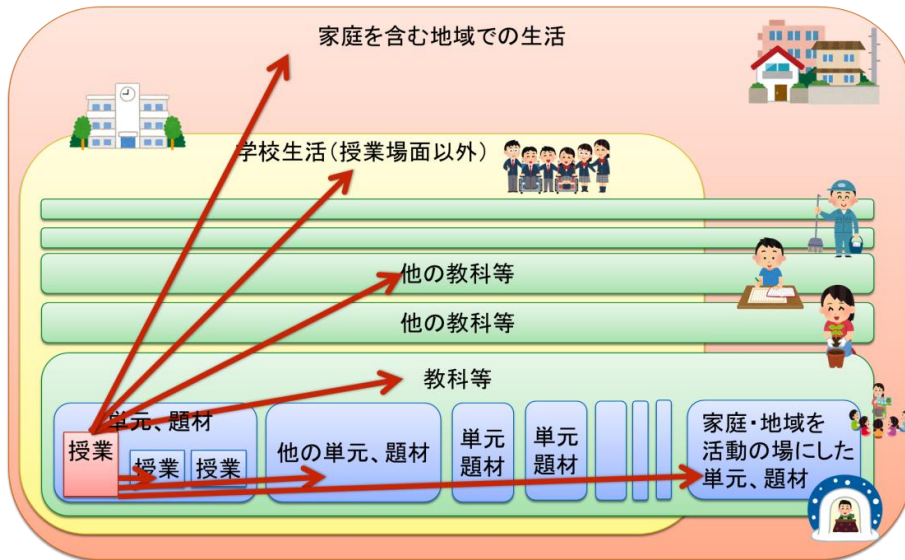
様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科等の授業改善を通して～

様々な場面とは

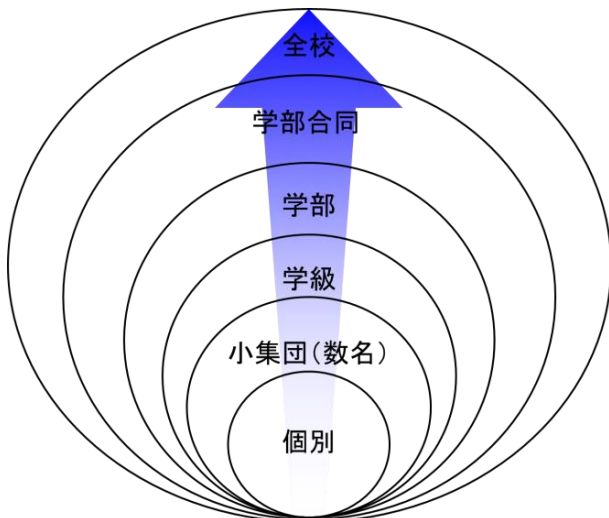
児童生徒の成長、キャリア発達などによって、**学習活動や集団、役割などが広がっていく過程での一場面のこと**

「人は時間的広がり、空間的広がり、人的な広がりの中に存在する。」

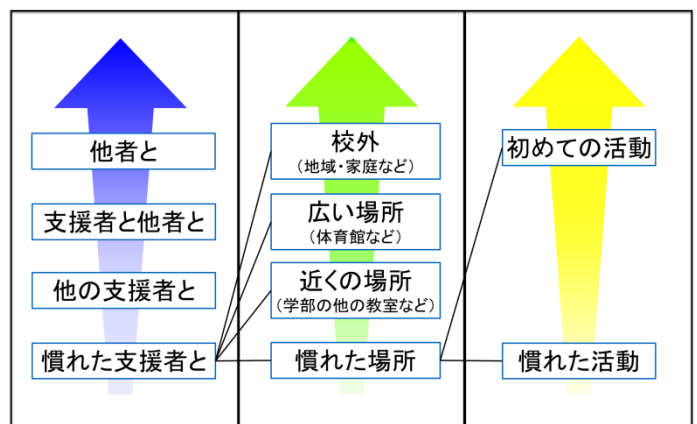
「新版キャリアの心理学」 渡辺三枝子 2007



学習活動の広がり



学習集団の広がり



集団参加のプロセス

学びを生かすとは

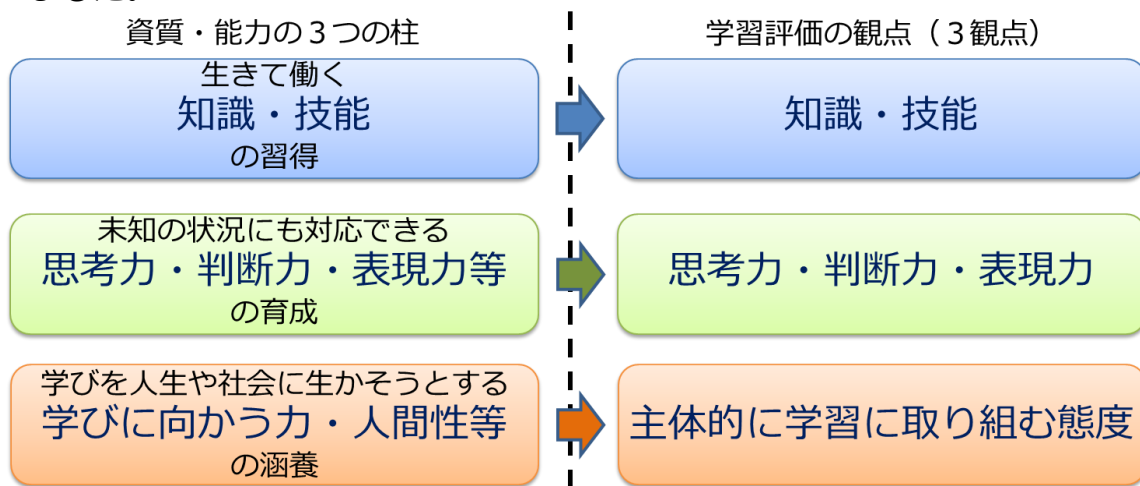
学習したことや経験したことが、**学びとして定着し**、他の場面や状況において**活用したり、応用したり**できるようになること

育成を目指す資質・能力

新学習指導要領では、従来から盛り込まれている学習内容だけでなく、それを学ぶことで「**何ができるようになるか**」という視点で、学校教育で育みたい資質・能力も取り上げています。

この「何ができるようになるか」が新学習指導要領の学力観である「**育成を目指す資質・能力**」です。各教科等の教育目標や内容はこの資質・能力の3つの柱を基に整理されました。

また、この「育成をめざす資質・能力」を基にした**学習評価の観点**が示されました。



中教審「幼、小、中、高及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に作成

今年度の研究では



単元目標、本時の目標、個別の目標をこの新学習指導要領の学力観に基づいた学習評価の観点で整理し、設定します。

(評価の例)

- 知・技⇒ ○○の知識を身に付けている／○○を理解している／
○○が分かる／○○することができる
- 思判断表⇒ 各教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている
- 態 度⇒ 主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしよう
としたりしている

主体的・対話的で深い学び

子どもの学びを「育成を目指す資質・能力」につなげるために「どのように学ぶか」ということを整理したのが、「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点です。この視点は、特定の指導方法のことではなく、これまでの授業実践の中から、重要となる視点を整理したものです。これまでの授業を3つの視点で見直すことが、授業を見る目を養うことになり、子どもの学ぶ姿から改善点を見だし、指導を工夫することにつながります。

また、「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通すことが大切であるとされています。

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



中教審『幼、小、中学校、高及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』の補足資料より

今年度の研究では



- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を、授業づくりの重点として設定するとともに、研究協議の視点として位置付け、成果や改善点を検討します。具体的な視点、留意点については以下のページをご覧ください。
- ・ 単元構想の際に、小単元や題材の中でどんな学び方をするか見通した単元計画を作成します（単元構想図や学習指導案に記入します。）

主体的な学び

定義

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか

例

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする

中教審『幼、小、中学校、高及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』の補足資料より

知的障害教育における留意点

- 興味関心を喚起できるような導入部での指導計画
 - ・単元のゴールを分かりやすく提示
 - ・具体的にイメージできる題材
- 学習内容に「期待」をもつことができるか
 - ・見通しのもてる学習活動
 - ・本時の学習内容と次時の学習内容のつながり



丹野 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 特別支援教育研究 2017年12月号を基に作成

本校のこれまでの実践から

- ・学習のゴールや学習と将来との結び付きを意識できる工夫
- ・学習中に学習のめあてを意識できる工夫
- ・学習のめあてとまとめのつながりが見える工夫
- ・教師のねらいと児童生徒のめあての整合性
- ・ねらいを達成する方法が児童生徒にとって明確であり、意欲につながる工夫
- ・「キャリアノート」を活用し、児童生徒自身が学んだこと、身についたことを見通しながら学習を進めることができる工夫

対話的な学び

定義

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

例

- ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- ・あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る

中教審『幼、小、中学校、高及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』の補足資料より

知的障害教育における留意点

- 多様な対話の在り方を前提とした指導の工夫
 - ・書くこと、描くことなど、得意な方法で表現
 - ・絵カードでの自分の気持ちを伝えることも対話と捉える
- 言葉の意味の正しい理解
 - ・表出している言葉の意味を正しく理解しているか確認
 - ・具体的に言葉の意味を教える

丹野 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 特別支援教育研究 2017年12月号を基に作成

本校のこれまでの実践から

- ・個々の体験と課題を全体で共有できる場面設定を工夫
 - ・話し合いの過程が見えるように、子どもの気持ちや考えの変化を板書や付箋に残す工夫
 - ・子ども同士が関わる必然性のある役割を設定
 - ・生徒の役割を通じた関わりについて、実態を踏まえてその具体的なねらいを設定
- (場の共有の段階、対教師・対生徒、一方通行、双方向、物を介して、集団の中で、教える－教えられる、見本になる－見て覚えるなど)

深い学び

定義

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

例

- ・事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

中教審『幼、小、中学校、高及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』の補足資料より

知的障害教育における留意点

- 学習過程の中で知識を相互に関連付ける（教科の見方・考え方を働かせて）
 - ・(例)「数学的な見方・考え方」を働かせ、算数科で学習した金種の数量的な関係を用いて、お楽しみ会に必要な材料を買い物学習で準備する
 - ・(例)「言葉による見方・考え方」を働かせ、国語科で学習した言葉遣いなどに気を付けて、お楽しみ会の招待状を作る
- 学習活動の本質的な意義に迫る
 - ・(例) 友達に拍手をするという活動の意味は？ 生活に関わる見方・考え方を働かせると「発表が上手にできた友達に気持ちを込めて拍手をする」

丹野 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 特別支援教育研究 2017年12月号を基に作成

本校のこれまでの実践から

- ・学習の意味付け、価値付け、関連付けをする（ライフキャリアの視点：役割を果たす）
- ・学習の必要性を感じられる工夫
- ・学習場面の成果を他の学習場面等でも活用できるよう、教科等横断的な視点に立ち、意図的に指導内容を関連付ける



「年間指導計画 単元・題材一覧」を活用し、各教科等の指導内容を意図的に関連付ける

学びの連続性を重視した対応（新学習指導要領改訂のポイント）

知的障害については各教科等の目標内容が「育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。

各部や各段階、幼稚園や小・中学部とのつながりに留意し、次の点が充実しました。

- 中学部に2つの段階**を新設（下図参照）。小中学部の**各段階に目標を設定**。段階ごとの内容を充実。
- 小学部の教育課程に外国語活動**を設けることができる。
- 必要がある場合は、**小学校などの学習指導要領の各教科の目標及び内容を参考に指導**ができる。
- 教科別や領域別に指導を行う場合の基本的な考え方を十分に理解した上で、各教科等を合わせた指導**を行う。
- 目標に準拠した学習評価（観点別の学習状況の評価）の導入



各教科の目標及び内容の連続性・関連性を整理した。
各学部や各段階の内容のつながりを整理し、系統性のある内容を設定した。

知的障害教育の各教科の内容、目標が充実

現行	小学部			中学部		高等部	
	1段階	2段階	3段階			1段階	2段階
改訂後	小学部			中学部		高等部	
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階



今年度の研究では

- ・「指導内容検討会」を定期的に行い、昨年度作成した「指導内容系統表」について、新学習指導要領の教科の目標・内容に基づいて検討、改善を行います。
- ・小学部の「生活単元学習」においても、生活科を中心に、合わせている教科を明らかにし、その目標、内容を踏まえた指導を行います。

自立活動の改訂のポイント

自立活動については、学習指導要領及び解説にて、以下の点が改訂のポイントになります。

- 自立活動の6区分のうち、「1 健康の保持」に**新たに「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」の項目を追加。**
(※6区分26項目が、6区分27項目となった)
- 個別の指導計画の作成と内容の取扱い等に関する手続きを整理する際の配慮事項が充実して示された(流れ図・・・下図参照)。
- 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の解説において自立活動の具体的な指導内容を設定するまでの例が充実して示された(下表参照)。

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	
実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階 ※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)
指導すべき課題の整理	②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階 ※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)
	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
項目間の関連付け	⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として
	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階 指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定
	⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント
⑧ 具体的な指導内容を設定する段階 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

学習指導要領解説 自立活動編 P 2 8

「実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)」

流れ図を踏まえた例示と解説		
障害種別	事例の概要	掲載ページ
肢体不自由(脳性まひ)と重度の知的障害	他者との関わりの基礎	3 2
聴覚障害	職場での意思疎通、会話への意欲の喚起	3 6
視覚障害	白杖を用いた歩行	1 2 8
聴覚障害	人工内耳装用児のやりとり	1 3 2
知的障害	順番やルール等の社会性の獲得	1 3 6
肢体不自由	障害者用トイレでの排泄	1 4 0
病弱	自己理解、自尊感情	1 4 4
言語障害	吃音の不安軽減	1 4 8
自閉症	やりとりの仕方	1 5 2
学習障害	学習上の困難の改善・克服	1 5 6
注意欠陥多動性障害	感情や行動の自己コントロール	1 6 0
高機能自閉症(アスペルガー症候群含)	人との関わりの自信と意欲、コミュニケーション	1 6 4
盲ろう	教師とのやりとり	1 6 8

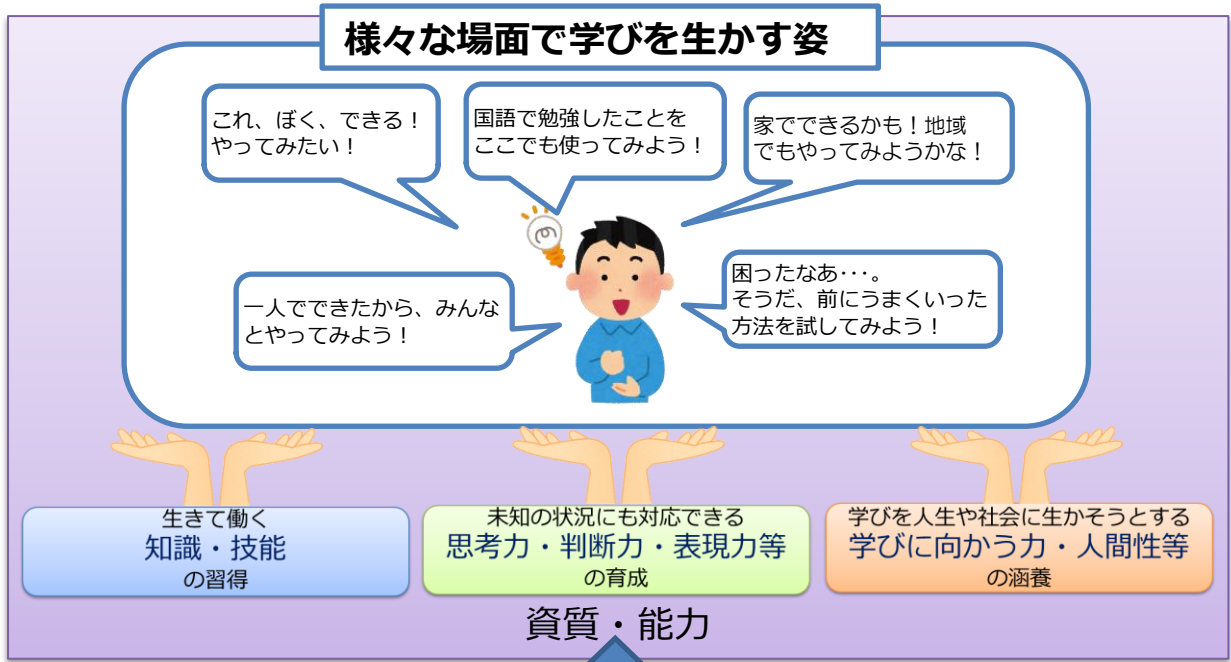
学習指導要領解説 自立活動編を基に作成

今年度の研究では

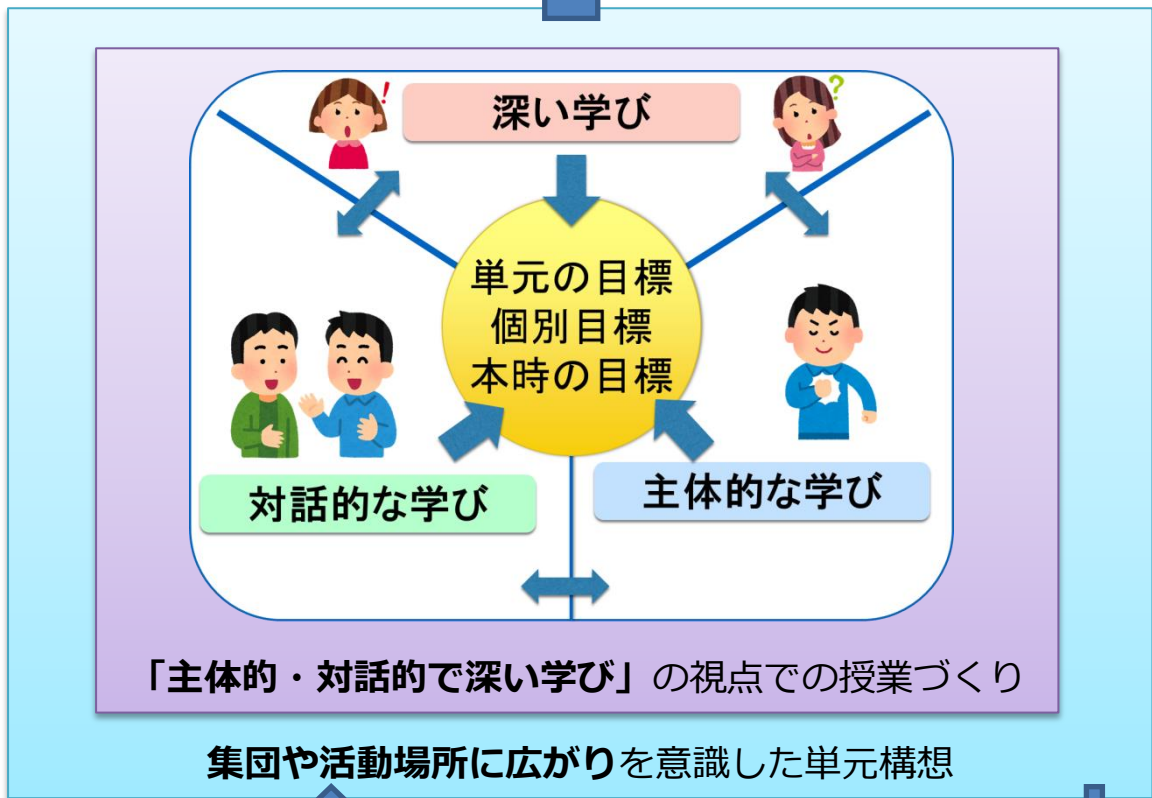
- ・特に高等部では、様々な場面で学びを生かすためには、環境や状況に対する判断や調整をする力が必要と考え、家庭科において自立活動の目標設定の流れを取り入れた研究を行います。

研究概要図

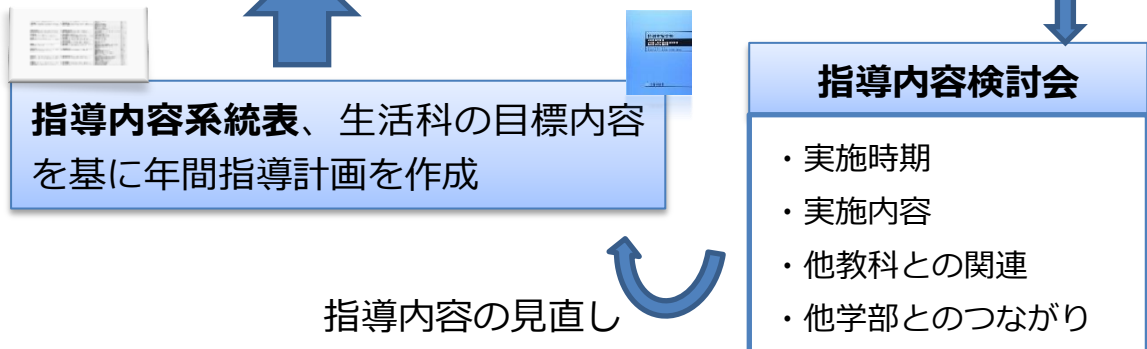
なにができるようになるか



どのように学ぶか



何を学ぶか



地域で役割を果たしながら自分らしく生き、自己実現を果たそうとする人を育てる

授業づくり振り返りシート

横手支援学校

題材名・ 学級等		指導者名	
-------------	--	------	--

評価基準：4（よい）－3（概ねよい）－2（やや不十分）－1（不十分）

	評価内容	評価
/	(1)本校の教育目標や教育の目指す方向性を理解し、指導・支援に当たっている。	4-3-2-1
授業構想	(1)生徒の興味・関心、認知特性、社会性スキル、学習経験等を多面的に把握している。 (2)学校教育目標等や生徒（保護者）・教師の願いや思いを踏まえ、単元（題材）で育みたい力と目指したい生徒の姿を具体化している。	4-3-2-1 4-3-2-1
単元構想	(1)生徒にとって、分かりやすい流れやゴール（クライマックス）を明確にしている。 (2)他の単元や指導の形態との関連を明確にしている。	4-3-2-1 4-3-2-1
支援方法	(1)空間の構造化（動線、配置、掲示物等）に配慮している。 (2)時間の構造化（開始・終了の時間、活動の順番が見える）に配慮している。 (3)活動の構造化（単元計画や学習の流れが見える）に配慮している。 (4)方法の構造化（活動の手順等）に配慮している。	4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1
基本姿勢	(1)学習ルールが徹底されている。 (2)生徒に伝わりやすい話し方をしている。	4-3-2-1 4-3-2-1
学習活動	(1)学習のめあてが提示されている（生徒が学習のめあてを理解している）。 (2)導入の工夫がされている（短時間で必要な情報が伝えられている等）。 (3)生徒のめあてや教師のねらいを達成するための学習が展開されている。 (4)生徒同士のやりとりの場が設定されている。 (5)まとめの時間が確保されており、生徒が本時の学びを実感できる工夫がある。 (6)T1だけが学習を進めることがないように、役割分担が明確で効果的に機能している。 (7)知識及び技能を獲得するための学習内容である。 【知識及び技能】 (8)主体的に考え、判断したり、表現したりする場面を設定するなどの工夫がある。 【思考力・判断力・表現力】 (9)問題を発見したり、解決方法を探ったりしようとする態度（姿）を引き出す学習の展開や工夫がある。 【学びに向かう力、人間性等】	4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1
成果・評価	(1)題材の中で、生徒の変容を捉え、的確に認めて評価することができた。	4-3-2-1
自由記述	【本時の授業を振り返って】	

単元構想図

◆学校教育目標◆
 一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する

☆めざす児童生徒像☆
 健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒

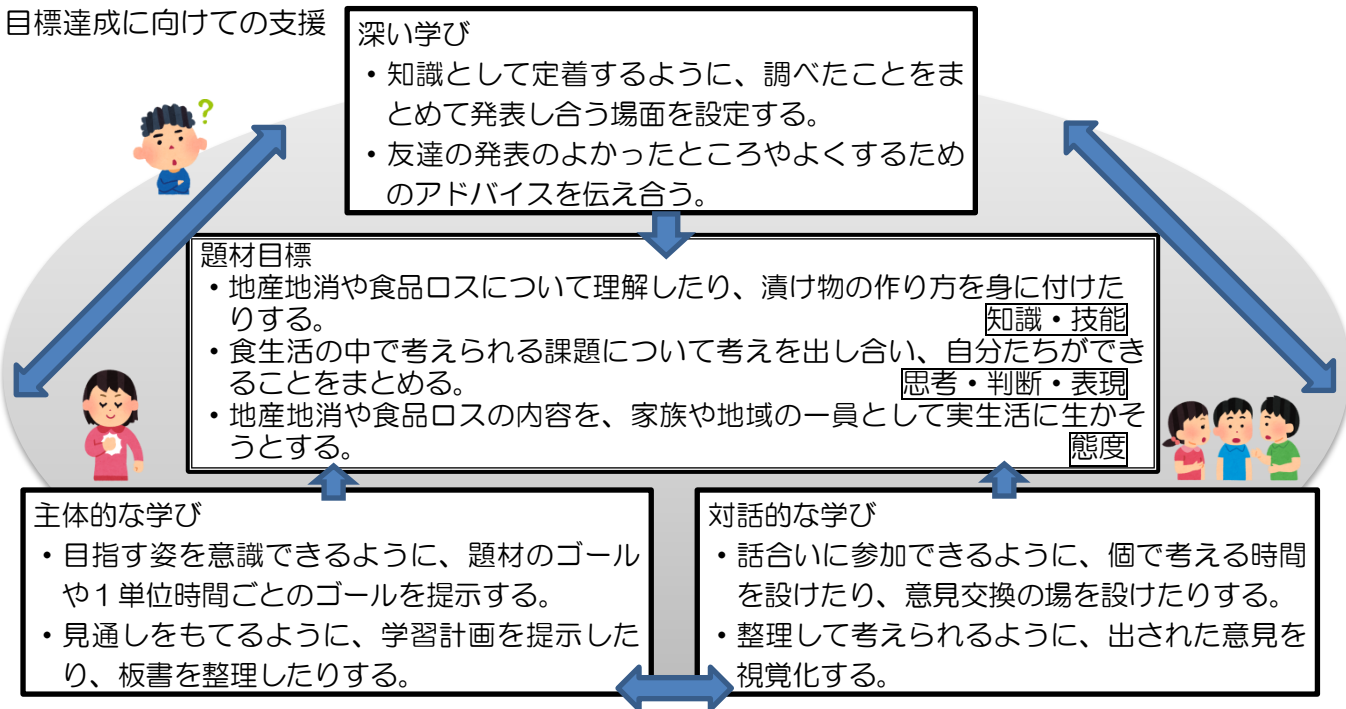
◆生徒（保護者）の思い、願い

◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より

本題材の概要

対象児童生徒	○学部○年 ○グループ	指導の形態	家庭科
題材 単元名	「 」	時数	○時間

題材計画表				
小題材名	学習活動内容	期待する学び	主な目標	時数
日本の食文化	・京野菜と横手の伝統野菜調べ ・横手の伝統野菜についての学習（横手市役所）	国 深	・京野菜と横手の伝統野菜について調べ、よさをまとめる。	4
これからの食生活	・地産地消 ・食品ロスについて	国 深	・食料自給率を上げるために、どんな食生活を心がければよいかを考える。	2
健康に美味しく	・減塩について ・漬け物作りのコツ（浅舞婦人漬物研究会）	国 国 深	・塩加減を考えながら漬け物を作ったり、作り方のコツを覚えたりする。	3
地域の食材を生かす	・地域の食材を生かすための方法についての話し合い	国 国 深	・地域の食材を生かすためにできることを考える。	1



あ と が き

今年度の研究では、小学部では生活科の目標・内容を押さえた生活単元学習、中学部では「職業・家庭科」、高等部では「家庭科」を対象とした授業づくりを行いました。

学びを生かすためには、前提として学習したことの定着が大切です。何を学ぶかを明確にし、学習によって得た知識・技能が断片的にならないよう、昨年度作成した指導内容系統表を活用し、授業実践を通してその妥当性を検証し、改善を行いました。

また、学びを生かす場面について、児童生徒の実態に応じて段階的に活用が広がることを想定した単元計画の作成を行い、次時の授業から他教科、地域での学習といった学習活動の広がりや、個別から学級、全校といった集団への広がりでも活用する場面を設定し、実践的で具体的な経験を積み重ねました。この学びを生かす経験を積み重ねることが、学びを家庭や地域で生かすこと、最終的には自立と社会参加につながると考えています。

これらの取組をより効果的に進めるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行い、これまでの授業づくりから得られた成果や「横手のスタンダード」などの成果物も活用しながら、本校の特色を生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現について、授業実践を通して全職員で検討し、共通理解しました。今後は、居住地での将来生活「働く・暮らす」を見据えた授業づくりを展開し、「遊びからお手伝いへ」、「お手伝いから作業学習へ」、「作業学習から労働の教育」へと、連なるキャリア形成を目指していきたいと考えます。

そのためにも、次年度は、中学部「職業・家庭科」と高等部「家庭科」の接続を意識し、指導が這い回らないよう指導内容表を更に検証するなどしたいと思います。学びを生かすためには、学部間をつなぐ学びの連続性や教科等の結び付きを大切にした教科横断的な学習の展開が必要です。今年度で得た成果を他教科や生活単元学習などの合わせた指導にも反映させ、学びを活用する経験を広げていきたいと思っています。そして、評価の仕方も検討し、今年度の実践が、児童生徒の学んだ内容が他の場面で生きる学びとしてしっかり定着しているか、他教科などで生かされているか、広がりの中で発揮されているかを検討し、検証していきたいと思っています。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり秋田県教育庁特別支援教育課指導班 中村 素子 指導主事、佐々木 朋広 指導主事、秋田県立角館高等学校定時制 大沢 貴子 教育専門監 皆様から、たくさんの御指導、貴重な御助言をいただきました。

また、授業研究会に御参加いただいた県南3校（秋田県立大曲支援学校、せんぼく校、秋田県立稲川支援学校）の皆様からも御意見を頂戴し、授業づくりに生かすことができました。誠にありがとうございました。

併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御意見・御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教頭 松井 克彦

研究に携わった職員（平成30年度）

校長 新井敏彦 教頭 松井克彦 教頭 近田浩治
事務長 富樫一男 教育専門監 佐々木義範

（小学部）

永澤淳子
阿部勢津子
岸英子
熊谷淳晴
高山知子
高照聖子
佐藤深雪
遠山成子
大川浩平
岩井小百合
鶴田美穂
森愛子
菅優子
高橋由衣
高室裕美
高橋真美
高橋健太
菅原哉子
安達美奈子
安達由美子

（研究主任）

（中学部）

時田航
雲雀登喜子
佐貫亜希子
高橋知希子
今野洋美
藤田亜貴子
赤川由美
小西和晴
小熊道大
藤谷淳一
後藤ゆり子
柴田豪子
内藤聖子
伊藤文子
鈴木匠子
柴田愛純
小椋トモ子
赤穂徹

（高等部）

高橋和恵
井上裕子
佐藤恵子
遠藤直子
山田宏博
大川康博
鈴木崇彦
小玉智朋子
鈴木木静香
高橋亜希子
近澤めぐみ
金佐々木貴子
青木真知子
菊池真牧子
鈴木木頭祐
佐々木田菜保
櫻工藤彩
菅原美智
藤澤真由子
佐々木慶明
佐々木隆修
阿部川浩孝
中川母祐子
古関綾子
守屋充敬
妻野聖花
松岡一
谷藤イツ子

発行年月日 平成31年3月22日
発行所 秋田県立横手支援学校
〒013-0064 横手市赤坂字仁坂 105-1
TEL 0182-33-4166 FAX 0182-33-4266 (小・中学部)
TEL 0182-33-4167 FAX 0182-33-4277 (高等部)
Email: yokote-s@akita-pref.ed.jp
<http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp>

